

熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅲ

－ 黒髪北地区 情報ネットワーク館建設に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書 －

2007

熊本大学埋蔵文化財調査室

熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅲ

－ 黒髪北地区 情報ネットワーク館建設に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書 －

2007

熊本大学埋蔵文化財調査室

巻頭図版(1)



1. 0425調査地点遠景

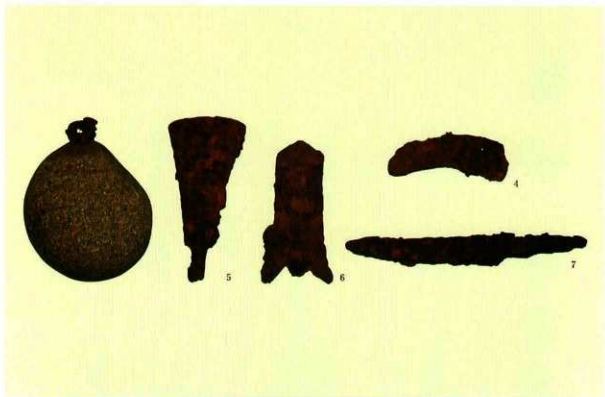


2. 0425調査地点全景(南より)

巻頭図版(2)



3. 0425調査地点 141号ビット出土土器



4. 0425調査地点出土遺物(石権・鉄器)

序 文

熊本大学の黒髪キャンパスは、白川の河岸段丘の上であり、縄文時代以来人々の生活の場所であった。その歴史ある土地にも、年ごとにキャンパス整備が進み、このたび情報ネットワーク館が新設されることになった。これに先立ち、熊本大学埋蔵文化財調査室によって予定敷地（約30×35m）を対象に発掘調査が行われ、興味深い考古学的結果が明らかになった。今回、その最終報告書を出版するに当たり、調査室の教職員はじめ所轄の施設部の職員諸氏の労を多とするものである。

掘り出された遺構と遺物は、縄文時代の土器や石器を含め、おもに8～9世紀の竪穴住居30軒、掘立柱建物2棟、溝6条などで、ここに奈良時代から平安時代にかけての集落が存在したことが明らかになった。過去の調査記録をあわせると、当時黒髪キャンパスの場所には、教育学部付近から工学部裏の白川の渡し場や駅を経て、熊本市国府の国府に至る官道が、南北に通っていたと推定されるので、今回の集落もおそらくそれに伴う一連の集落と考えられている。同じ黒髪北地区のくすのき会館地点（9407調査地点）で出土した、駅家を想起させる「馬」と刻書された土器や、土製の馬などの出土遺物も、これを裏付けているかのようである。

熊本大学は前身を旧制第五高等学校（五高）とするが、五高が創立された明治20年頃までは、黒髪キャンパス一帯は黒髪村と呼ばれ、その創立時の写真によると、周辺は一面の畑地であった。今回の発掘場所は、五高時代には東光原（とうこうげん）と呼ばれ、将来の校舎建設を見越して残していたと思われる場所で、学生たちが散策を楽しむような原っぱだったようである。新制大学になると、昭和40年代までは東光会館と呼ばれる木造平屋建ての学生用食堂だけが建っていた。現在、周囲には附属図書館や放送大学が新築され、そうした敷地の余裕もなくなってきた。

埋蔵文化財調査室は、校舎の新築工事を含めあらゆる工事に先立って、熊本大学の敷地に眠る考古遺物や遺構を調査することを任務としている。工事によって結果的に失われる遺構の記録保存と、出土遺物の整理や研究を行ない、その成果を出版物等によって広く市民や学界に情報公開する役割を担っている。今後学内の建物整備が行なわれると予想されるが、埋蔵文化財に対する関心が益々高まり、学内各機関、各位のご理解とご協力が得られるようお願いする。

平成19年3月1日

熊本大学埋蔵文化財調査委員会

委員長 伊藤 重剛

例 言

1. 本書は、国立大学法人熊本大学黒髪北キャンパスで熊本大学埋蔵文化財調査室が実施した、情報ネットワーク館建設に伴う発掘調査の報告書である。
2. 本調査は、熊本大学埋蔵文化財調査室での調査・整理番号は0425であり、略記号として「KKN0425」を使用する。また、ビル本体部分の調査終了後に、配管・外構関係の立会調査（情報ネットワーク館設備・外構工事）を行っているが、それぞれ同様に、「KKN0525地点」「KKN0538」「KKN0546調査地点」とする。

3. 遺構番号は遺構の種類を問わず、検出順に通し番号で付けている。
4. 本書に使用した遺構実測図の一部は、㈱アイシン精機の遺構実測支援システム「遺構くん」を用いて作成した。座標は構内に既設の測量点を使用し、国土地理院の国土座標系（日本測地系）に依り、特に示さない限り、示した北は真北である。

なお、住居実測図の一部とセクション・断面図は手実測で行い、荒田敬介・今村明美・江頭俊介・大坪志子・椎葉博昭・榎佳克・前田和子・松本和徳・南健太郎・三好栄太郎が作成した。

5. 本書に使用した遺物実測図は、榎が作成し、一部を平野直己・森貴教が作成した。
6. 本書に使用した図版の製図は榎が行い、一部、清水恒志・高椋浩史・高松あゆみ・淵崎奈緒美の補助を得た。なお一部では、㈱アイシン精機の遺構実測支援システム「遺構くん」を使用した。
7. 本書に掲載した現場写真・遺物写真は榎が撮影し、現地での空中写真は㈱スカイサーベイ九州に委託し、平成17年5月27日に実施した。
8. 本書で使用した遺物観察表は榎が作成し、現場での土色と土器の色調の記録・記載では、農林水産省農林水産会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修「新版標準土色帳（2002年度版）」を使用した。

9. 本書に掲載した出土遺物および記録類は、熊本大学埋蔵文化財調査室で保管・収蔵している。現場写真の整理は前田知聖（埋蔵文化財調査室事務補佐員；当時）が行った。
10. 調査に関わって、以下の機関および方々に御指導・御教示・御協力を得た。

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本大学文学部考古学研究室、㈱埋蔵文化財サポートシステム熊本支店、荒木隆宏（玉名市教育委員会）池田朋生（熊本県教育委員会）、伊藤重剛（熊本大学工学部）岡本真也（熊本県教育委員会）、木村龍生（熊本県教育委員会）、木下尚子（熊本大学文学部）、杉井健（熊本大学文学部）高木恭二（宇土市教育委員会）、田口清行、田中康雄（玉名市教育委員会）谷口武範（宮崎県教育委員会）、永井煎（中央町文化財専門委員）、前田耕輔（佐賀県教育委員会）三澤純（熊本大学文学部）安武寛文（把木町役場）渡辺一徳（熊本大学教育学部）

※以上、所属は当時のもの。敬称略・五十音順。

11. 発掘調査及び本書の執筆・編集は、熊本大学埋蔵文化財調査室で、室長・各調査員の指導のもと、前田知聖・中川木綿子（埋蔵文化財調査室事務補佐員）の補助を受け、榎佳克が行った。

本文目次

I	調査地点周辺の概要	3
II	情報ネットワーク館本体工事に伴う発掘調査の概要 (0425調査地点)	7
	(1) 調査地と調査の経緯・経過	7
	(2) 調査の組織	8
	(3) 調査区の基本層序	8
	(4) 調査区の概要	9
	(5) 検出遺構	12
	(6) 出土遺物	38
	(7) まとめ	63
III	情報ネットワーク館周辺での発掘調査の概要	
	1. 情報ネットワーク館事前工事に伴う立会調査 (0425調査地点)	67
	2. 情報ネットワーク館設備工事に伴う発掘調査 (0525地点)	68
	3. 情報ネットワーク館設備工事に伴う立会調査 (0538地点)	69
IV	末文	72

挿 図 目 次

図1 黒髪北地区	図11 198号竪穴住居址実測図
本報告調査地点の位置	(S = 1/60)
3	20
図2 本報告での調査地点配置図	図12 35号竪穴住居址実測図
4	(S = 1/60)
図3 0425調査地点調査区土層図	21
(S = 1/80)	図13 101号竪穴住居址実測図
10	(S = 1/60)
図4 0425調査地点遺構配置図	21
(S = 1/200)	図14 209号竪穴住居址実測図
11	(S = 1/60)
図5 2号溝・103号溝実測図	22
(S = 1/100)	図15 133・134号竪穴住居址実測図
12	(S = 1/60)
図6 3号溝・7号溝・20号溝・96号溝実測図	23
(S = 1/100)	図16 183・184号竪穴住居址実測図
14	(S = 1/60)
図7 1号竪穴住居址実測図	24
(1/60)	図17 131号竪穴住居址実測図
16	(S = 1/60)
図8 37号竪穴住居址実測図	25
(S = 1/60)	図18 200号竪穴住居址実測図
17	(S = 1/60)
図9 4・5号竪穴住居址実測図	27
(S = 1/60)	図19 139号竪穴住居址実測図
18	(S = 1/60)
図10 36号竪穴住居址実測図	28
(S = 1/60)	図20 132号竪穴住居址実測図
19	(S = 1/60)
	28

図21	56号竪穴住居址実測図 (S=1/60)	29	図35	0425調査地点出土土器③ (竪穴住居址出土・S=1/4)	43
図22	192号竪穴住居址実測図 (S=1/60)	29	図36	0425調査地点出土土器④ (竪穴住居址出土・S=1/4)	45
図23	215号竪穴住居址実測図 (S=1/60)	30	図37	0425調査地点出土土器⑤ (溝状遺構・土坑・ピット出土・S=1/4)	47
図24	218号竪穴住居址実測図 (S=1/60)	30	図38	0425調査地点出土土器⑥ (土坑・ピット出土・S=1/4)	48
図25	85号竪穴住居址実測図 (S=1/60)	32	図39	0425調査地点出土土器⑦ (包含層出土・S=1/4)	50
図26	128号竪穴住居址(128西・128北) 実測図(S=1/60)	33	図40	0425調査地点出土土器⑧ (包含層出土・S=1/4)	51
図27	246号竪穴住居址実測図 (S=1/60)	34	図41	0425調査地点出土石器実測図.....	52
図28	98号竪穴住居址実測図 (S=1/60)	34	図42	0425調査地点出土鉄器実測図 (S=1/2)	53
図29	90号竪穴住居址実測図 (S=1/60)	35	図43	0425調査地点出土縄文土器実測図 (S=1/4)	54
図30	74号竪穴住居址実測図 (S=1/60)	35	図44	0425調査地点出土石器(縄文時代)実測図 (S=1/2)	55
図31	掘立柱建物実測図(S=1/160)	36	図45	情報ネットワーク館事前工事掘削区 土層図(S=1/40)	67
図32	141号ピットと出土須恵器	37	図46	0525地点包含層出土遺物実測図 (S=1/2)	68
図33	0425調査地点出土土器① (竪穴住居址出土・S=1/4)	39	図47	0538地点柵部分調査区土層図と 出土土器.....	70
図34	0425調査地点出土土器② (竪穴住居址出土・S=1/4)	41			

写真目次

巻頭図版(1)

- 0425調査地点遠景
- 0425調査地点全景(南より)

巻頭図版(2)

- 0425調査地点 141号ピット出土土器
- 0425調査地点出土遺物(石楯・鉄器)

写真1	調査前風景(南より)	75
写真2	一次掘削風景(西より)	75
写真3	包含層(Ⅲ層)検出状況(東より)	75
写真4	1号竪穴住居址(南より)	75

写真5	1号竪穴住居址竈遺物出土状況 (南より).....	75
写真6	1号竪穴住居址竈燃焼面検出状況 (南より).....	75
写真7	1号竪穴住居址竈東側検出の大礫 (南より).....	75
写真8	37号竪穴住居址遺物出土状況 (南より).....	75
写真9	37号竪穴住居址竈検出状況 (東より).....	76

写真10	37号竪穴住居址竈支柱検出状況 (南東より).....	76	写真33	200号竪穴住居址竈検出状況 (東より).....	79
写真11	4号竪穴住居址(南より).....	76	写真34	200号竪穴住居址遺物検出状況 (東より).....	79
写真12	4・5号竪穴住居址東西土層 (北東より).....	76	写真35	132号竪穴住居址(東より).....	79
写真13	4・5号竪穴住居址遺物出土状況 (北より).....	76	写真36	132号竪穴住居址竈検出状況 (東より).....	79
写真14	36号竪穴住居址(東より).....	76	写真37	85号竪穴住居址(南より).....	79
写真15	36号竪穴住居址竈検出状況 (西より).....	76	写真38	85号竪穴住居址竈検出状況 (南より).....	79
写真16	36号竪穴住居址竈遺物出土状況 (西より).....	76	写真39	85号竪穴住居址竈礫検出状況 (南より).....	79
写真17	198号竪穴住居址(西より).....	77	写真40	98号竪穴住居址完掘状況 (南より).....	79
写真18	35号竪穴住居址遺物出土状況 (西より).....	77	写真41	128号竪穴住居址(南より).....	80
写真19	35号竪穴住居址西壁ピット鉄鏝 出土状況(東より).....	77	写真42	128号竪穴住居址北竈検出状況 (東より).....	80
写真20	35号竪穴住居址土師器出土状況 (北東より).....	77	写真43	128号竪穴住居址西竈検出状況 (東より).....	80
写真21	101号竪穴住居址(南西より).....	77	写真44	246号竪穴住居址(南より).....	80
写真22	209号竪穴住居址(南より).....	77	写真45	246号竪穴住居址竈完掘状況 (南より).....	80
写真23	133・134号竪穴住居址完掘状況 (南より).....	77	写真46	246号竪穴住居址竈支柱検出状況 (東より).....	80
写真24	133号竪穴住居址竈検出状況 (東より).....	77	写真47	313号竪穴住居址検出状況 (南より).....	80
写真25	134号竪穴住居址竈(東より).....	78	写真48	90号竪穴住居址(南より).....	80
写真26	183・184号竪穴住居址検出状況 (東より).....	78	写真49	56号竪穴住居址(南より).....	81
写真27	183号竪穴住居址遺物出土状況 (北より).....	78	写真50	56号竪穴住居址竈検出状況 (南より).....	81
写真28	184号竪穴住居址完掘状況 (南より).....	78	写真51	56・215・218号竪穴住居址 (南より).....	81
写真29	131・132号竪穴住居址 (上より、下が南).....	78	写真52	215号竪穴住居址竈(南より).....	81
写真30	131号竪穴住居址床面下粘土検出状況 (南より).....	78	写真53	215号竪穴住居址竈燃焼面検出状況 (南より).....	81
写真31	139号竪穴住居址(南より).....	78	写真54	218号住居址竈付近遺物出土状況 (南より).....	81
写真32	139号竪穴住居址西側焼土検出状況 (東より).....	78	写真55	192号竪穴住居址(南より).....	81
			写真56	192号竪穴住居址竈検出状況 (東より).....	81

写真57	192号竪穴住居址庵粘土 (南より)……………	82	写真74	132・131・200号竪穴住居址 出土土器……………	87
写真58	74号竪穴住居址(南より)……………	82	写真75	139号竪穴住居址出土土器……………	88
写真59	74号住居址竪(東より)……………	82	写真76	128号竪穴住居址出土土器……………	88
写真60	3・7・96・20号溝(南より)……………	82	写真77	98・324・325・246・90号竪穴住居址 出土土器……………	89
写真61	7号溝鉄鍍出土状況(西より)……………	82	写真78	56号竪穴住居址出土土器……………	89
写真62	103号溝完掘状況(東より)……………	82	写真79	215号竪穴住居址出土土器……………	90
写真63	103号溝西ベルト土層 (西より)……………	82	写真80	218号竪穴住居址出土土器……………	90
写真64	IV層上面縄文土器出土状況 (西より)……………	82	写真81	74号竪穴住居址出土土器……………	90
写真65	141号ピット土器出土状況 (東より)……………	83	写真82	7号溝出土土器……………	90
写真66	141号ピット土器出土状況 (東より)……………	83	写真83	103号溝出土土器……………	90
写真67	1号掘立柱建物跡 (上より下が南)……………	84	写真84	101号竪穴住居址北側出土土器……………	90
写真68	1号掘立柱建物跡(南より)……………	84	写真85	ピット・土坑出土土器……………	91
写真69	1号竪穴住居址出土土器……………	85	写真86	包含層出土土器 (黒色土器・土師器・須恵器)……………	91
写真70	37号竪穴住居址出土土器……………	85	写真87	0425調査地点包含層出土土器 (土師器)……………	92
写真71	4・5・36号竪穴住居址出土土器 ……………	86	写真88	0425調査地点包含層出土土器 (土師器)……………	92
写真72	35号竪穴住居址出土土器……………	86	写真89	0425調査地点包含層出土土器 (須恵器)……………	93
写真73	183・184・133・134号住居址 出土土器……………	87	写真90	0425調査地点出土石器(古代)……………	93
			写真91	0425調査地点出土縄文土器……………	94
			写真92	0425調査地点出土石器 (縄文時代)……………	94

表 目 次

表1	0425調査地点出土土器観察表①……………	56	表5	0425調査地点出土土器観察表⑤……………	60
表2	0425調査地点出土土器観察表②……………	57	表6	0425調査地点出土土器観察表⑥……………	61
表3	0425調査地点出土土器観察表③……………	58	表7	0425調査地点出土土器観察表⑦……………	62
表4	0425調査地点出土土器観察表④……………	59	表8	縄文土器観察表……………	63

I 調査地点周辺の概要

本書は、熊本大学黒髪北地区で2005年度に建設された、情報ネットワーク館関連の埋蔵文化財発掘調査に関する発掘調査報告書である。法・文・教育・工・理学部の校舎が設置されている黒髪地区は黒髪町遺跡（熊本市埋蔵文化財地図No 8-88）に含まれる。本遺跡は熊本市中心部のほぼ北東端に位置する立山山（標高151.6m）の南西部の緩斜面に位置し、西は坪井川に形成された沖積面、南を白川河岸の低位段丘とによって囲まれる、東西900m、南北1000mの遺跡群であり、縄文時代から歴史時代に至る遺構・遺物を包蔵している。熊本大学敷地内に所在する遺跡全体の概要は、既刊の埋蔵文化財調査室報告書第1集に詳しいので、そちらを参照されたい（小畑編2003）。ここでは、今回の調査で検出された、縄文時代と古代に関する周辺遺跡やこれまでの成果について、概要を述べる。

縄文時代の遺跡としては、白川の対岸に、渡鹿貝塚や、北久根山式土器の指標遺跡である北久根山遺跡が存在する。熊本大学構内遺跡でも黒髪町遺跡0302地点他で縄文時代草創期末～早期の土器が出土しており、同じく黒髪北地区南西端の9802調査地点においても、押型文土器や縄文時代後期に属する土器が出土している。周辺地域においても、縄文時代の生活の跡が発見されている。

古代の黒髪地区は、文献で推定されていた延喜式にみる「養蚕駅」や、旧飽田郡家の推定地としても注目を集めてきた（木下1975・1995）が、近年ではこれまでの周辺遺跡での発掘成果および文献資料の検討より、済々養高校から本学黒髪地区周辺が飽田郡郡司建部公の居所であり、飽田郡家として比定するなどの積極的な意見が展開されている（鶴嶋1997）。

これらを裏付けるように、黒髪南地区では、9412調査地点で、正字「國」銘の書かれた土製印が出土し、共同溝建設に伴う発掘調査では、「西海道」の一部の可能性が想定される道路状遺構が検出されている。本報告の調査地点が所在する黒髪北地区では、くすのき会館建設時の発掘調査（9407地点）において、「馬」銘の刻書土器・土馬などが出土している。このように、黒髪北キャンパス周辺は先史時代のみならず、古代律令制下の駅伝制を考える上できわめて重要な地域である。

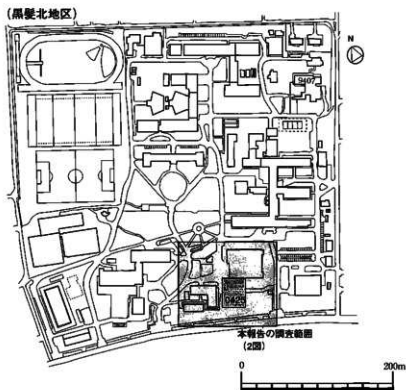


図1 黒髪北地区 本報告調査地点の位置

Ⅱ 情報ネットワーク館本体工事に
伴う発掘調査の概要
(0425調査地点)

(1) 調査の経緯・経過

本調査は、情報ネットワーク館（熊本大学附属図書館南棟・放送大学熊本学習センターの合築）の建設に伴う調査である。今回の発掘調査地点は黒髪キャンパス北地区の東側南端部にあたり、本地は調査開始直前まで駐車場として利用されていた。駐車場となる前には、昭和50年代まで食堂（東光会館）が存在していたとのことであり、それを裏付けるように、調査時には現代の赤瓦片や、ゴミ穴を含む現代の攪乱坑が複数箇所で見られ、その中から大量の食器類や、昭和51年銘のある加工食品の袋などが出土した。

以下に調査の経緯を記す。2004年10月に施設部から埋蔵文化財調査室へ、情報ネットワーク館建設に係る発掘調査の依頼があったが、その他の発掘調査計画から、時期的に熊本大学埋蔵文化財調査室の調査員2名体制では対応できない調査であったため、2005年1月17日より技術補佐員1名を雇用し、本件に係る発掘調査・整理報告を担当させることとした。

当初、情報ネットワーク館は2005年度内に竣工の計画で、工期を逆算すると、5月には着工したいとの要請が施設部よりあった。しかしながら、発掘調査前の事務手続きが完了しておらず、2月初旬に事前の配管工事・樹木移植（0425調査地点）を実施しながら、調査準備を行った。本工事前の配管移設・樹木移植に伴う掘削の立会調査では（詳細は埋蔵文化財調査室年報11を参照）、今回の調査箇所の南端部で、地表より90cmで遺物包含層が良好な状態で残存することが確認された。

2月14日より、建物本体部分（同じく0425調査地点）の一次掘削を開始した。一次掘削時は雨天で作業を中止せざるを得ない日もあり、また現代の大学施設に伴う攪乱も著しく、思いのほか困難であった。北東側では包含層が削平されており、攪乱層直下の地表30cmの深さで遺構面と思われる黄褐色土層が露出した。

一次掘削の目度が付いた2月21日より、業者より派遣を受けた作業員15名～25名の体制で人力による掘削を開始した。発掘作業員は初心者で構成せざるを得ず、また、攪乱も多く当初は調査が難航したが、作業員が慣れるにつれ、その後は順調に調査が進んだ。3月中旬によく包含層の掘削が完了し、3月下旬より古代遺構の調査を開始した。しかし予算措置の関係から、2005年4月以降の一定期間発掘調査ができず、3月31日から5月8日まで1ヶ月弱の調査中止を余儀なくされた。

その後2005年5月9日から発掘調査を再開し、5月27日には堅穴住居址の竈を残して床面以上の調査を完了し、調査区の空撮を行なった。5月の後半から6月にかけて、未調査で残っていた竈の調査を順次行なった。6月初旬には熊本大学文学部の先生方からの依頼により、講義の一環としての現場説明会を3回開催した。その後は、竈の調査と併行して、数箇所深堀りを実施し、下層が無遺物層であることを確認し、6月10日に現地での記録作業を完了させた。なお6月9日には、学内向けの現場説明会を実施した。その後、6月11日に調査事務所プレハブの撤去を行って現場作業を完了した。

7月8日より、情報ネットワーク館ビル建設工事が開始され、この日に情報ネットワーク館の仮進入路スロープ設置工事のため立会調査を実施した（0508地点）。また、ビル建設と併行して、10月半ばから2006年3月にかけて、建物配管・外構工事に伴う立会調査・発掘調査を実施した（0525・0538・0546地点）。情報ネットワーク館は2006年4月に閉館し、現在放送大学熊本学習センター兼図書館分館施設として活用されている。

建物主体部の0425調査地点は、東西約30m、南北約36.5mで、発掘調査の総面積は1065.2㎡である。また、事前工事の掘削による調査面積は160.1㎡、事後の配管・外構工事による掘削範囲は1981㎡である。

(2) 調査の組織

熊本大学埋蔵文化財調査室

室長：甲元眞之（2005年8月まで）、

木下尚子（2005年10月～）

調査員：大坪志子・榎佳克（調査総括）、

事務員：前田知聖、

作業員：

【発掘調査】2005年2月～2005年6月

荒田敬介・飯田和典・石場裕章・稲本佳子・今村結記・内田昌昭・江頭俊介・岡村清貴・岡田イツ代・緒方ちひろ・沖謙介・押方富江・河野義勝・栗崎強・倉員キヨ子・後藤章一・小瀬工洋子・児島良美・児島絵利香・紫垣親男・白石美智子・高田豊・溜淵俊子・鶴田修・仁志正幸・畠田栄一・畑中俊介・林田恵美・林田恵子・早田咲百合・番山明子・平井弥生・開田直・福島暢也・福田久美子・堀川貞子・前田宏一郎・前田日出男・増山洋江・松井昭子・水上順子・南健太郎・三好栄太郎・森川征子・森川護・森田登・山隈博陽・山隈房子・山口舞満・山岸早苗・吉田慶一

【遺物整理・報告書作成】整理作業：2005年10月～2006年3月、報告書作成：2006年度

伊藤千代子・小山正子・古賀敬子・酒水直子・末吉美紀・溜淵俊子・長谷智子・増井弘子・山岸早苗
（以上、敬称略・50音順）

なお、調査終了間近の6月9日には、主に学内を対象とした公開現場説明会を実施したが、広報の方法や説明会の時間設定など、調査担当者に不備な点も多かった。また、調査中には文学部歴史学科の木下尚子教授・杉井健助教授・三澤純助教授より、講義の一環としての発掘調査現場見学の申し出があり、調査中に学生に対する現場説明会を実施した。結果的に100名を越える学生に対し足跡を知ってもらう機会を得ることができ、後日再び見学に来て、熱心に質問を投げかけてくれた学生もいた。構内の埋蔵文化財および埋蔵文化財調査室業務の普及啓発活動により機会となった。感謝申し上げたい。

(3) 調査区の基本層序（図3）

基本層序は、現代の攪乱坑や調査終盤における深掘り区での状況を含めて、調査での掘削深度内で大きくⅠ層～Ⅴ層の5つの層に分層された。うち、Ⅲ層が古代の遺物包含層であり、Ⅲ層下部からⅣa層にかけては古代の遺構・遺物とともに縄文時代の遺物が確認された。古代の遺構の掘り込みはⅢb層上面からであり、縄文時代および旧石器時代の可能性がある遺物はⅢb層からⅣ層上部にかけて古代の遺物とともに出土し、明確な旧石器・縄文時代の遺構は検出されなかった。また、数箇所での深掘りの結果、Ⅳb層より下は無遺物であり、Ⅳb層以下を地山と判断した。

各層の概要は以下の通りである。

Ⅰ層… 駐車場として利用するために敷かれた砂利の層である。現代の陶器等を含む。

Ⅱ層… 黒褐色混砂土層（10YR5/4）。やや硬くしめる。駐車場になる以前の表土層であると思われる。敷砂利や近現代の陶磁器とともに古代の土器等を含む。攪乱層である。

Ⅲ層… 古代の遺物包含層である。Ⅲ層は調査区南側では良好に残存していたが、調査区北側では整地の際に削平を受けたものと思われる、数cmしか残存していない。

a 黒色混砂土層（10YR2/1）。しまりがなく柔らかい。奈良時代～平安時代の遺物を多く含む。

- b 黒色泥砂土層（10YR2/1）で、Ⅲ a 層と比してやや黒い。しまりがなく柔らかい。奈良時代～平安時代の遺物を多く含み、下部ではわずかに縄文後期の土器・石器を含んでいる。
- IV層・・・黄褐色泥砂土層である。今回検出された古代の遺構は、この層の上面で検出されている。
- a 黄褐色泥砂土層（10YR4/3）であるが、Ⅲ層の黒色泥砂土がブロック状に含まれる。IV層とⅢ層の漸移層である。上面からは古代の遺物とともに縄文時代の遺物が検出された。
- b 黄褐色泥砂土層である。この層以下では、掘り下げを行っても遺構の検出・遺物の出土がなく、本調査ではこの層以下を地山と認定した。
- V層・・・黄褐色粘土層の地山である。遺物は確認できなかった。この層の上から25cm～33cmの範囲で、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）と思われる火山ガラス塊を検出している。また、それより下位の、地表より180cmの部分では、始良T n火山灰（AT）の可能性のある火山ガラスが確認された。なお、地表から190cmで阿蘇IV火砕流堆積物と思われる明黄褐色粘土層に達する。（調査区南壁深掘り区での現地観察、本学教育学部渡辺一徳教授のご指示による）

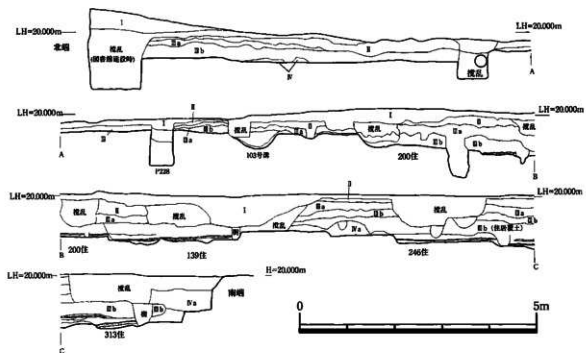
（4）調査区の概要（図4）

本調査区は、熊本大学黒髪北地区南側に所在する熊本大学附属図書館の南隣接地である。白川の2段目の河岸段丘上に位置し、現地地形は駐車場整地のため平坦であるが、旧地形は北東側から南西側に向けて、標高が緩やかに下がっており、北東側では調査地周辺を平坦にする際に削平されていることが調査過程で判明した。地表から包含層であるⅢ層までの深さは調査区北東隅では25cmと浅く、南西部では45cmである。

また、調査区北端部分は、調査区に隣接する附属図書館建設時の掘削により、調査区西端部は隣接して埋設された共同溝により、遺構は破壊されていた。その他、東西方向にはガス・電気・水道の配管が走っており、その箇所も遺構は破壊を受けていた。また、駐輪場などの建物基礎による遺跡の攪乱部分があった。調査区南半部分では、現代の巨大な攪乱坑が3箇所検出され、中には瓦礫や食器・昭和51年銘のある食品の包装などが出土した。

以上のように、調査区は主に大学既存の施設・設備などによって攪乱を多く受けているが、その攪乱を免れた箇所では、遺構や包含層は良好に残存していた。特に調査区南側では、古代の遺物包含層（Ⅲ層）が厚さ20cm程堆積して遺構面であるIV層を保護しており、遺構の残存状況は良好であった。

(調査区東端土層図)



(調査区南端土層図)

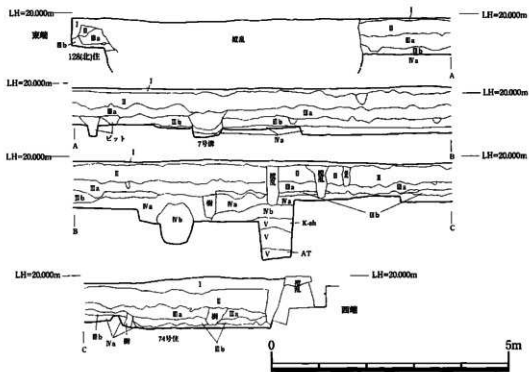


図3 0425調査地点調査区土層図 (S=1/80)

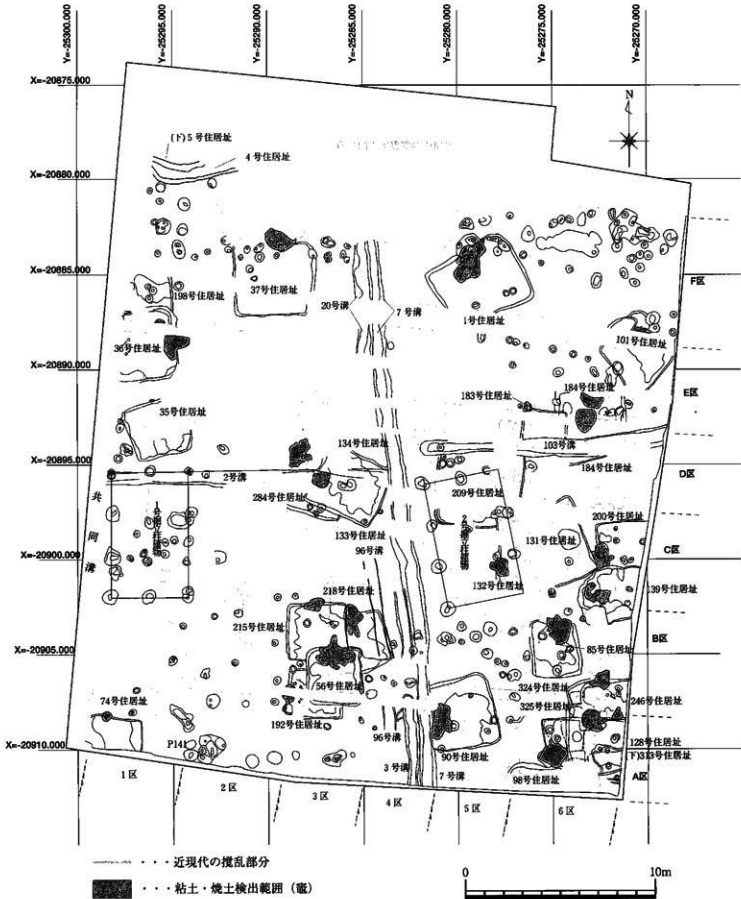


図4 0425調査地点遺構配置図 (S=1/200)

(5) 検出遺構 (図5～32)

今回の調査では、古代の竪穴住居址30軒、掘立柱建物址2棟、溝6条、および多くのピット・土坑が検出された。これらの遺構は、遺物包含層であるⅢ層を掘り下げた後の、Ⅳ層上面で検出された。

竪穴住居址ではほとんどの住居址で、竈ないし竈の痕跡を検出している。特に調査区東側は遺構が密であり、住居が数軒切り合っているものが多く、頻繁な建て替えが行われている。攪乱の著しい箇所では、調査者の不備もあり、前後の切合い関係が不明確となってしまった住居址もあった。

以下に、調査で判明した各遺構の概要について報告したい。

<溝状遺構>

溝状遺構は、調査区全体で6条検出された。全ての溝で、古代に属する土師器・須恵器の小片が出土しており、全て古代に属する溝と判断された。

2号溝 (図5)

調査区西壁から調査区中央部にかけて検出された溝であり、調査区中央部の7号溝付近で収束する。検出した範囲での長さ14m、幅は概ね70cmに復元される。深さは検出面より最大で13cmである。建物の基礎により、溝の大部分は攪乱を受けていたが、埋土より土師器・須恵器が出土している。古代に属する溝である。

103号溝 (図5)

調査区中央部から東方方向へ延びる溝である。調査区内では長さ13mが検出され、調査区外東側に延びている。幅は90cm、検出面からの深さは、調査区東側で25cmであり、西に行くにつれて浅くなり、調査区中央付近で収束する。遺物や土層では2号溝・103号溝共に非常によく似ており、同時存在した可能性がある。なお土層からは、最下層で黒色土とⅣ層の黄褐色粘土のブロックが混在しおり、水の流れた痕跡等は認められない。区画等の機能で掘削された溝と考えられよう。遺物は土師器・須恵器の小片、縄文土器が出土しており、時期は古代に属する。

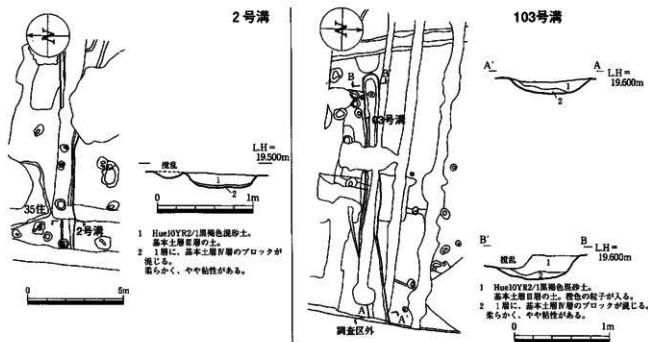


図5 2号溝・103号溝実測図 (S=1/100)

3号溝・7号溝・20号溝・96号溝（図6）

これらの溝は調査区のはほぼ中央から南北方向に向かっている溝であり、重なり合って検出された。溝内からは黒曜石片など縄文時代と思われる遺物も出土しているが、土師器・須恵器の小片が出土しており、溝の時期は古代に属するものと思われる。調査時の状況や土層からは、特に水の流れた痕跡等は確認できなかったため、区画用に掘られた溝と思われる。

3号溝は調査区南半中央部分で南北方向に延びる溝であり、調査区中央部分で収束する。調査区南側では7号溝と重なっており、3号溝の下位より7号溝が検出されている。

7号溝はこれらの中で唯一、南北方向に調査区を縦断する形で検出された溝である。溝幅は北側で1m38cm、南側で73cmであり、検出面からの深さは20cmである。切合い関係からは、調査区北側で20号溝と重なる部分では、土層からも前後関係は判然としなかったが、20号溝が先行しているようであった。調査区南側の3号溝との前後関係では、7号溝埋没後に3号溝が掘られている。なお、7号溝の底面付近からは、土師器・須恵器とともに鉄鏃1点が出土している（図42-6）。

20号溝は調査区北半部で検出された溝である。深さは26cm程度である。幅は約1m、深さは検出面より26cm程度である。

96号溝は調査区南半で検出された溝で、深さは検出面から6cm程の浅い溝である。北に行くに従って浅くなり、北半部分は削平により残存していなかったが、調査区中央部分で収束している可能性もある。埋土からは土師器・須恵器の小片が出土している。

<竪穴住居址>（図7～30）

竪穴住居址は30軒検出した。時期は、竈を有する竪穴住居址である点と、土師器・須恵器などの出土遺物から、すべて古代に属すると判断された。ほぼ全ての住居址で竈ないしその痕跡を確認した。竈は竪穴住居址の北側ないし西側に付設されているが、東側壁に竈を付設する住居（36住）や、住居の北西コーナー部分に付設するもの（183住・139住）が存在した。住居址の切り合い関係から、西側の竪穴住居址が北側の竪穴住居址に先行する傾向が確認でき、住居のコーナーに竈を設置する竪穴住居址はこれらの住居址に後続して建てられたものと考えられる。なお、住居址・溝の切り合い関係を整理すると、下記のようになる。

この竪穴住居址の切り合い関係と、竪穴住居址からの出土遺物に加え、竪穴住居址に設置されている竈の設置方向を参考とすれば、本調査で検出された竪穴住居址は大きく4時期に区分できると考えられた。そこで、以下の報告では、古い順にⅠ期～Ⅳ期という時期を設定して説明する。

【遺構の切り合い関係（古）→（新）】

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| ・5号住→4号住 | ・313住→246住→128（北）住→
128（西）住→98住 |
| ・198号住→36号住 | ・2号掘立→132住→131住 |
| ・134号住→133号住→7号溝 | 139住→200住 |
| ・284号住→133号住→7号溝 | ・90号住→7号溝 |
| ・7号溝→3号溝 | ・218住→215住→56住 |
| ・184号住→183号住→103号溝 | ・192住→56住 |

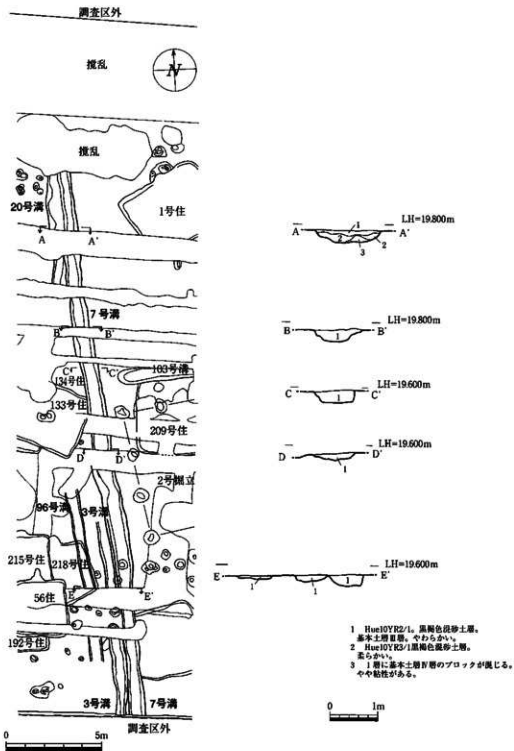


図6 3号溝・7号溝・20号溝・96号溝実測図 (S=1/100)

1号竪穴住居址（図7、出土遺物一図33）

調査区北側で検出した竪穴住居址で、住居の南隅と竈の一部が攪乱を受けているものの、ほぼ全形を知り得た。平面プランは東西4.8m×南北3.9mであり、残存している深さは検出面より約12cmであった。柱穴は住居内南半部で柱穴にあたると思われるピットを2つ検出しており、4本主柱であると考えられる。竈は北壁に付設されていたが、樹木などによる攪乱があり、破壊を受けていた。支柱なども残存しておらず、残存状況は悪いが、燃焼面と思われる橙色の焼土範囲が認められた。また、その近くから検出されたピット（M222）からは、径30cmほどの大礫が出土したが、礫の上位に支脚と須恵器が出土し、1号住以前か同時期かの確認は成し得なかったが、住居築造以前からの礫が存在していた可能性が高いと思われた。

硬化した床面を外して確認した床面下位の住居形成時の掘りこみは、西側がテラス状に一段高くなっていた。土師器・須恵器が出土し、遺物と竈の向きから、時期はI期に属すると考える。

37号竪穴住居址（図8、出土遺物一図33）

調査区北西側で検出した竪穴住居址である。北側に竈を有するが、現代の攪乱により北側が破壊されており、竈の残存状況は悪い。平面形は東西4.1m×南北3.7mの方形を呈する。床面の深さは遺構検出面より16cm程10～15cm程である。主柱穴は精査したが検出できなかった。

竈は住居址北壁に付設されており、北側の煙道部分相当の箇所は攪乱を受けており残存していない。粘土を断ち割って掘り下げていくと、もろい砂岩製の支柱が、立った状態で2本検出された。

遺物は土師器・須恵器がある。上層より甎の破片（図33-18・20）が出土するが、包含層からも同じ個体と思われる土器片や接合する土器片があるため、住居址廃棄後の混入の可能性が考えられる。遺物と竈の向きから、時期はI期に属すると考える。

4号竪穴住居址・5号竪穴住居址（図9、出土遺物一図33）

調査区北西端で検出した。ともに図書館建設および共同溝設置の際の掘削により、大部分が破壊されており、辛うじて一部が検出された竪穴住居址である。

4号竪穴住居址は、平面プランは不明であるが、1辺の長さは南辺で残存部4mを測り、検出面から床面までの深さは約25cmである。床面で硬化面の広がりが見出されたが、柱穴や火処は検出されなかった。時期は土師器・須恵器などの出土遺物より、I期に属すると考えられた。

5号竪穴住居址は4号竪穴住居址の下位で検出した。攪乱のため平面形・規模は不明である。硬化面・柱穴・火処などは、床面がわずかししか残存していなかったため、未検出である。住居址の床面までの深さは、遺構検出面より110cmと深い。時期は切合い関係と出土遺物より、I期に属すると考えられた。

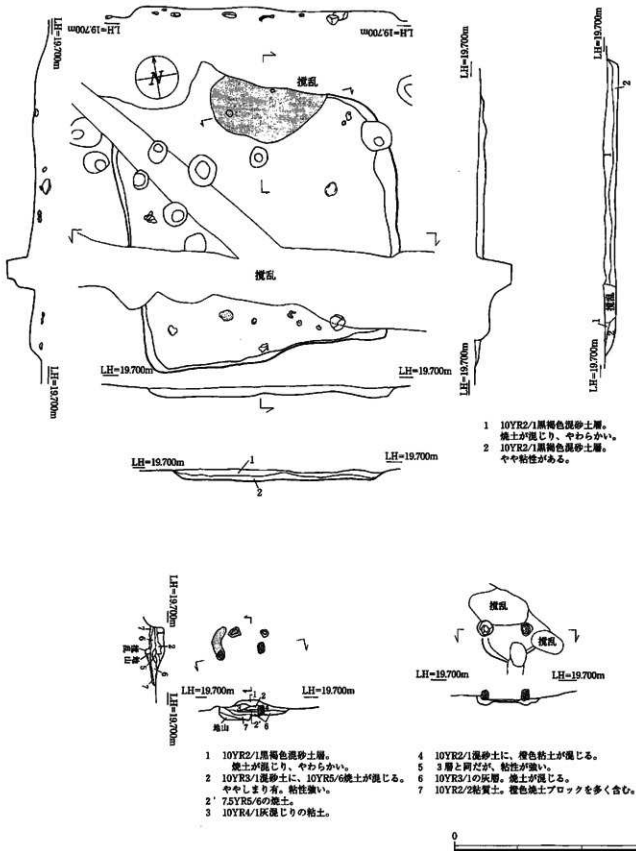


図 8 37号堅穴住居址実測図 (S=1/60)

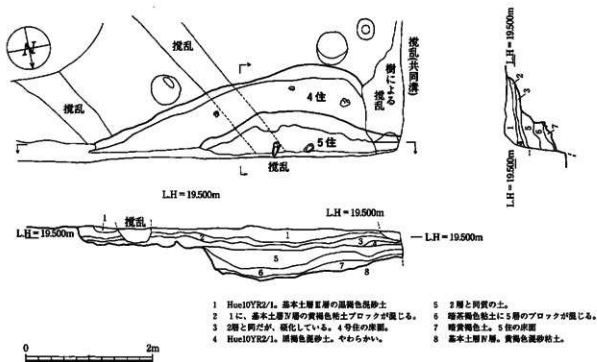


図9 4・5号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

36号竪穴住居址 (図10 出土遺物一図33)

36号竪穴住居址は、調査区西側やや北よりの箇所で見出した。西壁を共同溝建設時の攪乱により破壊されていて全形を知り得ないが、南北壁からは1辺3.8m程度の竪穴住居址であると思われる。主柱穴は精査したが確認できなかった。竪穴住居址の深さは、検出面から25cm程である。切り合いから、36号住居址が隣接して検出された198号住居址に先行する。埋土とともに黒褐色混砂土であったが、198号竪穴住居址に比して、36号竪穴住居址埋土の方がやや白っぽい印象を受けた。

36号竪穴住居址は、本調査区内では唯一、建物東側に竈を持つ竪穴住居址である。竈は北部分が攪乱により破壊された状態で検出し、粘土塊を断ち割りし調査を行った際に、燃焼面と思われる焼土塊を検出したが、支柱などは残存しておらず、住居址廃絶時もしくはその後には破壊されたものと思われる。遺物は土師器・須恵器が出土しており、Ⅱ期に属する。

198号竪穴住居址 (図11)

198号竪穴住居址は36号竪穴住居址の北側で見出した。住居址北壁と西壁は攪乱により、また、南壁は36号竪穴住居址により破壊を受けていて残存していなかった。そのため、全形の詳細は知り得ない。竪穴住居址の深さは検出面から10cm程であった。主柱穴は精査したが検出できなかった。

竈は調査区内には存在しなかったが、竪穴住居址床面直上で焼土塊が確認されていることから、西側ないし南側に竈を持つ可能性が考えられる。198号住居址でも土師器・須恵器の小片が出土しており、198号住居址の時期は、36号住居址との切り合い関係からⅠ期ないしⅡ期に属すると考えられる。

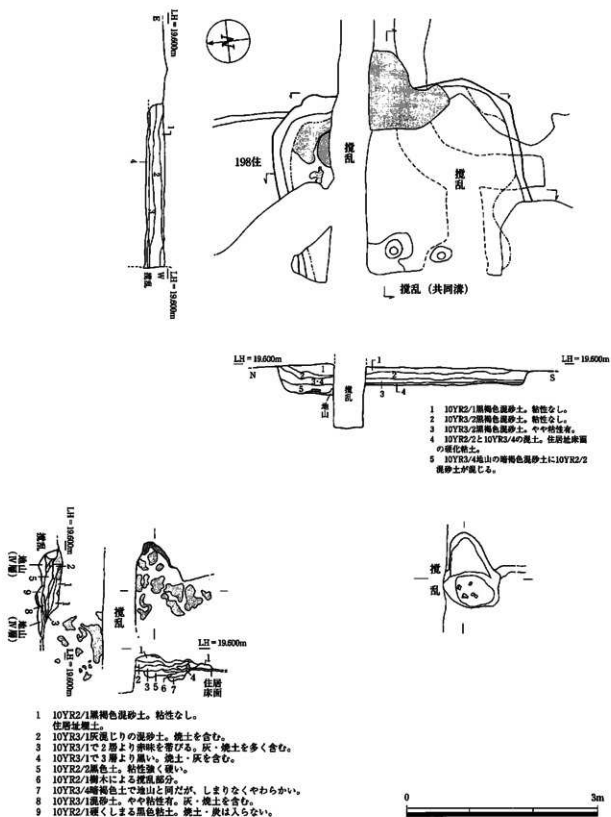


図10 36号竪穴住居址発掘図 (S=1/60)

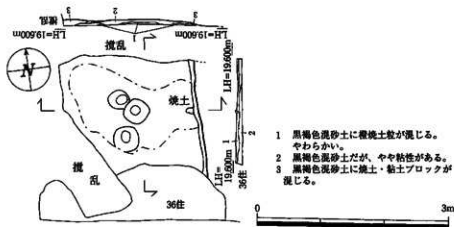


図11 198号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

35号竪穴住居址 (図12 出土遺物一図34)

調査区の西側で検出した。平面プランは東西2.9m×南北2.9mであり、正方形の平面形を呈する。床面の深さは、検出面より20cmである。住居址北東部分は配管と樹木により攪乱を受けており、住居址の約半分は攪乱を受けている状況であった。住居址北壁に当たる箇所では、調査終盤に赤褐色の焼土塊が検出された。このことから、攪乱を受けて残存していないが、北壁に竈を有していた可能性が高いものと思われる。柱穴は精査を行ったが、検出することができなかった。床面では攪乱を受けていない箇所では硬化した床面が検出されている。床面までの深さは、遺構検出面から18cm程である。火処は、攪乱を受けている住居北壁相当部分で橙色の焼土塊が調査終盤に検出され、北側攪乱部に竈が存在した可能性が高いと考えられた。

なお、35号住居址西壁部分の住居検出面に近い箇所からは、鉄鏝(図42-5)が出土し、当初は住居址覆土層出土と考えていたが、別のビット(189号ビット)が住居址西壁を切っていることが判明し、鉄鏝はこのビットに伴っていることが確認された。その他、磁石(41図3)が出土している。時期は、Ⅱ期であると考えられる。

101号竪穴住居址 (図13)

調査区北東側で検出した竪穴住居址であるが、北東部分では包含層が削平を受けており、攪乱も多く、辛うじて床面までの深さ5cm程が残存していたに過ぎない。平面形は南東-北西で3.4m、南西-北東で3.2mである。床面には硬化した部分が確認された。北東側で焼土塊が確認され、北竈の可能性が強いが、配管や樹木による攪乱で破壊されており詳細は不明である。遺物は、腐化に耐える資料はないが、土師器・須恵器の細片が出土している。なお、竪穴住居址に伴うかは不明であるが、住居址北側で黒色土器塊が出土している(38図187)。古代の竪穴住居址であるが、時期は根拠に乏しく判然としない。

209号竪穴住居址 (図14)

調査区中央よりやや東側で検出したが、住居址の北端は103号溝に切られている。配管・建物基礎等の攪乱で破壊された部分が多かったものの、4隅が残存しており、概ね平面形は把握できた。平面は東西方向で4.5mを測り、南北方向は北壁が残存していないが、4.0m前後と推定される。

床面までの深さは、遺構検出面より約12cmである。溝と攪乱で北壁が残存せず、北側に竈が付く可能性が考えられるが、掘前時には、住居址埋土に焼土粒が確認されるものの、焼土塊等は検出されなかった。遺物は覆土中より土師器・須恵器の小片が出土しており、竪穴住居址の時期は古代に属すると考えられるが、詳細な時期は判然としなかった。

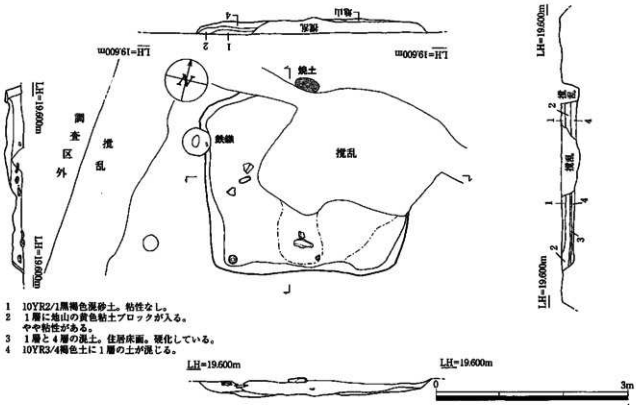


図12 35号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

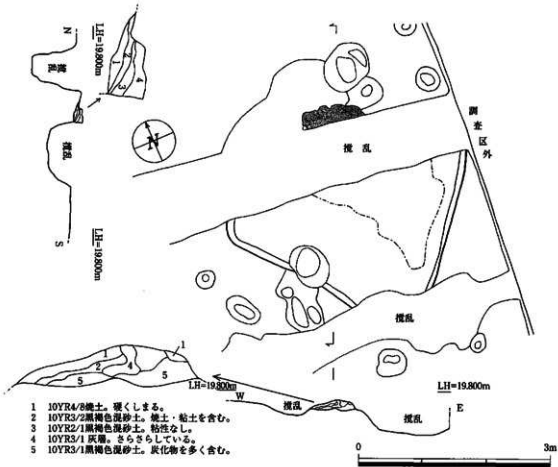


図13 101号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

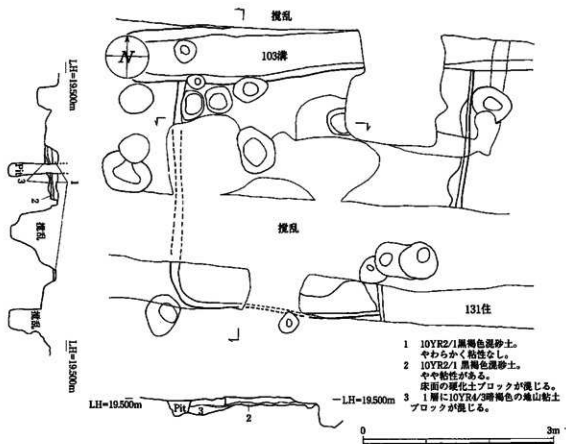


図14 209号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

133・134・284号竪穴住居址 (図15 出土遺物一図34)

調査区中央部分で検出した竪穴住居址である。この箇所は攪乱も多く、住居址の認定は困難であったが、最終的に3軒が切り合っていると判断された。切り合い関係は133号住居址がもっとも新しく、134号竪穴住居址と284号竪穴住居址が後続すると考えられるが、133号竪穴住居址覆土掘削時に134号竪穴住居址付近で硬化ブロックが検出されたこともあり、前後関係はやや不安要素もある。

133号竪穴住居址は攪乱箇所が多かったが、北西部分の床面は良好に残存していた。平面形は東西方向3.6m、南北方向3.4mである。住居北西側の壁面に竈が付設されている。時期は遺物よりI期である。

134号竪穴住居址は183号竪穴住居址に隣接して検出された竪穴住居址で、壁面は攪乱および隣接する7号溝・183号竪穴住居址によって破壊されており、残存しなかった。そのため、平面形や規模は判然としない。床面相当箇所では住居検出面全体が硬化しており、竪穴住居址であることは間違いないものと思われた。柱穴等は精査を行ったが、遺構残存部分では検出できなかった。なお、床面までの深さは、遺構検出面より25cmである。遺物は古代の土師器・須恵器が出土している。時期は根拠に乏しく判然としない。

284号竪穴住居址は133号竪穴住居址の南・西側で検出された竪穴住居址で、133号竪穴住居址と攪乱により大部分が残存していない。調査区西壁には竈が付設されている。平面形は残存状況が悪く、規模等の詳細を知り得ないが、東西3m、南北4m程度の竪穴住居址であると考えられる。出土遺物は図示できるものを欠くが、覆土中より古代の土師器・須恵器が出土し、133号住居址との切り合い関係から、I期ないしII期の竪穴住居址と判断した。柱穴は検出できなかった。

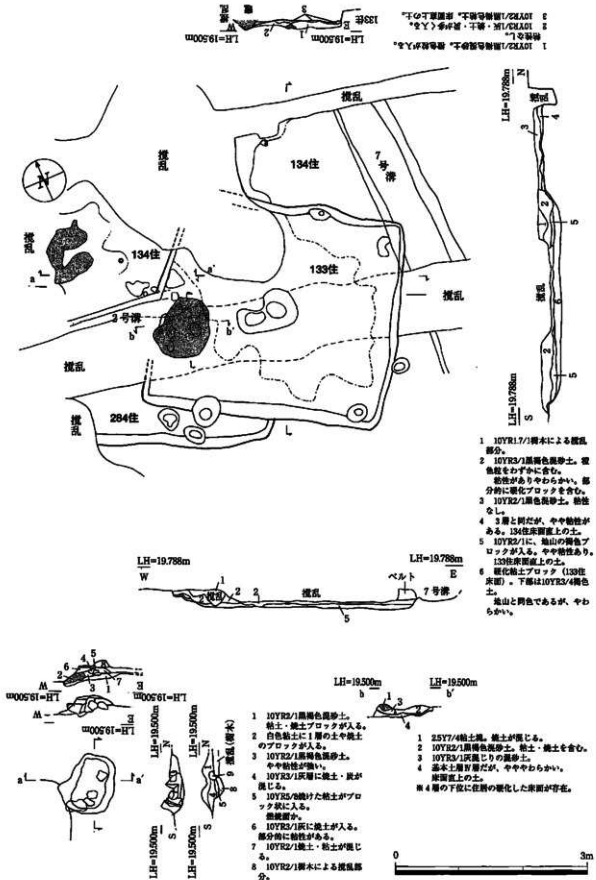


図15 133・134号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

183号・184号竪穴住居址 (図16 出土遺物一図34)

調査区東側で検出した竪穴住居址であり、共に一部を103号溝により切られている。また、183号住居址により、184号住居の一部が切られている。

183号住居跡の覆土は、黒褐色泥砂土にIV層の粘土ブロックが混じっていた。1辺2.5mの小形の住居跡である。柱穴は精査したが検出できなかった。住居址北西の角部分に竈が存在していたが、掘削時は別遺構と考えており、掘り下げた後に焼土と支柱を検出し、住居の竈であることが判明した。床面の深さは検出面より約20cmである。時期は、出土遺物と竈の位置から、IV期に属すると考える。

184号住居址は、南北壁のほとんどが攪乱で破壊されていたが、東西幅は3.5mの竪穴住居址である。掘り下げ時には北側部分で粘土塊が検出され、北側に竈があった可能性が高いものと思われた。主柱穴は精査したが検出できなかった。床面の深さは検出面より約15cmである。時期は出土遺物より、III期である。

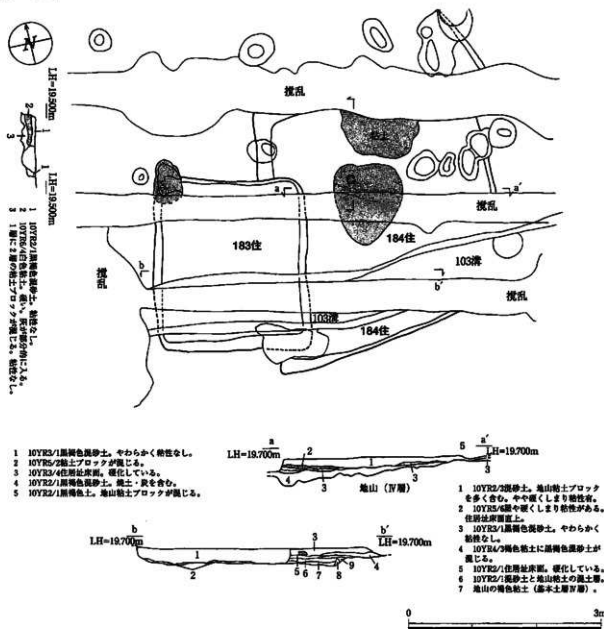


図16 183・184号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

131号竪穴住居址 (図17)

調査区東側で検出した竪穴住居址である。検出箇所周辺は現代の攪乱が多く、残存状況は良好ではなかったが、概ね東西4.0m、南北4.0mの竪穴住居址に復元される。床面は検出面より深さ20cmであるが、攪乱を受けている箇所では床面は破壊されていた。主柱穴も精査を試みたが、検出できなかった。住居址残存部北側では粘土塊が数箇所検出される事から、残存していない北壁部分に竈が存在していた可能性が高いと判断された。遺物は覆土中より土師器・須恵器の小片が出土している。時期はⅢ期である。

なお住居址床面下位を掘り下げた際に、住居址中央東よりの部分の床面下位から直径60cm程の白色の粘土塊が検出されている。131号竪穴住居址以前の遺構に伴う可能性がある。

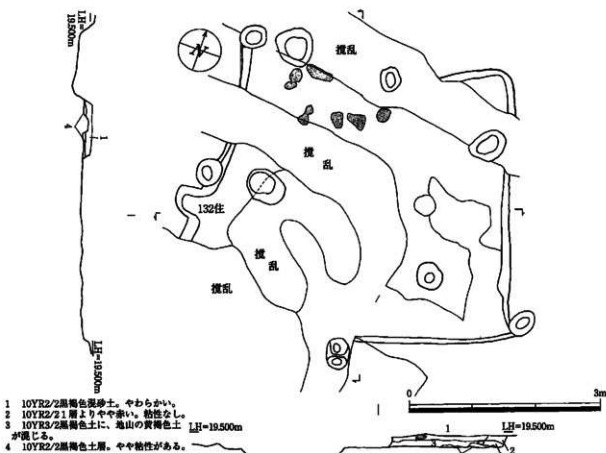


図17 131号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

139・200号竪穴住居址 (図18・19 出土遺物一図35)

調査区東端で検出した竪穴住居址で、切り合い関係から139号竪穴住居址の方が新しい。

139号住居址は、南北長2.8mで、東側は調査区外に延びている。南西部分を現代の攪乱により破壊されているが、調査の当初に、この攪乱箇所掘削中に、焼土と共に完形の土師器坏が出土していた(図35-93)。その後の調査で、その箇所では139号住居址竈の一部が破壊されていることが判明し、この土師器坏も139号住居址に伴う可能性が高いと考えられた。床面は硬化しており、検出面より深さ28cmである。主柱穴は確実なものは検出できなかった。なお、床面掘削後の床面下位で粘土塊が検出されたが、住居址以前の遺構に伴うかどうかは判然としなかった。時期は出土遺物と竈位置よりⅣ期と考えられる。

200号竪穴住居址は139号住居址の北側に隣接して検出し、南側は139号住居址により破壊されており、竪穴住居址東半部分は調査区外に延びている為、竪穴住居址の規模等については明らかにできなかった。残存部で東西幅2.6m、南北幅2.5mを測る。主柱穴は精査したが、明確なものを捉えることはできなかった。

竈は竪穴住居址西壁に付設されており、粘土塊中からは燃焼面と思われる橙色の焼土塊も検出され、完形の須恵器坏が伏せた状態で検出されている。支柱と思われる、もろい砂岩の礫も残存していたが、煙道相当箇所は131号住居址により破壊を受けていた。時期は出土遺物よりⅣ期であると考える。

132号竪穴住居址 (図20 出土遺物一図34)

131号竪穴住居址の西側で検出された。現代の攪乱と131号住居址で大半部分が破壊されており、平面形等は不明である。住居址西壁に竈を有する。残存部位では住居址の主柱穴は検出されなかった。攪乱のため直接的な切り合い関係は存在しなかったが、131号竪穴住居址より高い位置にあり、131号住居址の覆土掘削時には132号竪穴住居址の床面が検出されなかったので、131号住居址以前に存在していた竪穴住居址と考えられる。なお、床面下位より2号掘立柱建物の柱穴の1本が検出されていることから、2号掘立柱建物に後続し、切り合い関係から131号竪穴住居址より先行する。遺物は土師器・須恵器の小片が出土している。時期は切り合い関係と遺物・竈の向きからⅢ期と考えられた。

56・192・215・218号竪穴住居址 (図21~24 出土遺物一図36)

調査区中央部南側で検出した竪穴住居群であり、4軒が重なっていて、前後関係は土層から、古い順に218住→215住→56住かつ、192住→56住であると判断された。

56号住居址は、この住居址群のなかで最後に建てられた竪穴住居址である。北側に竈を有し、Ⅲ層掘削時より住居址北側には煙道部分にあたる焼土塊が検出されており、竈の煙道部分の残存は、本調査区内では最も良好であった。埋土を下げていくと、竈部分では粘土塊が検出されたが、支柱等は残存しておらず、住居廃絶時における竈の破壊の可能性が考えられた。

215・218号住居址は56号住居址北側で検出された住居址で、当初埋土からは前後関係が判然としなかったが、土層および床面の検出状況から、215号住居址が218号住居址の後に建てられたことが判明した。

215号竪穴住居址は北側に竈を有し、燃焼面と思しき橙色の焼土範囲が確認された。竈付近では共に鍋の破片が出土している。その他、215住では、磨石と思われる石器(図41-5)が出土している。

218号住居址は、215号住居址東側に隣接して検出された竪穴住居址で、大半を215号住居址と56号住居址に破壊されているが、北壁に竈を有し、竈では燃焼面と思しき橙色の焼土範囲が確認された。竈付近では土師器の甕(図36-143)が出土している。主柱穴は2本検出され、検出位置から4本主柱の可能性が高いと考えられる。時期は56号住がⅢ期、215住がⅡ期、218号住がⅠ期に属すると考え

る。

192号住居址は、大半が56号住居址により残存していない。平面形は東西3.0m、南北2.5mに復元される。住居址西側やや南よりの位置で竈の痕跡と思われる粘土・焼土塊が検出されたが、現代の配管に伴う攪乱により破壊を受けていた。主柱穴は検出できなかった。時期は出土遺物と切り合いから、II期である。

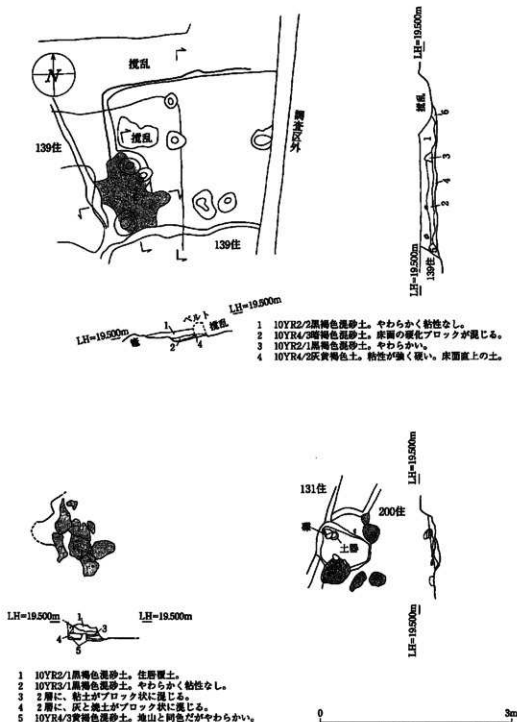


図18 200号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

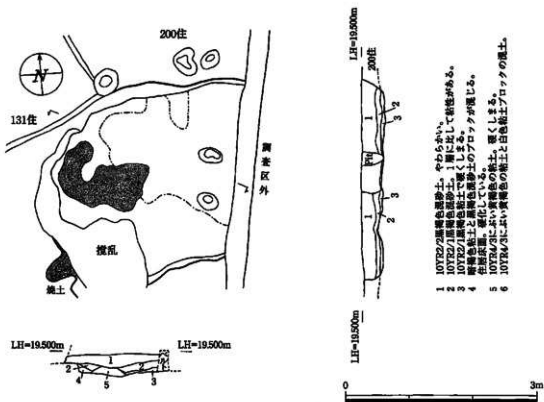


図19 139号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

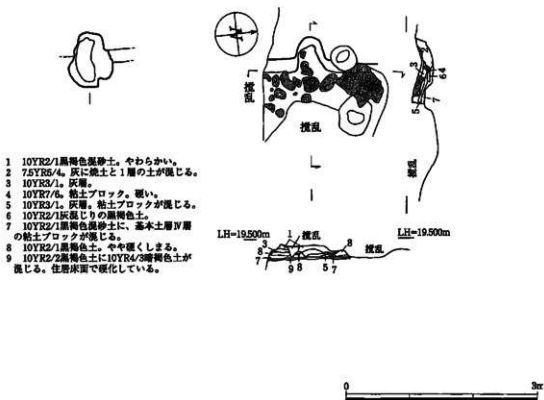


図20 132号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

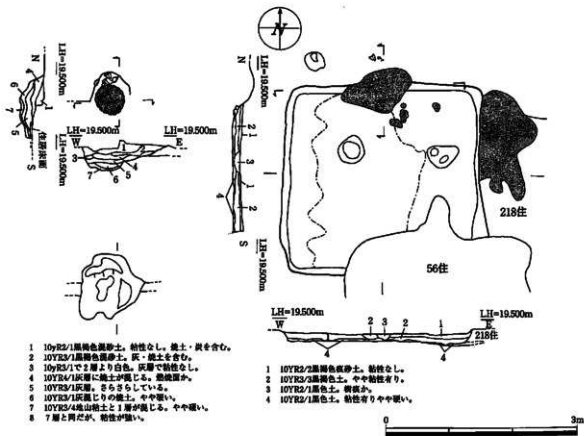


図23 215号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

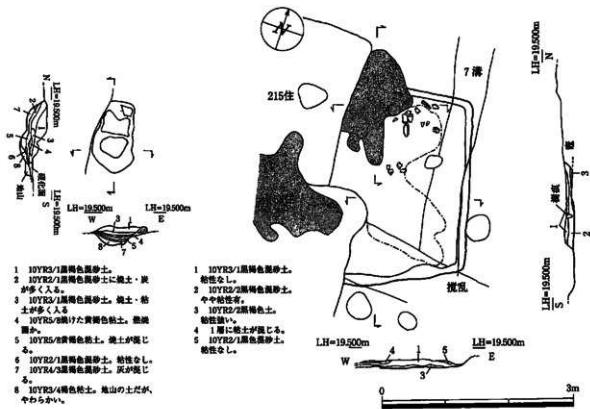


図24 218号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

85号竪穴住居址 (図25)

調査区南東側で検出した竪穴住居址である。85号竪穴住居址の検出箇所は、現代の攪乱による破壊が著しかったが、床面は硬化面が比較的良好に残存していた。平面規模は南北方向で3.2m、東西方向で2.9mである。床面までの深さは遺構検出面より13cm程である。住居址北壁中央部分で竈と思われる粘土塊を検出し、掘り下げていくと竈の支柱と思われる、もろい砂岩の礫が3箇所検出された。住居内では多数のピットを検出しているが、確実に柱穴と言えるものは検出できなかった。時期は遺物に乏しく、詳細不明である。

98・128 (西・北)・246・313号竪穴住居址 (図26~28 出土遺物一図35・36)

調査区南東隅で検出された竪穴住居址群であるが、最終的に5軒の竪穴住居址が重なっていると判断した。切り合いが著しいうえ、土色では判断し難かったため、調査は難航し、128号住居址は2軒の住居址であるということに気付かず掘り下げてしまうなど、不手際もあった。

98号住居址は128号住居址の後に建てられた住居址で、北壁・西壁の一部のみ残存しているが、現代の攪乱により大部分が破壊されていた。竈等の火処は、残存箇所では検出していない。深さは遺構検出面より37cm程であった。時期はⅡ期と思われる。

128号住居址は、掘削後に竈が2基存在することに気づき、2軒の住居址を同時に掘り下げてしまったため、出土遺物の帰属は不明確となってしまった。その後の調査より、西側竈を伴う竪穴住居(128西住)が、北側竈を伴う竪穴住居址(128北住)に先行する可能性が高いと判断された。西側住居址の東壁は調査区外に延びているため、検出していない。128北住・128西住ともに竈が検出されたが、住居廃絶後に破壊を受けたためか、支柱などの残存は見られず、粘土塊と焼面と思われる橙色の焼土範囲のみ確認された。

246号住居址は128号北住居址より先行する竪穴住居址であり、南半部分は128号竪穴住居址に破壊されている。竪穴住居址東半部分は調査区外に延びており、今回の調査では平面規模は把握できなかった。硬化した床面が検出され、床面までの深さは遺構検出面より5~10cmである。竈は住居址北壁に付設されており、粘土塊の中からもろい砂岩製の支柱と思われる礫が1本、立った状態で検出された。時期はⅠ期である。

325号住居址は128・246号住居址に切られており、北・西壁の一部が検出されたに過ぎないが、埋土からは土師器・須恵器の小片が出土しており、詳細な時期は不明であるが、古代(Ⅰ期)に属する住居址である。

313号住居址は、128号住居址の床面下位を掘り下げた際に検出した竪穴住居址であり、128号住居址に先行する。床面と壁の一部がわずかに残存していたに過ぎないが、南・西壁が検出され、床面は硬化しており、住居は調査区東側に延びていることが確認された。土師器が出土し、古代(Ⅰ期)の竪穴住居址と考えられた。

90号竪穴住居址 (図29 出土遺物一図36)

調査区南東側で検出した竪穴住居址で、西側部分を7号溝に切られている。西側に竈を有し、溝により竈の一部と住居址西壁は破壊されている。東西3.5m程度、南北3.5mの竪穴住居址である。東側で柱穴の可能性のあるピットが2基検出され、4本の支柱穴が想定されたが、西側2本は検出していない。なお、住居址床面の下より白色粘土が検出されている。時期は遺物から、Ⅲ期に属する。

74号竪穴住居址 (図30 出土遺物一図36)

調査区南西隅で検出した竪穴住居址である。調査開始時、一次掘削の際に重機で過度に掘削してし

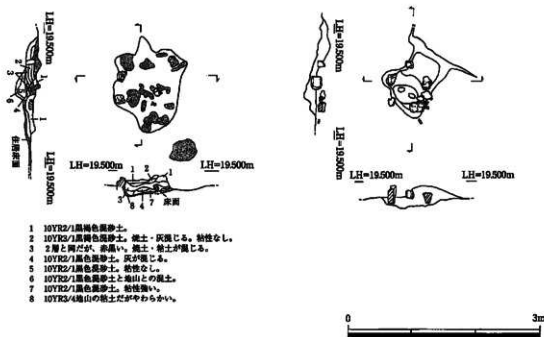
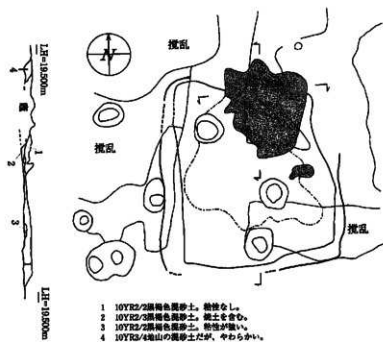


図25 85号壑穴住居址実測図 (S=1/60)

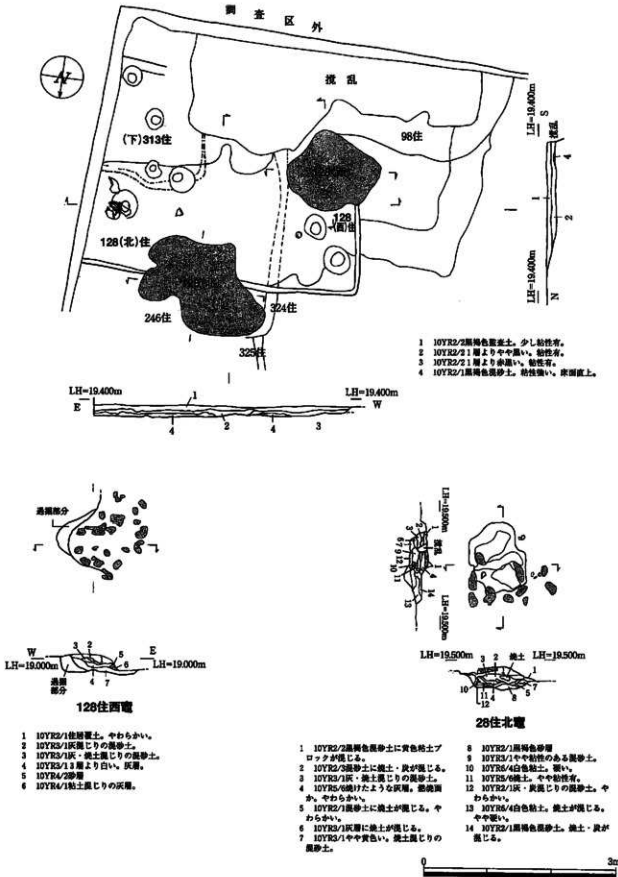


図26 128号壁穴住居址(128西・128北)実測図(S=1/60)

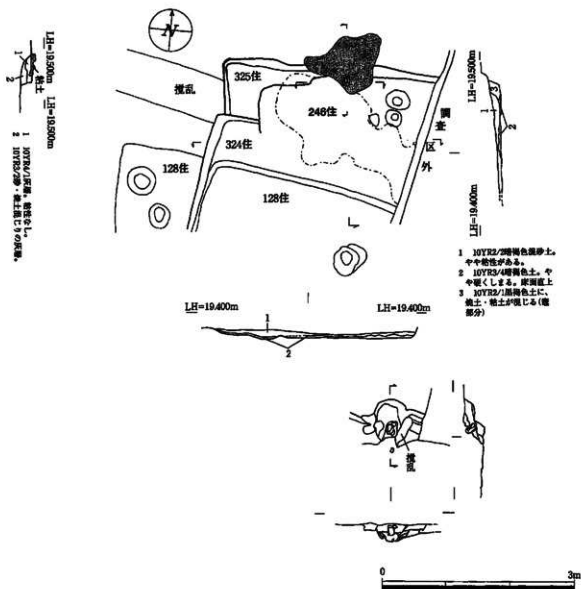


図27 246号壑穴住居址実測図 (S=1/60)

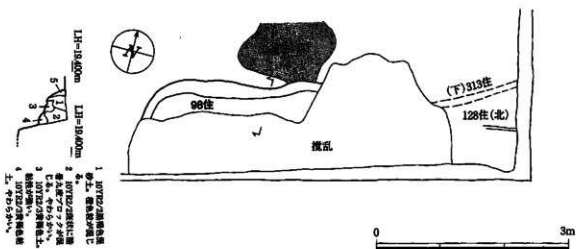


図28 98号壑穴住居址実測図 (S=1/60)

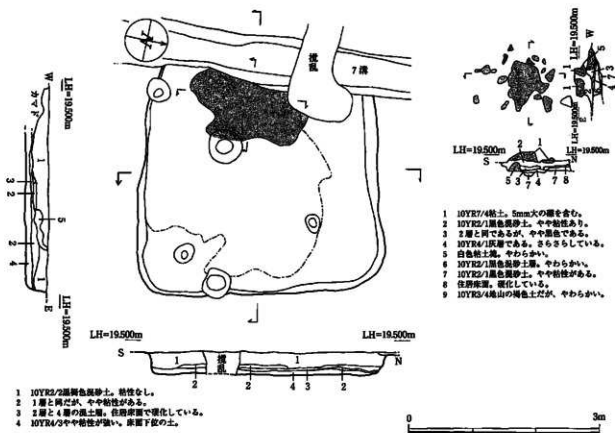


図29 90号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

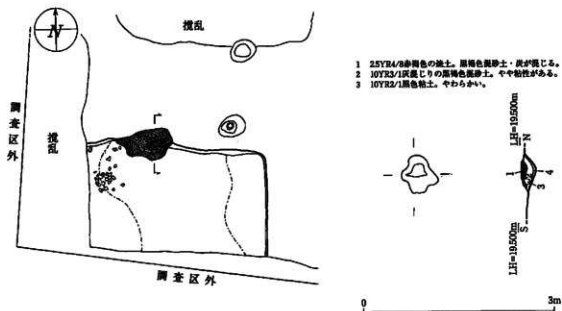
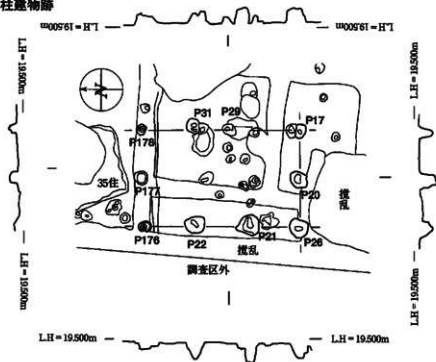


図30 74号竪穴住居址実測図 (S=1/60)

1号掘立柱建物跡



2号掘立柱建物跡

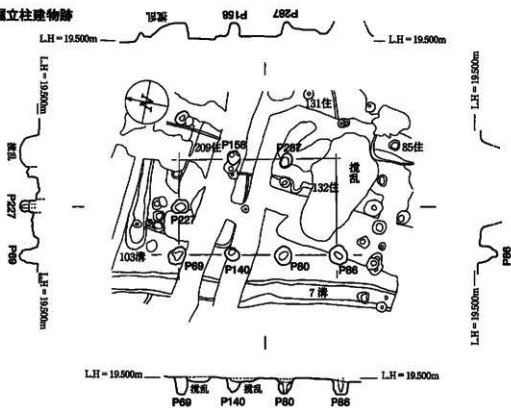


图31 掘立柱建物实测图 (S=1/160)

まい、下半部分のみ検出された。住居は調査区外に延びており、平面寸法は不明であるが竈の位置などを参考とすれば、3.8m程度の平面プランが想定される。住居址西側は共同溝敷設時に破壊を受けており、残存していない。住居址北壁中央と思われる箇所、竈の燃焼面の痕跡と思われる焼土面が検出されたが、一次掘削時の状況を加味しても残存状況は悪く、住居廃絶後に破壊されたものと思われる。住居址内では床面が硬化した部分を検出した。柱穴は精査したが調査区内では検出できなかった。土師器の甕と鉢が住居址西側床面付近で検出されている。時期はI期に属すると考えられる。

<掘立柱建物址>

1号掘立柱建物 (20号・22号・26号・29号・31号・176号～178号ピット) (図31)

2間×3間の建物である。検出箇所ではその他にもピットが多数存在したが、調査時の検討から、総柱ではないと判断した。柱穴は一部攪乱を受けている部分もあったが、すべて検出した。柱痕はほとんどの柱穴で検出できた。柱間は東西方向では2.0m、南北方向では2.0～2.2mである。建物の主軸はほぼ真北である。柱穴検出面では特に硬化した部分などは認められなかったため、高床式であった可能性が高いと考えられる。

遺物はピット内より古代の土器片が数点出土しているが、建物に伴う遺物を抽出することはできなかった。また、柱穴列の中の柱穴検出面 (IV層直上) からは、鉄器 (刀子状不明品) が1点出土している (図42-7)。

2号掘立柱建物 (69号・79号・80号・89号・140号・227号ピット) (図31)

建物址東側の4本並んだピットから、掘立柱建物の存在が想定され、攪乱も多く認定は困難であったが、最終的に2間×3間の建物であることが判明した掘立柱建物である。柱間は東西方向では2.0m、南北方向では2.2mである。北東辺と南東辺の柱穴推定箇所は攪乱で破壊されており、検出できなかった。建物の主軸はN-11.5°-Wである。

周辺遺構との前後関係は、柱穴の一本である227号ピットが、重複する132号竪穴住居址の床面下位部分から検出されており、2号掘立柱建物が132号竪穴住居址より古い建物であることは確実である。2号掘立柱建物跡に伴う遺物は攪乱や建物の重なり合いが激しく、明確にすることができなかったが、

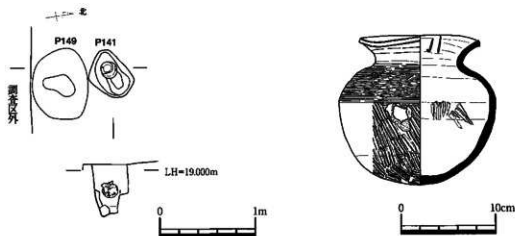


図32 141号ピットと出土須恵器

132号竪穴住居址に先行し、周辺からは古代の土師器・須恵器のみが出土していることを勘案すれば、古代に属するものと考えられる。1期に属する可能性がある。

<ピット・土坑>

上記の溝・住居址の他に、調査区内では多数のピットや土坑状の掘り込みがIV層上面で検出されている。いくつかのピット内からは土師器・須恵器が出土しているが、多くは剥痕など、人工的ではないものであると判断された。うち、遺物が出土しているものについての詳細は、出土遺物の頁で記載する。

141号ピット (図32)

調査区南西側で検出されたピットで、底辺部より完形の須恵器小型壺が正位置で出土し、埋置された可能性がある。中にはIII層の土が詰まっており、発掘調査後に壺内面の精査を行ったが、遺物その他の出土はなかった。地鎮などの目的で埋められたものと考えられる。

141号ピット出土の須恵器壺は、口径12.8cm、器高15.7cm、焼成は良好で硬質であるが、やや焼けひずみがある。タタキ成形で、内面はナデ整形、外面はハケ整形の後上半部に横方向の回転ヘラナデが施されている。口縁部内面にはヘラ記号が描かれている。胴部中に焼成後の穿孔が内側からなされている。外面には黒色の自然釉が付着している。

(6) 出土遺物

出土遺物の総量は、コンテナで10箱ほどである。古代の土師器・須恵器が主体であるが、その他に縄文時代の土器・石器、古代の石器・鉄器等がある。溝やピット及び包含層・攪乱から、古代に属すると思われる鉄器や、縄文時代のものと思われる、黒曜石製の剥片や石器が数点出土した。

以下、遺物・遺構毎に解説する。各遺物の詳細は、表1～8の出土遺物観察表を参照されたい。

<古代の遺物>

古代の遺物として、包含層および遺構から、土器・石器・鉄器の出土が認められた。

1. 土器

土器は土師器・須恵器・黒色土器が出土している。土師器には従来の土師器製作技法で作られているものもあるが、坏類を中心として、成形に須恵器の製作技法を導入したものが多く認められる事が特徴としてあげられる。数点丹塗りが施されているものもある。胎土には、石英や、1.0×1.5mm大の長方形の角閃石が多く認められ、赤褐色の砂粒が多く混入するものと、白色の砂粒が多く混入するものの2者が認められた。

須恵器では、焼成が良好であるものも多く存在するが、焼成が不良で土師器と大差ないような個体が多く認められる。

黒色土器は若干量出土しているが、黒色土器A類、黒色土器B類ともに出土が認められた。以下では遺構毎に出土土器の報告を行う。なお詳細は遺物観察表を参照されたい。

1号竪穴住居址出土土器 (33図 1～12)

遺物の多くは覆土中より出土している。図化できた12点を図示した。

1～3は須恵器の坏である。須恵器は焼きの甘いものが多い。底部は回転ヘラ切りの後ナデが施されており、底部に高台は確認されない。4～7は土師器の坏・塊である。土師器は須恵器模倣(4・5)と、土師器の製作技法のもの(6・7)があり、後者には内面にミガキ調整が確認される。8～11は土師器の甕である。12は須恵器の甕であり、胴部内外面にはタタキ調整痕がみられる。外面に深緑色の自然釉が付着しており、宇城地方産の可能性が考えられる。

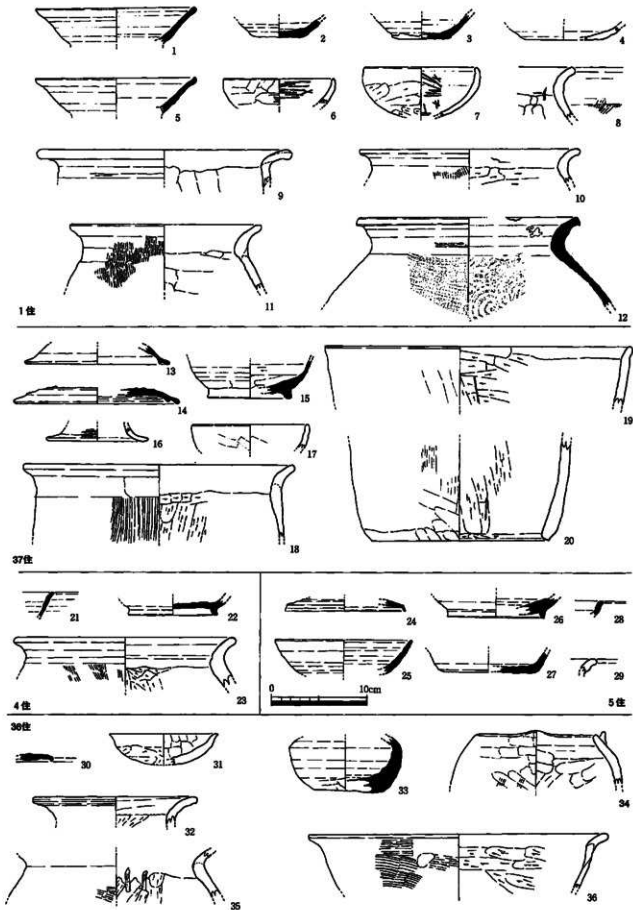


図33 0425調査地点出土土器①(竪穴住居址出土・S=1/4)

37号竪穴住居址出土土器 (33図 13~20)

37号住居址でも土器の出土は覆土中からのものが多い。

13~15は須恵器である。蓋に返りが付き、高台を有する壺が出土している。緑色の自然釉が付着している個体も見られる。16~20は土師器である。16は土師器の高坏脚部で、外面にヨコミガキが看取される。17は土師器の坏である。18は甕で、外面は縦方向のハケ調整で整形される。19・20は甕であり、同一個体の可能性がある。精良な胎土で作られており、焼成は良好で硬く焼きしまっている。下層出土のものと同層出土のものが接合しており、住居址周辺に破片が散っているような出土状況である。

4号竪穴住居址出土土器 (33図 21~23)

4号住居址でも明確に床面出土のものは確認されず、覆土中から土器が出土している。

21・22は須恵器の壺である。受け部はなく、高台を有する。8世紀後半台頃であろうか。23は土師器の甕である。やや胴部が張るタイプのものである。

5号竪穴住居址出土土器 (33図 24~29)

5号住居址でも土器は多く覆土中から浮いた状態で出土している。小片残存のものが多い。

24~28は須恵器である。受け部は蓋側に付き、壺は高台を有するものが確認される。焼成は良好で硬質なものが多い。29は土師器の甕であるが、極小片で出土しており、全形を知り得ない。

36号竪穴住居址出土土器 (33図 30~36)

36号住居址でも遺物は住居床面から浮いた状態で出土したものが多く、ほとんどが覆土上層より出土している。

30・33は須恵器である。30は蓋で、受け部を有する。33は赤焼けの須恵器小壺で、内面の最大径部分には種子と思しき圧痕が確認される。31・32・34~36は土師器である。31は坏で、須恵器模倣風であるが、外面底部に手持ちヘラケズリ技法で整形している。34はやや大型の鉢で、外面に丹塗りが施されている。口縁部1箇所注目部と思われる箇所がある。32・35は甕で、36は土師器の鍋である。

35号竪穴住居址出土土器 (34図 37~47)

35号住居址では、完形に近いような土器の出土も見られたが、総じてやや床面より浮いた状態で土器が出土している。

37・38は須恵器である。37は壺の底部で、高台が長くなっている点が特徴的である。38は高坏の坏部と思われる。やや焼けひずんでおり、径は図よりやや大きくなる可能性がある。焼成は良好で硬く焼きしまっている。39~47は土師器である。39~41は坏である。39は住居址南西壁付近の覆土上層より完形で出土した土師器の坏である。内外面ともに回転ナデ調整がなされている。41は外面に手持ちヘラケズリが施され、内面は丹塗りが施されており、ミガキ調整も確認される。42は甕の胴部である。胴部は球形に近く、舌状の把手を有しているが、上下部構造の詳細は不明である。44~46は甕である。47は甕の口縁部と思われる。

184号竪穴住居址出土土器 (34図 48・49)

図化できた土師器2点を示した。ともに土師器の坏である。48はほぼ完形で、住居址床面からやや浮いた状態で出土し、49は床面直上で出土した。ともに回転ナデ成形で、底部は回転ヘラ切りによる轆轤切り離しの後ナデ調整がなされている。48は内外面に丹塗りが施されている。

183号竪穴住居址出土土器 (34図 50~54)

図化できたのは全て土師器である。50・51は覆土上層より出土した坏である。52は甕付近より出土した坏の底部である。53・54は住居址東壁付近より出土した土師器の甕である。ともに縦方向のハケ

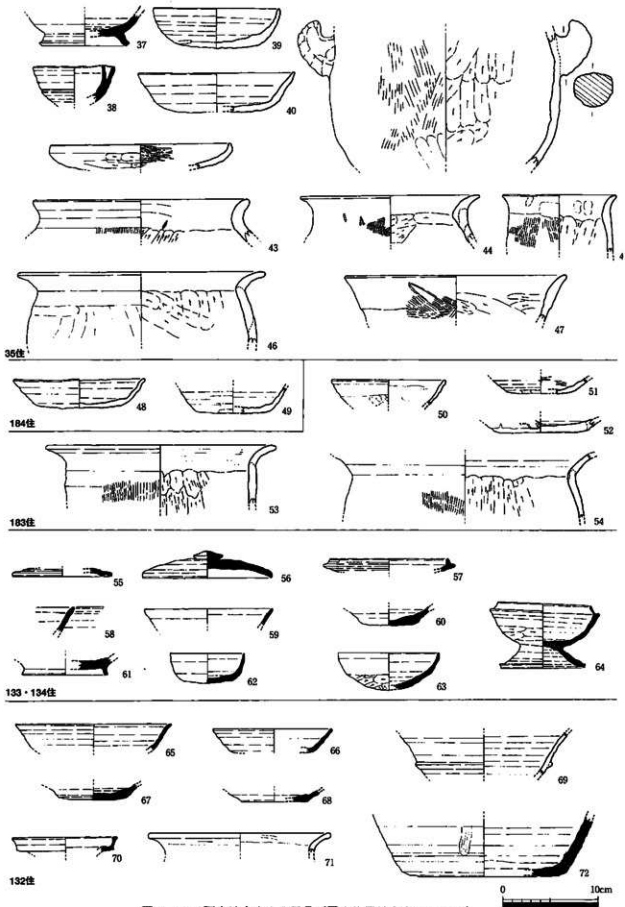


図34 0425調査地点出土土器② (竪穴住居址出土・S=1/4)

調整で整形されている。

133号竪穴住居址出土土器 (34図 55~63)

多くは覆土中からの出土であり、61は硬化面下位からの出土である。図化し得たのは全て須恵器である。55・56は蓋である。55は受け部を有し、56はつまみを有する。57は坏で、受け部を有する。58・59・61は埴で、61は低い高台を有する。62は須恵器の鉢である。63は蓋の可能性もあるが、底部を手持ちヘラケズリにより整形している。

134号竪穴住居址出土土器 (34図 64)

64は133号竪穴住居址西側で検出された、134号竪穴住居に伴うと思われる竈手前の部分で、ほぼ完形で出土した須恵器の有蓋高坏である。

132号竪穴住居址出土土器 (34図 65~72)

土器の多くは覆土中より出土している。

65~68・70・72は須恵器である。65~68は坏ないし埴である。69は胴部に突帯を有する。いわゆる「稜塊」の破片と思われる。70は須恵器の壺の一部と思われる。71は竈から出土した土師器の甕である。72は須恵器壺の底部で平底である。

131号竪穴住居址出土土器 (図35 73~77)

73~75は、覆土中より出土した須恵器である。小片であるが、口が広く広がる埴形態になるようである。76は住居址下層より出土した土師器の坏底部片である。77は覆土中より出土した土師器の甕である。外面はナアにより丁寧に仕上げられている。

200号竪穴住居址出土土器 (図35 78~82)

78・79は須恵器の坏であり、79は竈付近で検出された。80は竈より伏せた状態で出土した、完形の土師器坏である。81・82は遺構検出面付近で出土している。81は土師器の坏で底部は平底である。内外面ともに丹塗りが施されている。82は甕の口縁部で、外面は縦方向のハケ調整により整形されている。

139号竪穴住居址出土土器 (図35 83~98)

多くの個体は覆土中より出土している。うち、93の完形の土師器坏は、139号住居址竈部分の覆乱内から出土したものであるが、出土状況より竈に伴う可能性が高いと判断されたので、ここに含めている。

83~92、97・98は須恵器である。83は蓋である。84~92は坏もしくは埴であるが、完全な平底を呈するものが多く、本調査区内出土土器では新しい時期のものと考えられる。94は黒色土器である。内面のみ黒色化が認められ、内面にはミガキ、外面過半部にはヘラケズリが認められる。95・96は土師器の甕である。95は胴部外面上半に横方向のハケ調整が施されている。97・98はやや生焼け風の須恵器であるが、壺の下半部と底部と思われる。

128号竪穴住居址出土土器 (図35 99~108)

128号住居址は2軒を1軒と認識して調査していたため、遺物がどちらの住居址に伴うかを明確にすることが出来なかった。うち、点上げをしていたものは帰属が明らかにでき、99・100は128北住に伴う可能性が高く、105は128西住に伴う可能性が高い。以下に128号住居址出土土器として一括し報告する。

99は須恵器の埴底部で、100は土師器の埴高台部である。101~107は土師器甕の口縁部片である。ほとんどが小片でしか残存せず、全形は不明であるが、比較的残存の良かった105は、なで肩の肩部に胴部中位~下位が膨らむ形態であることが推定される。

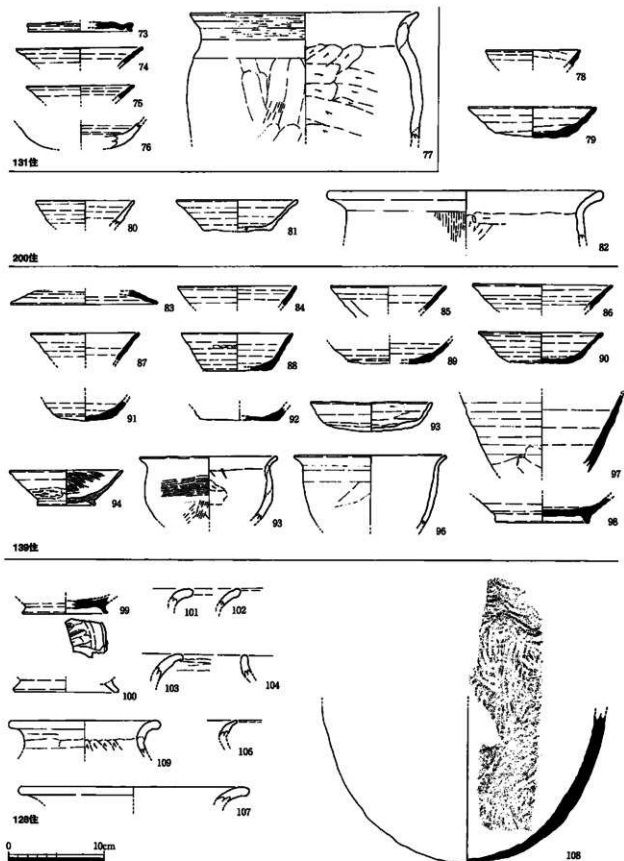


図35 0425調査地点出土土器③ (壁穴住居址出土・S=1/4)

324・325号竪穴住居址出土土器 (図36 109・110)

竪穴住居址の残りがあまり良くなかったため、出土遺物も少数である。109は324号住居址覆土から出土した土師器坏である。内外面には丁寧なナデ調整の後ミガキ調整が施されている。110は325号住居址覆土より出土した土師器甕の口縁部片であり、肩部から胴部があまり張らずに底部に至るタイプのものであると思われる。

98号竪穴住居址出土土器 (図36 111・112)

土器は覆土中より小片で出土しており、2点が図示可能であった。ともに住居址下層からの出土である。111は土師器の埴の口縁部片であるが、極小片である為、傾きはやや不確定である。112は須恵器の小片で、埴または甕の口縁部片と思われる。

313号竪穴住居址出土土器 (図36 113・114)

313号竪穴住居址は、調査区内では128号竪穴住居址下位でわずかに残存していたに過ぎないため、遺物の出土は少なく、土器片が数点確認されたに過ぎない。2点を図示したが、ともに須恵器の小片である。113は須恵器埴の口縁部片で、114は坏の破片である。114には受け部が確認される。

246号竪穴住居址出土土器 (図36 115・116)

2点図示した。ともに土師器甕の小片である。116は口縁部内外面に、煤の付着が認められる。

90号竪穴住居址出土土器 (図36 117～125)

90号竪穴住居址でも、土器の多くは覆土中より破片で出土し、全形を知りうる個体は存在しない。うち図化可能な9点を図示した。

117～124は須恵器である。須恵器は焼成が良好で硬質であるものが多かった。117・118は蓋で、119・120・123は高台が付かない坏、121・122・124は高台が付く埴形態になるものと思われる。125は土師器の甕であり、胴部中位～下位が膨らむタイプのものであると思われる。

56号竪穴住居址出土土器 (図36 126～136)

覆土中および床面から土器が出土しているが、いずれも小片であり、あまり出土状況は良好ではなかった。

126～131は須恵器である。126・127には受け部が付く。128は約1/2が残存しており、つまみが付く。129・130は埴で、129には外面に黒色の自然軸が付着している。131には底部に高台が付く。132～136は土師器である。132は須恵器埴状の形態をしており、床面付近で検出された133は土師器の埴であり、内面にはミガキ調整が施されている。134は高埴の脚部片である。135は甕の口縁部であり、136は甕である。

215号竪穴住居址出土土器 (図36 137～139)

覆土中より土師器・須恵器が出土しているが、いずれも小片である。なお、竪穴住居址外であるが、215号竪穴住居址甕の北側の箇所、土師器の鍋1個体分(139)が割れた状態で検出され、215号竪穴住居址に伴う可能性が高いと判断された。

137・138は覆土中より出土した須恵器の小片である。137は蓋で、138は坏である。138は有蓋高埴の坏部の可能性もあるが、小片のため判断出来なかった。139は鍋であり、外面は煤が付着し黒化している。

218号竪穴住居址出土土器 (図36 140～143)

覆土中および床面・床面下位から土師器・須恵器が出土している。

140・142は須恵器の蓋で、床面の下から出土した。141も同じく須恵器の蓋で、覆土中より出土している。143は竪穴住居址床面で甕の全面部分より潰れた状態で検出され、竪穴住居址に確実に伴う土

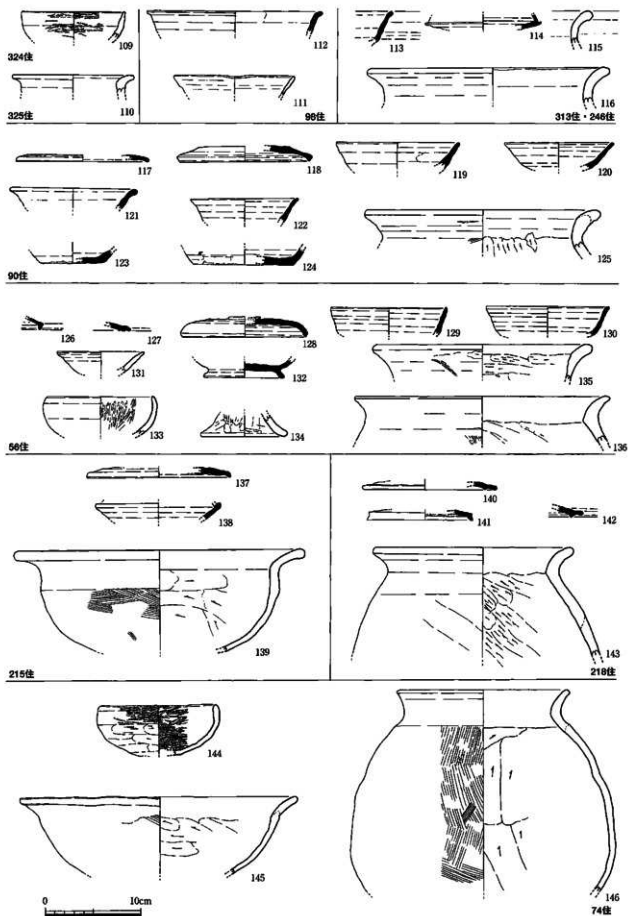


図36 0425調査地点出土土器④ (竪穴住居址出土・S=1/4)

器と判断された。甕の上半部で、下半部は接合できなかった。なで肩で、胴部中位～下位が膨らむタイプのものである。

74号竪穴住居址出土土器 (図36 144・146)

74号竪穴住居址では、遺物の出土量はそう多くなかったが、住居址竪穴近と調査区西壁に当たる箇所、床面直上より土師器の出土がみられた。ここでは復元できた2点を図示する。

144は土師器の坏で、内外面ともに丁寧なナデの後ミガキ調整が施され、内外面ともに丹塗りが認められる。

145は土師器の鍋であり、外面には煤の付着が認められる。

〈溝状遺構出土土器〉(図37)

本調査で検出された6本の溝では、土師器・須恵器の出土がわずかに見られたが、いずれも小片で、埋没時の混入であると考えられる。一部の溝では縄文土器の出土が見られたが、混入と捉えられた。ここでは、図化可能な破片が出土している7号溝・103号溝の出土遺物を示す。

7号溝出土土器 (図37 146～149)

146～148は覆土中より出土した土師器の甕である。

103号溝出土土器 (図37 149～151)

須恵器3点が図示可能であった。いずれも小片である。

149は埴で、150は坏ないし有蓋高坏の坏部である。151は坏であるが、蓋の可能性もある。

〈ビット・土坑出土土器〉(37・38図)

以下に、本調査区内で検出されたビットおよび土坑の遺物について記述する。なお、土坑を除く大半は建物跡等の人工的なものではなく、樹痕と思われるビットであると判断されたため、図化出来たビット出土遺物は以下に示したが、注目される遺構に限り説明を加えるにとどめたい。ビットや土坑からも、土師器・須恵器・黒色土器の出土が認められたが、一部を除き総じて小片のものが多く、

なお、ビットの箇所や遺物の詳細は、図4および遺物観察表を参照されたい。

掘立柱建物に関わるビット (37・38図)

掘立柱建物跡の柱穴埋土から、土師器・須恵器の出土が見られた。いずれも小片であり、直接的に掘立柱建物に伴う土器であるとは考え難い出土状況であるが、図示しえたものについて以下に示す。

26号ビットは1号掘立柱建物跡の柱穴である。土師器の坏が1点出土している(157)。

27号ビットは1号掘立柱建物跡の内部に位置するビットであるが、ビット形状から樹痕と判断された。土器の小片が出土し、土師器の甕小片1点が図化可能であった(155)。

79号ビット・227号ビットは2号掘立柱建物跡の柱穴で、土師器・須恵器が出土している(79号ビット-168・169、227号ビット-205・206)。

土坑 (37・38図)

65号土坑は調査区南西端の、141号ビット南側で検出された土坑であり、検出面では土器片がままとまって出土している(159～165)。図示したものは、その検出面および土坑覆土中の遺物である。

その他、調査区北東端のF区100号土坑では、土師器・須恵器がまとまった量出土している。土坑自体は、その形状から、樹痕であると判断された。

その他のビット出土土器 (37・38図)

その他、調査区内で多く検出されたビットからは、土師器・須恵器が多数出土したが、総じて小片のものが多く、ビット自体もそのほとんどが、人工的なものではなく、樹痕であると判断された。う

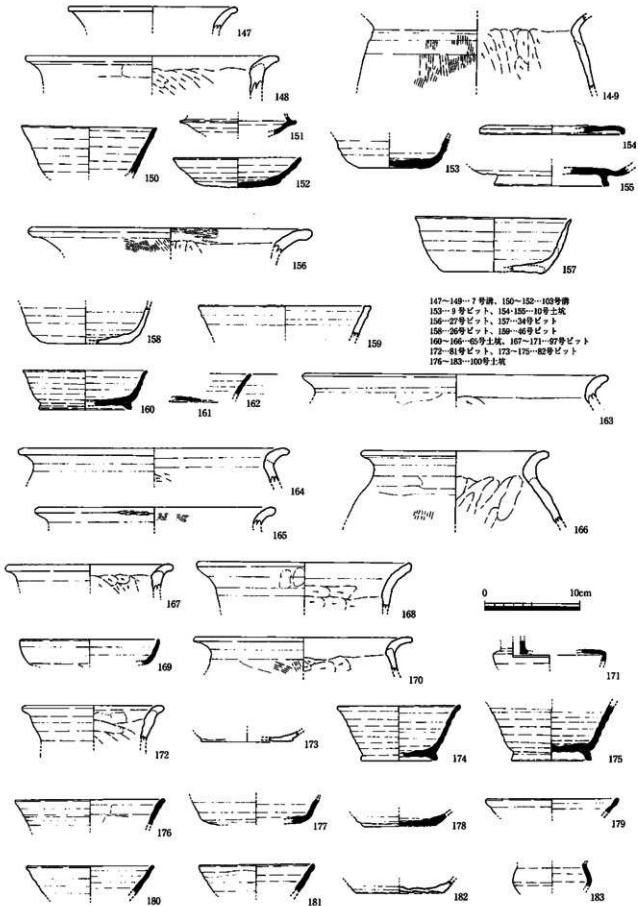


図37 0425調査地点出土土器⑤ (溝状遺構・土坑・ピット出土・S=1/4)

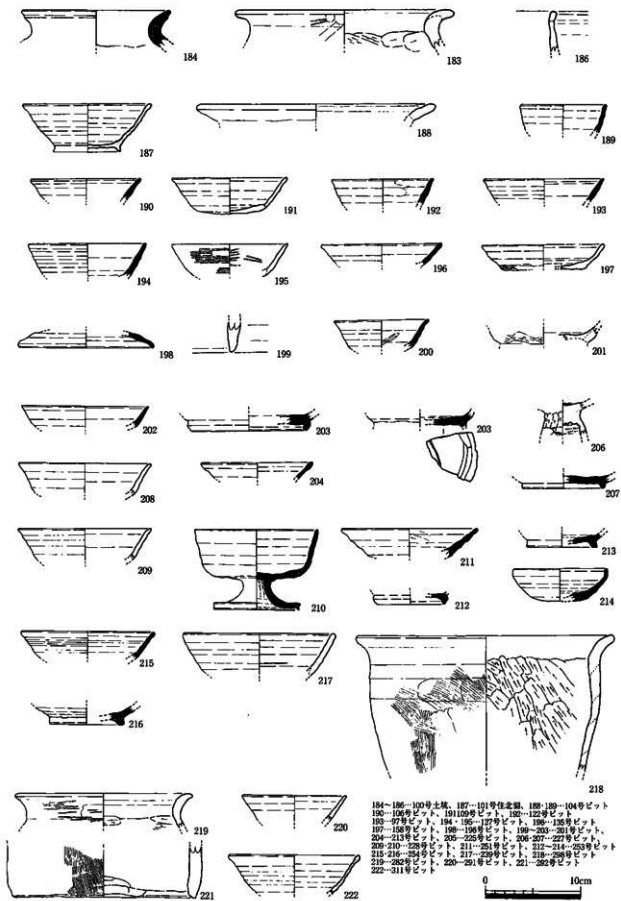


図38 0425調査地点出土土器⑥(土坑・ピット出土・S=1/4)

ち、注目されたのは、調査区東壁の、200号堅穴住居址すぐ北側で検出された228号ピットである。228号ピットは東半分が調査区外にのびるピットである。深さは1mほどあり、調査区内では詳細を知りえなかったが、柱穴の可能性もあるピットである。この228号ピットの覆土中より、ほぼ完形の無蓋高坏1点が検出された(図38・209)。

包含層(基本土層Ⅲ・Ⅳ層)出土土器(39・40図 222~291)

包含層の調査では、攪乱などを目印として、調査区内を南北方向に6分割(A~F区)、東西方向に6分割(1~6区)し、それぞれの区画毎に一括して遺物の取り上げを行った。

区画の位置は図4を参照されたいが、調査の都合で任意設定したため、各区画の面積は、大小それぞれが存在し、まちまちである。さらに、調査時の都合で、厳密に出土地区を分けきれずに地点不明となつたしまった包含層出土物も存在する。

調査区全体で均等な土器の出土量であり、特に出土が多いと感じられる箇所は特になかった。強いて言えば、調査区北側は現代の整地によると思われる削平が包含層まで及んでいて出土量が少なく、調査区南端のA区は包含層が厚く残存していたことにより、土器の出土量が多い。また、北東端のF6区などでは、樹痕によると思われる落ち込みなど、包含層が残存し得た状況の箇所、やや多く土器が出土している。

古代の遺物包含層であるⅢ層掘削時の遺物取り上げでは、上位と下位でⅢ層上層とⅢ層下層に分けて取り上げを行い、概ね基本土層のⅢa層にⅢ層上層が、Ⅲb層にⅢ層下層が対応するが、決して厳密に分層して取り上げを実施したものではなく、Ⅲ層下層がⅣ層遺構面検出時の掘削に伴う出土遺物であり、Ⅲ層下層の方が、比較的下位より出土しているということに過ぎないものであることをお断りしておく。

なお、Ⅳ層としている遺物は、Ⅳ層上面から深さ5cm程度までで出土したものであり、土層観察では、Ⅳ層の土にⅢ層の黒褐色混砂土が混じる状況であり、Ⅲ層とⅣ層の漸移層として捉えられるものである。Ⅳ層では、それより下位での遺物の出土は認められなかった。

以下で包含層出土の古代土器について述べる。なお詳細は遺物観察表を参照されたい。

包含層出土の古代土器には、黒色土器・土師器・須恵器がある。

222~226は黒色土器である。黒色土器は塊形態のものが出土しており、1点だけ坏形態のものがみられる。

ほとんどが内面に放射状ないし横方向のミガキ調整が施されており、外面まで黒色化する個体と外面は黒色処理されていない個体の両者が存在する。

須恵器は本報告では全て図示していないが、その他にコンテナ1箱分の破片が出土しており、須恵器大甕の胴部・頸部片なども出土している。

231~238・289~291は須恵器である。坏・塊が多く出土しているが、坏では口縁部が丸みを持つものと、底部から口縁部が直線的に伸びるものの2者が存在する。碗では高台が低いものから、1cm近くまで高くなっているものまでバリエーションがあることが確認される。290は壺の底部で、平底で外面にタタキ目を有する。291は甕で、胴部に2条の沈線を有する。

239~288は土師器である。土師器は、坏・塊・甕・鍋・甔が出土している。

土師器の坏には須恵器の製作技法で作られているものと、土師器の伝統的な製作技法を踏襲しているものの2者がある。

甕は、下半部まで接合できた個体はなく、上半部のみしか知りえないが、明確に「く」字口縁で、

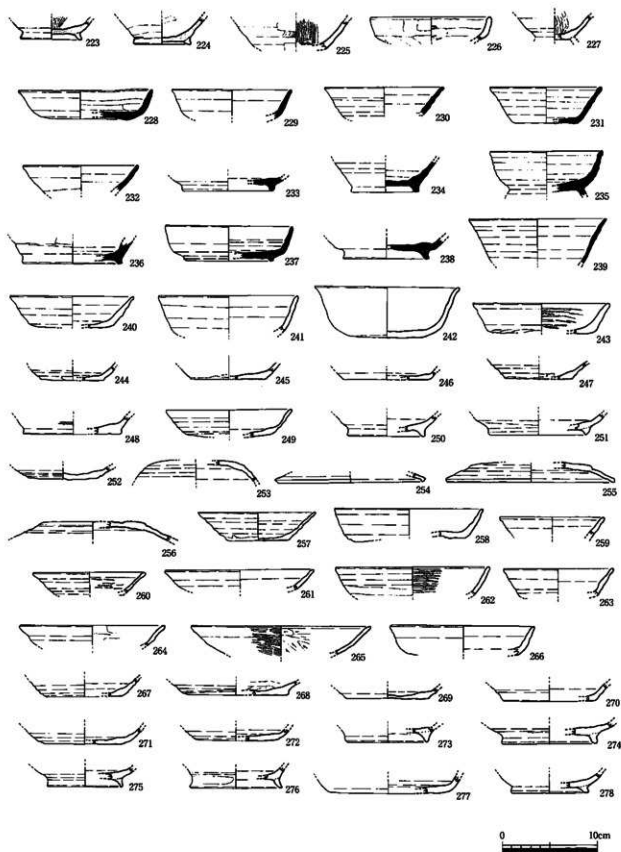


图39 0425调查地点出土土器⑦(包含层出土·S=1/4)

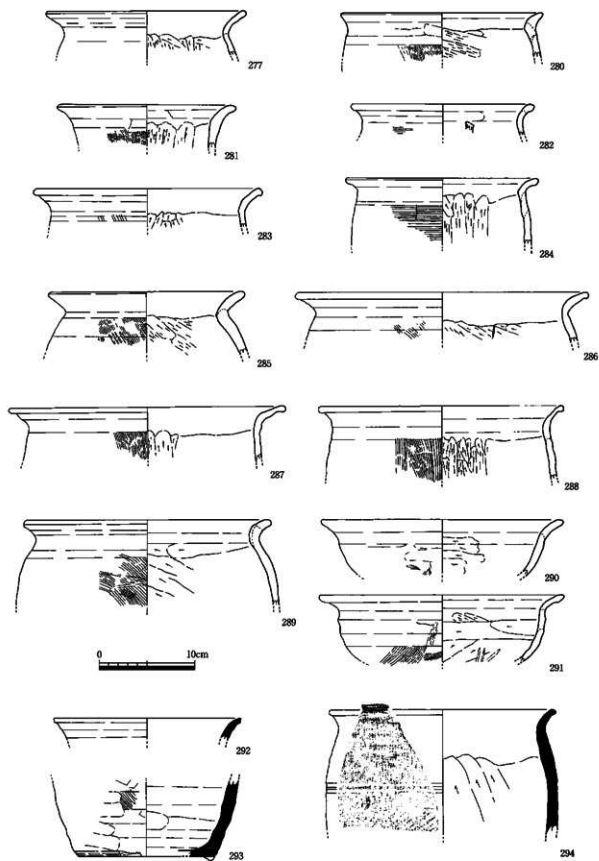


図40 0425調査地点出土土器⑧ (包含層出土・S=1/4)

明確に肩が張るもの(282・286)から、同じく「く」字口縁であるが、あまり肩が張らずに胴部最大径が口径より小さくなるもの(281・284)までが存在し、坏や椀と同様に、時期幅は長いものと思われる。

その他、土師器では、鍋(287~288)や甔(278)の出土も見られ、本報告では図示しなかったが、甔の把手も数点の出土が見られ、全て舌状形態のものであった。

これらの出土遺物からは、古いもので8世紀前半、新しいものでは9世紀台・10世紀初頭までの時期幅が想定される。

石器(図41 1~5)

1は211号ピットより出土した滑石製の紡錘車で、半分が残存している。丁寧に調整されており、表面はつるつるしている。重量は21gである。なお包含層中からは、土製紡錘車の破片も1点確認されている。

2は権と呼ばれる、天秤の分銅であると思われる。218号住居址の覆土中より出土した。砂岩に幅7mm、厚さ1.5mmの鉄を打ち込んで釣り部を形成している。幅4.1cm、高さ5.2cm、釣り部高0.7cm、重量は81gである。網田龍生氏の研究に依れば、当時の1両が42gであると考えられるとのことであり、その説を参考とすると、誤差は大きいですが2両の錘として使用されていた可能性が考えられる。石製権の熊本県内での類例は、熊本市上高橋高田遺跡(網田 1994)・菊池市七城町大久保遺跡(吉田編 1994)ほか数遺跡で確認されている。上高橋高田遺跡例などを参考とすれば、時期は8世紀末~9世紀前半が想定される。

3は35号住居址より出土した砥石である。両端部を欠くが、表面は滑らかであり、つるつるしている。砂岩製。

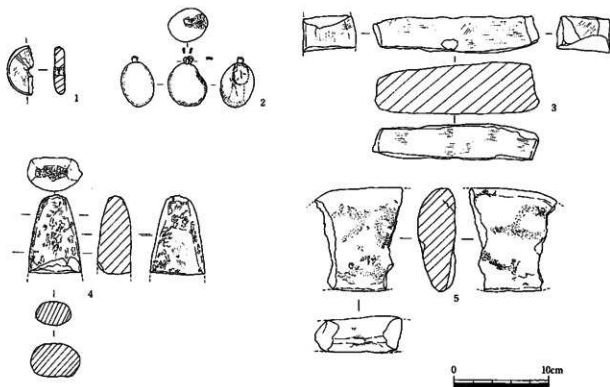


図41 0425調査地点出土石器実測図

4は磨製石斧であるが、敲石などとして転用されたものと思われる。37号住居址より出土した。石斧の刃部にあたる箇所は欠損している。また、基部に当たる箇所では敲打痕が確認される。側面は丁寧な研磨が施されている。砂岩製。重量は228gである。

5は砥石である。A区65号土坑の検出面で、土器とともに出土した。両端は欠損しているが、表面には摩耗痕があり、つるつるしている。砂岩製であり、重量は651gである。

鉄器（図42 1～7）

鉄器は主に住居址を中心に出土している。1は139号住居址より出土した。刀子の一部と思われるが、残存部位が少なく断定できない。図面下部は刃部状になっている。残存長2.3cm、幅1.0cmである。2は90号住居址の竈の粘土内より出土したもので、刀子ないし鉄鎌の柄の部分と考えられるが、残存部位が少なく断定できない。4.6cm、基部側の幅0.6cm、刃部側の幅0.9cmである。3は134号住居址の床面より出土したものである。両端が同一方向に折れ曲がっている様子が観察されるが、先端部位は残存していない。形態からは、鏝の可能性が考えられるが、長さ3.7cmと小型である。4は鉄鎌であると思われるが、あまりにも小型で、実用に耐えうとは思えない。刃部長は5.6cmで、基部にはわずかながら折り返し部分がみられる。刃部外面には木質の付着が認められる。5・6は鉄鎌である。5は、35号住居址西壁部分を切って存在する189号ピットより出土したが、遺構検出面から数cm下げたところで出土しており、遺構に伴うとは言い難い。有稜系の主頭鎌である。基部と逆刺の一部を欠損している。外面には木質が付着している。6は7号溝の下層より出土した。方頭鎌である。刃

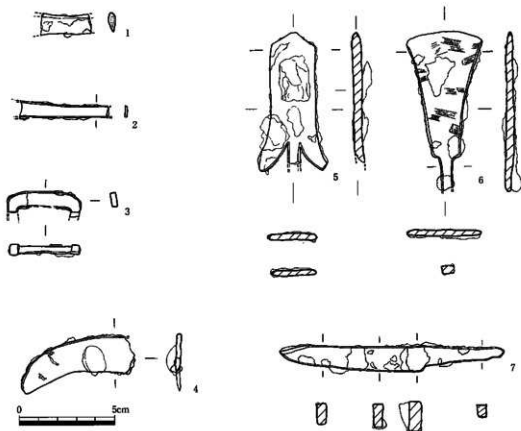


図42 0425調査地点出土鉄器実測図 (S=1/2)

部は先端のみ作り出されている。刃部には木質が多く付着している。7は1号掘立柱建物内の、遺構検出面上（Ⅳ層上面）で出土している。刀子状の形態をしているが、刀子の刃部にあたる箇所には刃が存在せず、断面方形となる。やや先端部分が薄くなる傾向はあるが、刃部とはなり得そうにない。何であるのかは判然としませんが、形態から「刀子状不明品」としておきたい。残存長11.8cm、刃部長7.6cm、刃部最大幅1.6cm、基部幅は残存部で0.6～1.0cmである。

〈縄文時代の遺物〉（図43・44）

本調査区を含めて黒髪北地区では、確実な縄文時代の遺構は未検出であるが、0425調査地点では縄文時代に属する遺物の出土がみられた。縄文時代の遺物は、古代の包含層であるⅢ層、および古代の遺構面であるⅣ層上面で検出され、ピットや古代の住居址の覆土からも出土している。層位的には縄文時代の単純層は見出せず、総じて元位置からは動いているものと思われる。

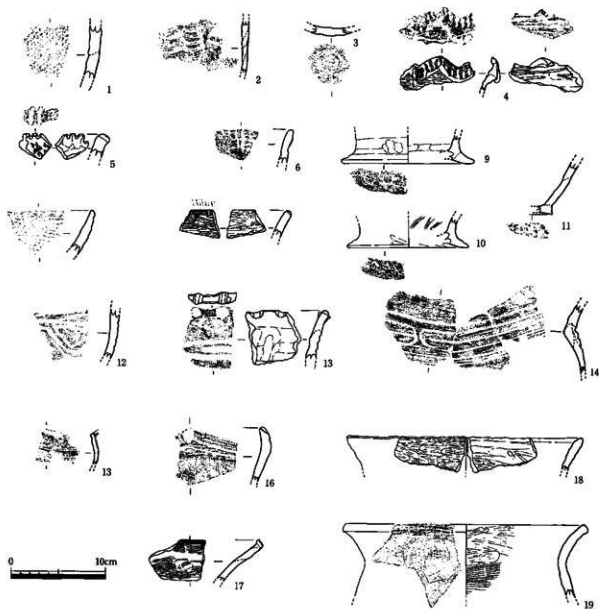


図43 0425調査地点出土縄文土器実測図（S=1/4）

〈土器〉

縄文土器は調査区全体からコンテナ1箱分(94片)が出土しているが、その内、口縁部と底部、文様のある胴部22点を抽出し図示した。

縄文早期に属すると思われる押型土器(1)、轟D式に近い破片(2、3)、並木式(5)、阿高式系(9~13)、北久根山式(4・6・16)、三万田式・太郎迫式(14・15)、縄文晩期の天城式前後と思われるもの(17)、などに類似する土器がみられ、縄文時代早期~晩期の各時期のものが出土している。

本調査区内での縄文時代関連遺物の残存状況は決して良好なものではないが、同じ黒髪地区の0302調査地点での縄文時代草創期末の可能性ある縄文土器の出土例なども勘案すれば、黒髪地区では縄文時代全期間を通して、人々の生活の跡が残っている可能性があるといえよう。

〈縄文時代の石器〉(図44)

石器も土器と同様の出土状況であり、古代の遺物とともに包含層・遺構覆土中より出土している。打製石斧1点、石鏃2点、剥片10点が出土している。

1は黒曜石製の石鏃である。215号堅穴住居址の覆土中より出土した。一部が折れて欠損している。刃部には細かな剥離調整により丁寧に整形されている。

2は黒曜石の薄片である。A区包含層(Ⅲa層)中より出土した。縦長薄片の上下端部が折れた状態で、側縁部には細かな剥離調整が認められる。

3・4も黒曜石の薄片である。3・4ともに、7号溝北側部分の溝埋土より、土師器・須恵器とともに出土した。

5は103号溝西側の、包含層であるⅣ層上面より出土した。片岩製の打製石斧である。基部は欠損し残存していない。刃部には使用によると思われる、細かな剥離痕が認められる。重量は106gである。

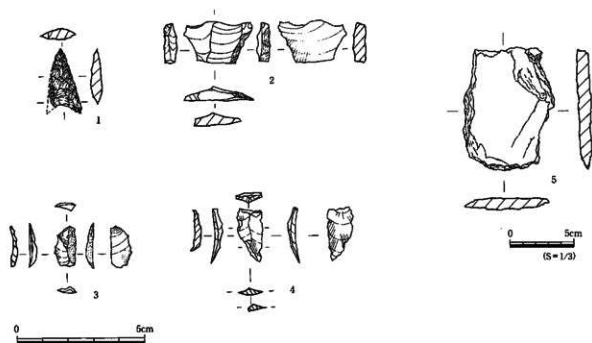


図44 0425調査地点出土石器(縄文時代)実測図(S=1/2)

表1 0425調査地点土造物観察表(土器)

調査 番号	遺構	遺物名 種類(備考)	寸法(cm) 口径 (/深さ)	高さ (厚さ)	埋存 割合	埋蔵 内容 外周	色澤 内周 外周(断面)	備考	土器No	焼成No? 埋存状況
331	1号住居址 厨下(土層)	須恵系 埴輪	16.4	(3.8)	約1/6弱	団粒ナク	Hue7.5Y6/1-5/1 灰	焼良。形跡少ない。 A.團粒を含む。		良好 程度
332	1号住居址 厨下(土層)	須恵系 埴輪	-	(1.6)	約1/5弱	団粒ナク	Hue7.5Y7/1 灰白	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
333	1号住居址 厨上(土層)	須恵系 埴輪	-	(1.0)	約1/5弱	団粒ナク	Hue2N5/6-5Y6/2 灰白	良好。形跡少ない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
334	1号住居址 土層	土師系 土師器	11.35	(2.6)	約1/6	ナメシダギキ ハタケナク	Hue5Y8/4 灰	焼良。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
335	1号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	16.5	(3.7)	約1/6	団粒ナク	Hue5Y6/2 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
336	1号住居址 下層	土師系 土師器	-	(1.5)	約1/5弱	ヨコナテ ナメシダギキ ヨコナテ	Hue2.5Y8/5 灰 Hue2.5Y8/5 明赤褐色	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
337	1号住居址 土層	土師系 土師器	11.5	5.2	約1/4弱	ヨコナテ ナメシダギキ ヨコナテ	Hue10R4/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
338	1号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	-	(0.45)	小片	ナメシダギキ ハタケナク	Hue10Y8/4 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
339	1号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	26.0	(2.15)	約1/6	ヨコナテ	Hue5Y8/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3310	1号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	22.6	(3.2)	小片	ハケ・ヨコナテ ヨコナテ	Hue2.5Y8/5 灰 Hue2.5Y8/5 明赤褐色	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3311	1号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	18.8	(6.6)	約1/6	ナメシダギキ ハタケナク	Hue5Y8/6 赤 Hue10R4/4 赤褐色	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3312	1号住居址 厨下(土層)	須恵系 埴輪	22.7	(8.3)	-	割目付目録用ナメシ ダギキ自然焼付	Hue10Y6/9 灰 Hue6.5Y5/3 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3313	37号住居址 厨上(土層)	須恵系 埴輪	15.0	(1.9)	小片	団粒ナク	Hue7.5Y6/1 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3314	37号住居址 厨上(土層)	須恵系 埴輪	16.9	(1.65)	小片	団粒ナク	Hue2.5Y6/3 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3315	37号住居址 No.12	須恵系 埴輪	-	(3.8)	約1/2	団粒ナク	Hue	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3316	37号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	(6.8)	(1.5)	小片	ヨコナテ	Hue5Y8/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3317	37号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	9.0	(2.5)	約1/6	ヨコナテ	Hue7.5Y8/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3318	37号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	27.9	(7.6)	約1/6	ナメシダギキ ハタケナク	Hue7.5Y8/4 灰 Hue5Y8/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3319	37号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	32.0	(6.0)	約1/5	ナメシダギキ トヤナク	Hue7.5Y8/6 灰 Hue7.5Y8/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3320	37号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	-	(18.7)	約1/5	ナメシダギキ ヨコナテ	Hue7.5Y8/6 赤 Hue7.5Y8/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3321	4号住居址 厨上	須恵系 埴輪	-	(1.6)	約1/4	団粒ナク	Hue8/3 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3322	4号住居址 厨上	須恵系 埴輪	-	(2.6)	小片	団粒ナク	Hue7.5Y6/1 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3323	4号住居址 厨上	土師系 土師器	22.4	(4.7)	小片	ナメシダギキ ハタケナク	Hue7.5Y8/4 灰 Hue5Y8/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3324	5号住居址 厨上(土層)	須恵系 埴輪	12.5	(1.2)	小片	団粒ナク	Hue8/5/1 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3325	5号住居址 厨上	須恵系 埴輪	14.2	(3.6)	小片	団粒ナク	Hue7.5Y6/1 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3326	5号住居址 厨上	須恵系 埴輪	-	(1.9)	約1/6	団粒ナク	Hue10R5/1 赤褐色	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3327	5号住居址 厨上	須恵系 埴輪	-	(2.0)	小片	団粒ナク	Hue5/6/1 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3328	5号住居址 厨上	須恵系 埴輪	9.6	(1.4)	小片	団粒ナク	Hue5Y5/1 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3329	5号住居址 厨上	土師系 土師器	-	(1.5)	小片	ヨコナテ	Hue10Y8/6 灰 Hue10Y8/6 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3330	5号住居址 厨上	須恵系 埴輪	-	(0.8)	小片	団粒ナク	Hue5/5/1 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3331	5号住居址 厨上	土師系 土師器	11.2	3.2	約1/6	ナメシダギキ ハタケナク	Hue5Y8/6 赤 Hue10Y8/3 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3332	5号住居址 厨上	土師系 土師器	23.1	(2.3)	小片	ヨコナテ	Hue5Y5/1 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3333	5号住居址 厨上	土師系 土師器	-	(4.36)	約1/6	ハナテ ナメシダギキ	Hue2.5Y8/6 赤 Hue6/4/1 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3334	5号住居址 厨上	土師系 土師器	31.0	(5.7)	小片	ヨコナテ	Hue5Y8/6 赤 Hue7.5Y8/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3335	5号住居址 No.2(土層)	土師系 土師器	12.5	(4.8)	約1/4	ハナテ	Hue5Y8/6 赤 Hue10R5/8 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3336	5号住居址 No.2(土層)	須恵系 埴輪	-	(5.7)	約1/3	ナメシダギキ	Hue10Y8/6 灰 Hue10Y8/6 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3337	5号住居址 厨下	須恵系 埴輪	-	(3.3)	約1/4	団粒ナク	Hue8/7/0 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3338	5号住居址 No.2(土層)	須恵系 埴輪	8.3	(3.8)	約1/4	団粒ナク	Hue5/6/1 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3339	5号住居址 No.12	土師系 土師器	13.0	4.3	完形	団粒ナク	Hue7.5Y8/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3340	5号住居址 厨上	土師系 土師器	-	(1.3)	小片	ヨコナテ	Hue10Y8/4 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3341	5号住居址 厨上(土層)	土師系 土師器	18.6	(2.6)	約1/6	ナメシダギキ ハタケナク	Hue5Y8/2 灰 Hue2.5Y8/6 赤	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3342	5号住居址 No.4	土師系 土師器	-	(15.6)	約1/4	丸割目録用ナメシ ダギキ	Hue5Y8/6 赤 Hue10Y8/4 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度
3343	5号住居址 No.4	土師系 土師器	22.2	(3.6)	約1/8	ナメシダギキ ハタケナク	Hue5Y8/4 灰 Hue5Y8/4 灰	良好。形跡ほとんど入らない。 A.團粒を多く含む。		良好 程度

表2 0425調査地点遺物観察表(土器)

調査 番号	遺物 種類	遺物名 種類(時期)	寸径(cm) 口径 (高さ)	数量 (個数)	検出 割合	検出 場所	発掘 内容 (層位)	備考	出土品1	出土品2 検出状況	
3444	35号住居址 覆土(上層)	土師器 大口鉢	18.6	(4.3)	約1/6	ナズリ・ヨコナダ ハタ後ヨコナダ	Hue7.5YR5/4 Hue5YR3/1~5/6	にぶい層 黒層一層	径1cm以下の砂礫を多く含む。 A・Cl・Ft-Gを含む。	良好 既読	
3445	35号住居址 No.13	土師器 壺・平皿	11.7	(6.2)	約1/6	ナズリ後ナズリ ハタ後ナズリ	Hue10YR7/4 Hue7.5YR5/6	にぶい層 黒層	径や中不確定。 径1cm以下の砂礫を多く含む。 A-Gを含む。	良好 既読	
3446	35号住居址 No.2	土師器 壺	25.3	(7.5)	約1/4	ナズリ・ヨコナダ ハタ後ナズリ	Hue10YR7/5 Hue10YR7/5	にぶい層 黒層	砂礫・砂礫少ない。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3447	35号住居址 覆土(上層)	土師器 大口鉢	20.0	(4.7)	約1/6	ナズリ・ヨコナダ ハタ後ヨコナダ	Hue7.5YR7/6 Hue6.5Y3/3	黒層 黒層	径1cm以下の砂礫を多く含む。 A・B-Gを含む。	良好 既読	
3448	104号住居址 No.1	土師器 IC口鉢	13.6	3.05	ほぼ1/6	黒紀ナズリ	Hue2.5YR5/6 Hue10YR5/6	覆土層より取り戻すナズリ 内外露出あり	径3.5cm以下の砂礫 A・Cl-Gを多く含む。	良好 既読	
3449	104号住居址 覆土面上	土師器 IC	—	(2.6)	小片	黒紀ナズリ	Hue5S5/1	青灰 底層部から取り戻すナズリ	陶器で精製。 A-Gの焼成を含む。	良好 既読	
3450	103号住居址 覆土(上層)	土師器 IC	11.15	(2.6)	約1/8	黒紀ナズリ ヨコナダ	Hue10YR5/4 Hue2.5YR5/6	にぶい層 黒層	径1.5cm以下の砂礫を含む。 A・Cl-Ftの砂礫を含む。	良好 既読	
3451	103号住居址 覆土(上層)	土師器 IC	—	(1.3)	約1/6	黒紀ナズリ	Hue5YR5/5	黒層	径1cm以下の砂礫を含む。	良好 既読	
3452	103号住居址 No.8	土師器 IC	(10.15)	(0.9)	約1/4	黒紀ナズリ	Hue2.5Y7/4	浅黄 黒層	径0.5cm以下の砂礫を含む。 A・B・Cl-Ftを含む。	良好 既読	
3453	103号住居址 No.2	土師器 IC	24.4	(5.9)	小片	ヨコナダ後ナズリ ナズリ・ヨコナダ	Hue2.5Y7/2	浅黄	径0.5cm以下の砂礫を含む。 A・Cl-Ftの砂礫を含む。	良好 既読	
3454	103号住居址 No.3	土師器 壺	—	(6.9)	小片	ナズリ後ナズリ ヨコナダ・ナズリ	Hue7.5YR7/6 Hue7.5YR5/6	にぶい層 黒層	IC細部外側に露出する。 有孔に開けつたものと思われる。	良好 既読	
3455	103号住居址 覆土(西側)	土師器 壺	15.0	(0.8)	小片	黒紀ナズリ	Hue2.5Y6/2	浅黄	砂礫少ない。 A・B・Cl-Ftを多く含む。	良好 既読	
3456	103号住居址 No.5	須恵器 IC	13.5	2.75	約1/4	黒紀ナズリ	Hue5S5/1	青灰	有孔に開けつた自然発露の器。	砂礫をはらふと含まない。 径0.5cm以下の砂礫を多く含む。	良好 既読
3457	103号住居址 覆土(南側)	須恵器 IC	12.2	(1.3)	小片	黒紀ナズリ	Hue5S/1	暗青灰	径1cm以下の砂礫を多く含む。 A・B-Gを多く含む。	良好 既読	
3458	103号住居址 覆土(南側)	須恵器 IC	—	(2.9)	小片	黒紀ナズリ	Hue5S/1	青灰	外側に圧痕あり。 砂礫をあまり含まない。	良好 既読	
3459	103号住居址 覆土(南側)	須恵器 IC	13.3	(1.7)	小片	黒紀ナズリ	Hue10Y7/1	灰白	径1cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3460	103号住居址 覆土(南側)	須恵器 IC	(5.4)	(1.4)	約1/4	黒紀ナズリ	Hue10Y6/1	灰白	径0.5cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cl-Gを多く含む。	良好 既読	
3461	103号住居址 埋蔵層下層	須恵器 IC	(8.4)	(1.3)	小片	黒紀ナズリ	Hue10Y6/1	暗青灰	表面・断面に鉄分付着。 陶器。	良好 既読	
3462	103号住居址 覆土	須恵器 IC	7.7	3.2	約1/3	黒紀ナズリ	HueN5/0	浅黄	径0.5cm以下の砂礫を含む。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3463	103号住居址 No.2	須恵器 IC	11.8	3.8	約1/5	黒紀ナズリ	Hue5S/1	青灰	径1cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3464	104号住居址 埋蔵層下層	須恵器 IC	9.6	(2.7)	約2/3	Hue5YR5/4 Hue2.5Y3/3	にぶい赤層 黒層	外側に鉄分付着。 有孔に開けつたものと思われる。 やや中不確定。	径0.5cm以下の砂礫を多く含む。 B-Gを多く含む。	良好 既読	
3465	102号住居址 埋蔵層下層	須恵器 IC	6.2	7.0	小片	黒紀ナズリ	Hue7.5Y5/1	灰	外側に鉄分付着。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3466	102号住居址 埋蔵層下層	須恵器 IC	12.2	2.5	約1/6	黒紀ナズリ	Hue5S/1	青灰	径2cm以下の砂礫を含む。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3467	102号住居址 埋蔵層下層	須恵器 IC	(7.1)	(1.2)	約1/6	黒紀ナズリ	Hue5Y7/3	浅黄	底層部から取り戻すナズリ。 A・B・Cl-Gを多く含む。	良好 既読	
3468	102号住居址 埋蔵層下層	須恵器 IC	(6.8)	(0.9)	小片	黒紀ナズリ	Hue5Y5/2	灰オリーブ	底層部からナズリ取り戻すナズリ。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3469	102号住居址 埋蔵層下層	須恵器 IC	(4.2)	(1.2)	小片	黒紀ナズリ	Hue10YR5/3	にぶい黄層	外側に鉄分付着にはばらばら。 径0.5cm以下の砂礫を多く含む。	良好 既読	
3470	102号住居址 埋蔵層下層	須恵器 IC	7.1	(2.2)	小片	黒紀ナズリ	Hue5S/1	青灰	陶器。砂礫をあまり含まない。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3471	102号住居址 埋蔵層下層	須恵器 IC	18.8	(1.2)	小片	黒紀ナズリ	Hue7.5YR5/6	黒層	径1cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cl-Ft-Gを多く含む。	良好 既読	
3472	102号住居址 埋蔵層下層	須恵器 IC	(17.3)	(5.8)	小片	黒紀ナズリ	Hue7.5YR5/4	にぶい赤層	底層より取り戻すナズリ。 A・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3473	101号住居址 覆土	須恵器 大口鉢	11.0	(2.0)	小片	黒紀ナズリ	Hue5S/1	青灰	径2cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3474	101号住居址 覆土	須恵器 IC	13.2	(1.6)	小片	黒紀ナズリ	HueN5/1	青灰	陶器で精製。 砂礫をはらふと含まない。	良好 既読	
3475	101号住居址 覆土	須恵器 IC	11.2	(1.4)	小片	黒紀ナズリ	Hue10Y7/1	灰白	径0.5cm以下の砂礫を多く含む。 A・Cl-Gを多く含む。	良好 既読	
3476	101号住居址 下層(No.1)	土師器 IC	—	(2.4)	小片	黒紀ナズリ	7.5YR7/6	黒層	径0.5cm以下の砂礫を含む。 A・Cl-Ft-Gを多く含む。	良好 既読	
3477	101号住居址 下層(No.1)	土師器 IC	23.6	(13.3)	約1/6	ヨコナダ・ナズリ ナズリ・ヨコナダ	Hue5YR5/6	黒層	径2cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cl-Ft-Gを多く含む。	良好 既読	
3478	200号住居址 下層	須恵器 IC	9.9?	(1.6)	小片	黒紀ナズリ	HueN5/1	灰	陶器製。 A・B・Cl-Gを多く含む。	良好 既読	
3479	200号住居址 No.1	須恵器 IC	10.2	(2.6)	小片	黒紀ナズリ	Hue10Y6/1	灰	径0.5cm以下の砂礫を含む。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3480	200号住居址 No.1	須恵器 IC	13.2	3.15	変形	黒紀ナズリ	Hue10YR7/4	にぶい黄層	底層から取り戻すナズリ。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3481	200号住居址 上層	土師器 IC	12.5	3.3	約1/2	黒紀ナズリ	Hue2.5YR5/6	明赤層	内外露出あり 径0.5cm以下の砂礫を多く含む。	良好 既読	
3482	200号住居址 上層	土師器 IC	28.5	(6.1)	小片	ヨコナダ・ナズリ ナズリ・ヨコナダ	Hue10YR5/6	黒層	径2cm以下の砂礫を多く含む。 A・Cl-Gを多く含む。	良好 既読	
3483	109号住居址 覆土(西)	須恵器 IC	15.1	(1.4)	小片	黒紀ナズリ	Hue10YR7/4	にぶい黄層	径0.5cm以下の砂礫を含む。 A・B・Cl-Ftを含む。	良好 既読	
3484	109号住居址 覆土	須恵器 IC	12.1	(2.0)	約1/8	黒紀ナズリ	Hue5Y6/2	灰オリーブ	精製した器。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3485	109号住居址 ピット	須恵器 IC	11.0	(2.6)	小片	黒紀ナズリ	Hue7.5Y6/1	灰	径2cm以下の砂礫を含む。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	
3486	109号住居址 覆土(南)	須恵器 IC	14.6	(2.6)	小片	黒紀ナズリ	HueN5/1	灰	径0.5cm以下の砂礫を含む。 A・B・Cl-Gを含む。	良好 既読	

表3 0425調査地点遺物観察表(土器)

番号	遺物	遺物名(類別)	寸法(cm) 口徑 高さ	器高 (器厚)	残存 割合	調査 内容 内照	色澤 内照 外照	備考	出土層	出土状況
87	130号住居址 下層	灰器部 灰器部	11.2	0.0	約1/8	細紐ナゲ 細紐ナゲ	Hue5Y7/2 Hue5Y7/2	灰白 灰白		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
88	130号住居址 中層(西)	須恵器部 須恵器部	11.5	3.9	約1/2	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5Y7/2 Hue5Y7/2	灰白 灰白		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
89	130号住居址 覆土	須恵器部 須恵器部	—	(2.0)	約1/8	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5B/1 Hue5B/1	青灰 青灰		須恵器部を多く含む。 あまり砂礫を含まない。
90	130号住居址 No.2	須恵器部 須恵器部	12.9 (6.4)	3.2	約1/2	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5Y5/1 Hue5Y5/1	灰 灰		須恵器部を多く含む。 あまり砂礫を含まない。
91	130号住居址 No.1(西)	須恵器部 須恵器部	—	(2.0)	約1/4	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5Y5/1 Hue5Y5/1	灰 灰		須恵器部を多く含む。 あまり砂礫を含まない。
92	130号住居址 覆土(ベルト)	須恵器部 須恵器部	—	(0.8)	—	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5Y4/1 Hue5Y5/2	灰 灰オリーブ		片一層と2層の間に埋まっている。 須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
93	130号住居址 覆土(ベルト)	土師器部 土師器部	12.6	3.1	劣形	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5Y8/6 Hue5Y8/6	黄 黄		須恵器部を多く含む。 あまり砂礫を含まない。
94	130号住居址 覆土(西上層)	須恵器部 須恵器部	11.78	3.7	約2/3	ヨコナゲ・ミザナ ヨコナゲ・ナズリ	Hue5Y5/2 Hue7_5Y8/6	黄 黄		11cm以下の砂礫を多く含む。 Oを多く含む。
95	130号住居址 下層	土師器部 土師器部	14.2	6.7	約1/5	ヨコナゲ・ナズリ ハケ・ヨコナゲ	Hue5Y8/6 Hue5Y8/2	黄 黄		外周・口縁内に埋付着。 11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
96	130号住居址 No.2	土師器部 土師器部	15.8	6.7	約1/4	ヨコナゲ・ナズリ ヨコナゲ	Hue5Y8/2 Hue5Y5/2	黄 黄		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
97	130号住居址 No.1	須恵器部 須恵器部	—	(2.2)	約1/4	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5Y5/2 Hue2_5Y7/4	灰オリーブ 黄		90と同一層状。 11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
98	130号住居址 上層	須恵器部 須恵器部	—	(2.5)	約1/2	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue2_5Y7/2 Hue2_5Y7/2	黄 黄		97と同一層状。 須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
99	128号住居址 覆土(西上層)	須恵器部 須恵器部	—	(1.2)	約1/6	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5B/1 Hue5B/1	青灰 青灰		須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
100	128号住居址 No.6(北西)	土師器部 須恵器部	—	(1.2)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue10Y8/6 Hue10Y8/6	黄 黄		須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
101	128号住居址 須恵器部	土師器部 土師器部	—	(1.5)	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue7_5Y8/6 Hue7_5Y8/6	黄 黄		小片で復元不可。 11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
102	128号住居址 覆土(北東)	土師器部 土師器部	—	(1.9)	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue10Y2/3 Hue10Y2/3	黄 黄		小片で復元不可。 11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
103	128号住居址 覆土	土師器部 土師器部	—	(2.8)	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue10Y2/3 Hue10Y2/1	黄 黄		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
104	128号住居址 覆土	土師器部 土師器部	—	(2.2)	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue10Y8/6 Hue10Y8/6	黄 黄		小片で復元不可。 11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
105	128号住居址 No.6(西)	土師器部 土師器部	15.1	6.1	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue5Y8/6 Hue5Y8/6	黄 黄		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
106	128号住居址 覆土	土師器部 土師器部	—	(1.6)	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue7_5Y8/6 Hue7_5Y8/6	黄 黄		小片で復元不可。 11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
107	128号住居址 覆土	土師器部 土師器部	23.3	(1.3)	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue10Y8/6 Hue10Y8/2	黄 黄		小片のためほぼ参考。 11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
108	128号住居址 No.1-2(北東)	須恵器部 須恵器部	—	(16.2)	F40級	タタキ地ナゲ タタキ地ナゲ	Hue7_5Y8/6 Hue7_5Y8/6	黄 黄		須恵器部である。 A・B・Cを多く含む。
109	328号 覆土	須恵器部 須恵器部	10.7	(2.4)	小片	ヨコナゲ・ミザナ ヨコナゲ・ミザナ	Hue2_5Y7/4 Hue2_5Y7/4	黄 黄		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
110	328号住居址 覆土	土師器部 土師器部	12.5	(1.9)	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue7_5Y8/6 Hue7_5Y8/6	黄 黄		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・C・Fを多く含む。
111	98号住居址 下層(東手)	土師器部 土師器部	12.4	(2.0)	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue2_5Y3/1 Hue2_5Y3/2	黒 黒		隅々や不連続。 11cm以下の砂礫を多く含む。 A・Cの砂礫を多く含む。
112	98号住居址 下層(東手)	須恵器部 須恵器部	18.0	(2.4)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue7_5Y8/1 Hue5B/1	灰 青灰		須恵器部を多く含む。 Oを多く含む。
113	313号住居址 一層	須恵器部 須恵器部	—	(5.3)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5B/1 Hue5B/1	青灰 青灰		外周に自然付着。 須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
114	313号住居址 一層	須恵器部 須恵器部	—	(1.4)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue10Y8/4 Hue10Y8/4	黄 黄		須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
115	246号住居址 覆土	土師器部 土師器部	—	(3.4)	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue7_5Y8/7 Hue7_5Y8/6	黄 黄		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
116	246号住居址 覆土	土師器部 土師器部	24.0	(3.2)	小片	ヨコナゲ ヨコナゲ	Hue10Y8/4 Hue10Y8/4	黄 黄		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
117	90号住居址 覆土	須恵器部 須恵器部	13.9	(0.6)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5Y7/1 Hue5Y7/1	灰白 灰白		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
118	90号住居址 No.1	須恵器部 須恵器部	12.4	(1.7)	約1/8	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5N5/0 Hue5B/1	灰 青灰		外周に黒色自然付着。 A・B・Cを多く含む。
119	90号住居址 No.2(北西)	須恵器部 須恵器部	12.7	(2.8)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	HueN3/1 Hue5Y8/1	灰 灰		外周に黒色自然付着。 11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
120	90号住居址 覆土	土師器部 土師器部	11.3	(0.8)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5Y8/1 Hue5Y8/1	灰 灰		須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
121	90号住居址 覆土	須恵器部 須恵器部	13.0	(2.0)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5B/1 Hue5B/1	青灰 青灰		外周に黒色自然付着。 須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
122	90号住居址 覆土(北東)	須恵器部 須恵器部	11.1	(2.5)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue7_5Y5/1 Hue7_5Y4/1	灰 灰		須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
123	90号住居址 覆土	須恵器部 須恵器部	—	(0.9)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5B/1 Hue7_5Y3/1	灰 灰		須恵器部を多く含む。 あまり砂礫を含まない。 A・B・Cを多く含む。
124	90号住居址 覆土(北西)	須恵器部 須恵器部	—	(1.5)	約1/5	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5B/1 Hue5B/1	青灰 青灰		高台階付直有。 11cm以下の砂礫を多く含む。 A・Cを多く含む。
125	90号住居址 No.3	土師器部 土師器部	24.2	(3.5)	小片	ヨコナゲ・ナズリ ハケ・ヨコナゲ	Hue10Y8/4 Hue10Y8/3	黄 黄		11cm以下の砂礫を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
126	56号住居址 覆土	須恵器部 須恵器部	—	(1.15)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	HueN5/1 HueN6/1	灰 灰		須恵器部を多く含む。 須恵器部を多く含む。
127	56号住居址 覆土	須恵器部 須恵器部	—	(0.8)	小片	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue2_5Y8/1 HueN4/1	灰白 灰白		須恵器部を多く含む。 須恵器部を多く含む。
128	56号住居址 No.1(下層)	須恵器部 須恵器部	12.9	(2.1)	約1/2	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue5B/1 Hue5B/1	灰 灰		外周黒色自然付着。 須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。
129	56号住居址 覆土(上層)	須恵器部 須恵器部	20.1	(2.8)	約1/8	須恵ナゲ 須恵ナゲ	Hue7_5Y8/1 Hue10Y8/1	灰 灰		外周黒色自然付着。 須恵器部を多く含む。 A・B・Cを多く含む。

表4 0425調査地点遺物観察表(土器)

調査番号	遺物名 (種類)	寸法(cm) (口径/高さ)	調査 時期	発掘 層	調査 範囲	調査 内容	備考	出土層	備考
36	130号住居址 須磨部	12.8 (3.06)	約1/4	新築ナダ	内周 外周	Har7.5V5/1 Har7.5V3/1	既	黒土	黒土
37	131号住居址 須磨部 (表25)	(1.8)	約1/4	新築ナダ		Har7.5V5/1 Har7.5V3/1	既	黒土	外周に灰オリーブ色土が付く。 底面は黒土切り後ナダ
38	132号住居址 須磨部 (下層)	9.0 (2.3)	幅小片	新築ナダ		Har7.5V5/6 Har7.5V6/5	既	黒土	途中不確定。
39	133号住居址 須磨部 (中層)	11.0 (4.0)	約1/6	ヨコナダ		Har7.5V7/3	既	黒土	内周に灰吹状1.0ガキ。
39	134号住居址 須磨部 (上層)	8.4 (2.3)	約1/6	ナズリ残ナダ		Har7.5V7/5/6	既	黒土	既25m以下の砂礫を多く含む。
39	135号住居址 須磨部 (下層)	22.1 (3.7)	約1/8	ヨコナダ・ナズリ ヨコナダ		Har7.5Y2/1 Har7.5V6/5	既	黒土	既25m以下の砂礫を多く含む。
39	136号住居址 須磨部 (下層)	26.2 (4.6)	約1/6	ヨコナダ・ナズリ ナズリ残ナダ		Har7.5V7/5	既	黒土	外周に付着。
39	137号住居址 須磨部 (上層)	14.9 (1.1)	小片	新築ナダ		Har7.5V5/1 Har7.5V6/5	既	黒土	外周に付着。
39	138号住居址 須磨部 (下層)	— (1.8)	約1/8	新築ナダ		Har7.5Y2/1	既	黒土	外周に付着。
39	139号住居址 須磨部 (下層)	29.6 (10.7)	約1/2	ヨコナダ・ナズリ ハケ残ヨコナダ		Har7.5Y2/1 Har7.5V6/5	既	黒土	外周全体に付着。
39	140号住居址 須磨部 (下層)	13.8 (0.8)	小片	新築ナダ		Har7.5Y2/1 Har7.5V6/5	既	黒土	内外面に黒色の自然色を含む。
39	141号住居址 須磨部 (下層)	— (1.1)	小片	新築ナダ		Har7.5Y2/1 Har7.5V6/5	既	黒土	内外面に黒色の自然色を含む。
39	142号住居址 須磨部 (下層)	14.2 (1.0)	小片	新築ナダ		Har7.5V6/5 Har7.5V6/5	既	黒土	断面は付着。
39	143号住居址 須磨部 No.5-7-8	32.0 (1.4)	既研研	ヨコナダ・ナズリ ナズリ残ナダ		Har7.5V6/5 Har7.5Y2/1	既	黒土	外周に付着。
39	144号住居址 須磨部 No.2	10.4 (5.3)	約1/2	ナズリ残ナダ		Har7.5V6/5 Har7.5V6/5	既	黒土	内外面に付着。
39	145号住居址 須磨部	26.5 (1.8)	小片	ヨコナダ・ナズリ ハケ残ヨコナダ		Har7.5V6/5 Har7.5Y2/1	既	黒土	外周に付着。
39	146号住居址 上層(表区)	17.4 (2.1)	約1/2	ヨコナダ・ナズリ ナズリ残ナダ		Har7.5V6/5 Har7.5Y2/1	既	黒土	外周に付着。
39	147号住居址 上層(表区)	25.9 (3.4)	小片	ヨコナダ・ナズリ ナズリ残ナダ		Har7.5V6/5 Har7.5Y2/1	既	黒土	外周に付着。
39	148号住居址 下層(A区)	17.4 (2.4)	小片	ヨコナダ		Har7.5V7/4	既	黒土	断面は付着。
39	149号住居址 須磨部	— (7.4)	小片	ナズリ ナズリ残ナダ		Har7.5V6/5 Har7.5V6/5	既	黒土	断面は付着。
39	150号遺物 須磨部 土師部	14.0 (6.2)	小片	新築ナダ		Har7.5Y1/1	既	黒土	既25m以下の砂礫を多く含む。
39	151号遺物 須磨部	13.2 (3.1)	約3/4	新築ナダ		Har7.5V6/5 Har7.5V6/5	既	黒土	既25m以下の砂礫を多く含む。
39	152号遺物 須磨部	— (1.8)	小片	新築ナダ		Har7.5V6/5 Har7.5V6/5	既	黒土	断面は付着。
39	153号遺物 須磨部 土師部	— (3.2)	幅小片	新築ナダ		Har7.5Y1/1	既	黒土	断面は付着。
39	154号土塊 須磨部 土師部	15.2 (0.9)	小片	新築ナダ		Har7.5Y1/1	既	黒土	断面は付着。
39	155号土塊(A1区) 須磨部	(11.05)	約1/4	新築ナダ		Har7.5V6/5	既	黒土	断面は付着。
39	156号土塊 須磨部 土師部	29.0 (2.6)	小片	ヨコナダ・ナズリ ハケ残ヨコナダ		Har7.5Y2/1 Har7.5Y2/1	既	黒土	断面は付着。
39	157号土塊 須磨部 土師部	16.3 (5.7)	約1/6	新築ナダ		Har7.5V7/5	既	黒土	断面は付着。
39	158号土塊 須磨部 土師部	— (3.8)	約1/6	新築ナダ		Har7.5V6/5	既	黒土	断面は付着。
39	159号土塊 須磨部 土師部	17.9 (3.2)	小片	ヨコナダ		Har7.5Y2/1	既	黒土	断面は付着。
39	160号土塊 須磨部 土師部	12.8 (4.1)	約1/2	新築ナダ		Har7.5V6/5	既	黒土	内外面に黒色の自然色を含む。
39	161号土塊 須磨部 土師部	— (0.56)	小片	新築ナダ		Har7.5V6/5	既	黒土	断面は付着。
39	162号土塊 須磨部 土師部	— (2.2)	小片	新築ナダ		Har7.5V6/5	既	黒土	断面は付着。
39	163号土塊 須磨部 土師部	31.6 (2.4)	小片	ヨコナダ・ナズリ ヨコナダ		Har7.5V6/5 Har7.5V6/5	既	黒土	既25m以下の砂礫を多く含む。
39	164号土塊 須磨部 土師部	27.0 (3.6)	小片	ヨコナダ・ナズリ ヨコナダ		Har7.5V7/5 Har7.5V7/5	既	黒土	既25m以下の砂礫を多く含む。
39	165号土塊 須磨部 土師部	24.5 (1.8)	小片	ヨコナダ		Har7.5V6/5	既	黒土	既25m以下の砂礫を多く含む。
39	166号土塊 須磨部 土師部	18.6 (7.5)	約1/6	ヨコナダ・ナズリ ハケ残ヨコナダ		Har7.5Y2/1 Har7.5Y2/1	既	黒土	既25m以下の砂礫を多く含む。
39	167号土塊 須磨部 土師部	16.7 (2.4)	約1/5	ヨコナダ		Har7.5Y2/1	既	黒土	既25m以下の砂礫を多く含む。
39	168号土塊 須磨部 土師部	22.0 (4.9)	小片	ヨコナダ		Har7.5Y2/1	既	黒土	既25m以下の砂礫を多く含む。
39	169号土塊 須磨部 土師部	14.4 (2.7)	約1/6	新築ナダ		Har7.5V6/5	既	黒土	断面は付着。
39	170号土塊 須磨部 土師部	22.2 (3.5)	小片	ヨコナダ		Har7.5V7/5	既	黒土	断面は付着。
39	171号土塊 須磨部 土師部	— (2.1)	小片	ナズリ ナズリ残ナダ		Har7.5V6/5 Har7.5Y1/1	既	黒土	断面は付着。
39	172号土塊 須磨部 土師部	13.9 (4.2)	小片	ヨコナダ		Har7.5Y2/1	既	黒土	断面は付着。

表5 0425調査地点遺物観察表(土器)

No	遺物	遺物名 (種類)	寸法 (寸法)	高さ (深さ)	発見 割合	調査 内蔵 状況	色調 内蔵 (断面)	備考	出土層	構成#2 保存状況	
37	173	82号ピット 覆土 (B6E)	土師器 灰土器	— (9.4)	(0.7)	小片	新転ナテ Hae7.5YR7/6	鉄	底部回転ヘラ切り後ナテ	径1mm以下の砂礫を多く含む。 A・B・C・D・Fを含む。	良好 鉄質
37	174	82号ピット 覆土 (B6E)	灰土器	12.3 (5.8)	約1/6	小片	新転ナテ Hae7.5YR5/1	黄	底部回転ヘラ切り後ナテ	径0.5mm以下の砂礫を多く含む。 A・B・C・D・Fを多く含む。 E・Gを多く含む。	良好 やや不良 鉄質
37	175	82号ピット 覆土 (B6E)	灰土器	— (5.5)	(5.6)	約2/3	新転ナテ Hae7.5YR7/1	灰	底部回転ヘラ切り後ナテ	径1mm以下の砂礫を多く含む。 A・B・C・D・Fを多く含む。	良好 やや不良 鉄質
37	176	100号土坑 覆土 (B7)	灰土器	14.3 (2.9)	約1/8	小片	新転ナテ Hae5B5/1	青灰	—	精査	良好 やや不良
37	177	100号土坑 下層	灰土器	— (7.5)	(1.0)	小片	新転ナテ Hae5Y7/1	灰	—	調査で精査し不詳。	良好 やや不良
37	178	100号土坑 覆土	灰土器	13.8 (1.6)	小片	回転ナテ	Hae5Y5/1	黄	—	調査で精査し不詳。	良好 鉄質
37	179	100号 覆土 (北東)	灰土器	13.1 (3.2)	約1/4	小片	回転ナテ	Hae5B5/1	黄	—	調査
37	180	100号土坑 覆土 (北東)	灰土器	12.0 (2.9)	約1/8	小片	新転ナテ	Hae7.5YR2/6	灰黄	—	調査
37	181	100号土坑 土壁	灰土器	— (11.2)	(1.6)	小片	新転ナテ	Hae5B5/1	黄	—	調査
37	182	100号土坑 覆土 (北東)	土師器	— (9.3)	(1.1)	約1/6	新転ナテ Hae10YR7/6	明黄褐	—	調査	
37	183	100号土坑 覆土 (北東)	灰土器	— (2.7)	(1.0)	小片	ヨコナテ HaeN3/1	黄	—	調査	
37	184	100号土坑 覆土 (北東)	灰土器	15.4 (3.2)	小片	新転ナテ	Hae10YR8/6	黄褐	—	調査	
37	185	100号土坑 覆土 (北東)	灰土器	22.0 (3.3)	小片	ヨコナテ	Hae10YR7/1	灰白	—	調査	
37	186	100号土坑 北東	土師器	— (3.9)	(3.9)	小片	ヨコナテ	Hae7.5YR8/6	黄褐色	—	調査
37	187	84号(9号)上層 105号(10号)の 覆土 (北東)	黒色土師 土師器	13.3 5.15	約1/3	小片	新転ナテ Hae5B2/1	青黒	—	調査	
37	188	104号ピット 覆土 (B6E)	土師器	24.1 (1.8)	小片	ヨコナテ	Hae10YR7/6	明黄褐	—	調査	
37	189	104号ピット 覆土 (B6E)	灰土器	8.8 (3.0)	小片	新転ナテ	Hae5B6/1	明黄	—	調査	
37	190	104号ピット 覆土 (B6E)	灰土器	11.3 (2.2)	小片	新転ナテ	Hae5B6/1	黄	—	調査	
37	191	109号ピット 覆土 (B6E)	土師器	12.0 3.8	約1/3	小片	新転ナテ Hae2.5Y7/3	灰黄	—	調査	
37	192	122号ピット 覆土 (B6E)	灰土器	10.6 (2.7)	小片	新転ナテ	Hae7.5YR5/1	黄	—	調査	
37	193	97号ピット 覆土 (C区)	灰土器	12.6 (2.2)	小片	新転ナテ	Hae7.5YR5/1	灰	—	調査	
37	194	127号ピット 覆土	灰土器	11.9 (3.4)	約1/5	小片	新転ナテ Hae10Y6/1	灰	—	調査	
37	195	127号ピット 覆土	土師器	11.9 (3.4)	約1/8	小片	ナチ焼1号キ Hae7.5YR7/6	黄	—	調査	
37	196	135号ピット 覆土 (B4E)	灰土器	13.4 (2.0)	小片	新転ナテ	Hae2.5YR6/1	灰	—	調査	
37	197	135号ピット 覆土 (B2E)	土師器	12.7 (2.7)	約1/2	小片	新転ナテ Hae2.5YR6/6	明赤褐	—	調査	
37	198	135号ピット 覆土 (D4E)	灰土器	14.0 (1.6)	約1/8	小片	新転ナテ Hae10Y6/1	赤	—	調査	
37	199	196号ピット 覆土	土師器	— (3.2)	(3.2)	小片	ヨコナテ Hae5YR8/6	黄	—	調査	
37	200	301号ピット 覆土	灰土器	9.7 (3.0)	小片	新転ナテ	Hae10Y6/1	灰白	—	調査	
37	201	301号ピット 覆土	土師器	— (11.2)	約1/3	小片	新転ナテ Hae10YR8/6	黄	—	調査	
37	202	301号ピット 覆土	灰土器	13.2 (2.2)	小片	新転ナテ	Hae5B5/1	青灰	—	調査	
37	203	303号ピット 覆土	灰土器	— (11.7)	(1.1)	小片	新転ナテ HaeN6/1	灰	—	調査	
37	204	213号 覆土 (B6E)	灰土器	11.3 (1.7)	小片	新転ナテ	Hae7.5YR5/1	灰	—	調査	
37	205	225号ピット 覆土 (B9E)	灰土器	— (1.0)	約1/6	小片	新転ナテ Hae5Y5/1	黄	—	調査	
37	206	227号ピット 覆土 (C区)	灰土器	— (3.0)	約1/4	小片	新転ナテ Hae7.5YR2/6	黄	—	調査	
37	207	227号ピット 覆土 (C区)	灰土器	8.6 (0.7)	約1/4	小片	新転ナテ Hae5Y7/1	灰白	—	調査	
37	208	228号ピット 覆土 (B9E)	土師器	13.6 (3.4)	約1/4	小片	新転ナテ Hae7.5YR7/6	黄	—	調査	
37	209	228号ピット 覆土 (B9E)	土師器	13.8 (3.4)	約1/4	小片	新転ナテ Hae7.5YR8/4	黄	—	調査	
37	210	228号ピット 覆土 (B9E)	灰土器	12.7/8.8 8.5	約1/4	小片	新転ナテ Hae5B5/1	青灰	—	調査	
37	211	231号ピット 覆土 (A区)	灰土器	14.2 3.0	小片	新転ナテ	Hae5Y6/4	灰	—	調査	
37	212	233号ピット 覆土 (A区)	灰土器	— (1.0)	小片	新転ナテ	Hae5B4/1	青灰	—	調査	
37	213	233号ピット 覆土 (A区)	灰土器	— (1.1)	約1/5	小片	新転ナテ Hae5Y6/1	灰	—	調査	
37	214	233号ピット 覆土 (A区)	灰土器	9.7 (3.4)	約1/4	小片	新転ナテ Hae10YR5/1	黄	—	調査	
37	215	234号ピット 覆土 (B4E)	灰土器	— (1.8)	(1.8)	小片	新転ナテ Hae7.5Y7/1	灰白	—	調査	

表 6 0425調査地点遺物観察表(土器)

図	番号	遺物	遺物名 種類(図形)	寸法(cm) 口径 (ノズル)	高さ (深さ)	残存 割合	断面 内径 外径	胎土 内質 外質(ノズル)	備考	出土#1	横断#2 透視状況	
36	216	254号ピット 関土 (B区)	灰土層部 焼土層部	13.9	(2.9)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae5Y7/2 Hae5Y5/1	灰白 灰	用器。 A 胎土を多量に含む。	今や不貞 良好 質質	
37	217	250号ピット 関土 (B区)	土層部 焼土層部	15.6	(4.3)	約1/7	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae7.5YR7/6 Hae7.5YR7/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A・C・D・Fを含む。	良好 質質 質質	
38	218	250号ピット 関土	土層部 焼土層部	26.6	(14.4)	約1/6	ヨコナダ・ナズリ ハナナクナダ	Hae2.5Y6/2 Hae2.5Y6/4	黄赤 に灰黄	内周面幅以下に黒化。	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A・B・C・D・Gを含む。	良好 質質 質質
39	219	252号ピット 関土 (B区)	土層部 焼土層部	17.9	(3.4)	小片	ヨコナダ・ナズリ ナダ・ナズリ	Hae10K4/6 Hae7.5YR7/6	赤 赤	内周面は黄褐色。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
40	220	251号ピット 関土 (B区)	焼土層部 灰土層部	10.8	(2.7)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae7.5YR7/6 Hae7.5YR7/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A 胎土・Cを含む。	良好 質質 質質	
41	221	252号ピット 関土 (B区)	土層部 焼土層部	—	(5.4)	小片	ナダ・ナズリ ナナナクナダ	Hae2.5Y6/4 Hae2.5Y6/4	に灰黄 に灰黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A 胎土・B・C・D・Fを多く含む。	良好 質質 質質	
42	222	311号ピット 関土 (B区)	黒色土層 灰土層部	13.5, 6.8, 0.6	(4.06)	約1/3	胎土ナダ 胎土ナダ	HaeN3/1 HaeN3/1	黒灰 黒灰	黒色土層は黒灰 A 胎土を多く含む。	良好 質質 今や不貞	
43	223	223号 (D区)	黒色土層 焼土層部	—	(1.8)	小片	ヨコナダ ナダ・ナズリ	Hae5B1.7/1 Hae2.5Y7/1	青黒 黄赤	内周面が対峙しナダ。 胎土5cm以下の砂層を多く含む。	良好 質質 質質	
44	224	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(2.6)	約1/4	ヨコナダ・ナダ ヨコナダ	Hae7.5Y2/1 Hae7.5Y5/6	黄 黄	内周黒色化する。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
45	225	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(3.0)	約1/6	ナダ・ナズリ 胎土ナダ	HaeN2/9 Hae10YR7/4	黄 黒	内周黒色化。 A・C・Fを含む。	良好 質質 質質	
46	226	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	12.4	(2.5)	約1/5	ヨコナダ・ナズリ ヨコナダ	Hae10YR7/4 HaeN2/1	黒 青黒	内周黒化。胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A・C・Hを含む。	良好 質質 今や不貞	
47	227	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(2.2)	約1/5	ナダ・ナズリ ヨコナダ	HaeN2/9 Hae7.5Y7/4	黒 黄赤	胎土5cm以下の砂層を含む。 A・Dを含む。	良好 質質 質質	
48	228	包含層(B6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	14.0	3.2	約1/5	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae7.5Y5/1 Hae10Y5/1	灰 灰	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 Bを多く含む。	良好 質質 質質	
49	229	包含層(B6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	12.5	(3.0)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae10Y5/1 Hae10Y5/1	灰 灰	高台環状の可能性あり。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
50	230	包含層(B6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	12.4	(2.8)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae10Y7/1 Hae7.5Y5/1	灰白 灰	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 今や不貞	
51	231	包含層(B6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	11.7	3.9	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae5T5/1 Hae5T5/1	灰 灰	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 今や不貞	
52	232	包含層(F区) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	12.0	(2.8)	小片	ヨコナダ ヨコナダ	Hae5P8/1 Hae7.5Y6/6	赤黒 黄	内周にナダ・Fあり。胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
53	233	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(1.2)	約1/4	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae7.5Y7/1 Hae7.5Y7/1	灰白 灰白	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
54	234	包含層 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(3.2)	約1/2	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae7.5Y6/1 Hae7.5Y6/1	灰 灰	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	今や不貞 良好 質質	
55	235	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	11.6	(4.6)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae2.5Y6/2 Hae2.5Y6/1	黄赤 黄赤	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A 胎土・B・Gを含む。	今や不貞 良好 質質	
56	236	包含層 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(2.3)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae5Y6/1 Hae5Y6/1	灰 灰	高台環状の可能性もある。 胎土を多く含む。	今や不貞 良好 質質	
57	237	包含層(B6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	10.2	3.7	約1/6	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae5G2/2 Hae5P5/1	黄緑 赤黒	高台の胎土が著しく白。 胎土5cm以下の砂層を多く含む。	良好 質質 質質	
58	238	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(2.0)	約1/4	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae7.5Y7/2 Hae7.5Y7/3	灰白 灰白	胎土を多く含む。 A・Cを含む。	今や不貞 良好 質質	
59	239	包含層 灰土層部	黒色土層 焼土層部	14.3	(4.6)	約1/3	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae2.5Y7/1 Hae2.5Y7/1	灰白 灰白	胎土を多く含む。 A 胎土を多く含む。	不貞 質質 質質	
60	240	包含層(B6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	12.9	(3.3)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae5Y6/6 Hae5Y6/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
61	241	包含層(B6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	14.4	(3.9)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae5Y6/6 Hae5Y6/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A・F・Gを含む。	良好 質質 質質	
62	242	包含層 灰土層部	黒色土層 焼土層部	15.1	5.36	約1/6	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae7.5YR7/6 Hae7.5YR7/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
63	243	包含層(D区) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	14.2	3.2	小片	ヨコナダ・ナズリ ヨコナダ	Hae7.5YR7/6 Hae7.5YR7/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
64	244	包含層 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(1.3)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae7.5YR7/6 Hae7.5YR7/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A・Cを含む。	良好 質質 質質	
65	245	包含層(B区) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(1.2)	約1/4	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae7.5YR7/6 Hae7.5YR7/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
66	246	包含層(B区) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	7.9	10.8	小片	ヨコナダ ヨコナダ	Hae7.5YR7/6 Hae7.5YR7/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
67	247	包含層(B6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(1.1)	約1/3	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae5Y6/1 Hae5Y6/1	灰 灰	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
68	248	包含層(C1E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(1.7)	約1/5	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae5Y5/1 Hae5YR7/8	灰 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	今や不貞 良好 質質	
69	249	包含層(B6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	13.1	(3.0)	約1/3	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae2.5Y6/6 Hae5YR7/8	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
70	250	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(2.1)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae10YR7/3 Hae5YR7/6	黄赤 黄赤	胎土を多く含む。 A・C・Dを含む。	良好 質質 質質	
71	251	包含層(A区) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(1.9)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae2.5Y6/6 Hae2.5Y6/6	黄 黄	胎土を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
72	252	包含層(B4E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(1.0)	約1/6	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae10YR7/4 Hae10YR7/6	に灰黄 黄赤	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A・Fを含む。	今や不貞 良好 質質	
73	253	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(2.7)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae2.5Y6/6 Hae2.5Y6/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
74	254	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	15.2	(0.8)	小片	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae7.5YR7/6 Hae7.5YR7/6	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 A 胎土・B・F・Gを多く含む。	良好 質質 質質	
75	255	包含層(F区) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	17.4	(2.1)	約1/4	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae10K6/6 Hae5YR7/6	赤 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
76	256	包含層(A6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	—	(1.6)	約1/2	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae10K6/6 Hae5YR7/6	赤 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	
77	257	包含層(B6E) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	12.2	3.0	約1/2	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae2.5Y6/4 Hae2.5Y6/3	に灰黄 に灰黄	胎土を多く含む。 A・B・Dを含む。	良好 質質 質質	
78	258	包含層(D区) 灰土層部	黒色土層 焼土層部	15.3	(3.1)	約1/8	胎土ナダ 胎土ナダ	Hae5YR7/8 Hae2YR7/8	黄 黄	胎土5cm以下の砂層を多く含む。 胎土を多く含む。	良好 質質 質質	

表7 0425調査地点遺物観察表(土器)

調査 番号	遺物 目録	遺物名 種類(器種)	寸法(cm) 口径/高さ	高さ (深さ)	埋存 割合	調査 位置	色図 内照 外照(断面)	備考	土器1	構成#2 埋存状況	
30259	包含層 埋層	土師器 土	10.8	(1.6)	小片	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆	表裏に黒炭土散布。	黒炭土散布。	良好 状態
30260	包含層(A6区) 埋層	土師器 土	11.5	(2.3)	小片	ヨコナデ・ ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆	表裏に黒炭土散布。	A・C1・D・F1を含む。 A・C1・Dを含む。	良好 状態 やや不 良
30261	包含層(A3区) 埋層	土師器 土	15.4	(2.2)	小片	ヨコナデ ヨコナデ	Hae2.5YR5/4 Hae2.5YR5/4	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	表裏に黒炭土散布。	黒炭土散布が少ない。 A・Gを含む。	良好 状態
30262	包含層(A6区) 埋層	土師器 土	16.0	(3.0)	小片	ヨコナデ・ ヨコナデ	Hae2.5YR5/4 Hae2.5YR5/4	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	表裏に黒炭土散布。	黒炭土散布が少ない。 A・F1を含む。	良好 状態
30263	包含層(D区) 埋層	土師器 土	11.5	(2.9)	小片	ヨコナデ ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	黒炭土散布が少ない。 A・F1を含む。	良好 状態
30264	包含層 埋層	土師器 土	12.1	(2.8)	小片	ヨコナデ ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	黒炭土散布が少ない。 A・F1を含む。	良好 状態
30265	包含層(C4区) 埋層	土師器 土	18.9	(3.0)	小片	ヨコナデ・ ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	黒炭土散布が少ない。 A・C1・Dを含む。	良好 状態
30266	埋層	土師器 土	15.9	(2.7)	小片	ヨコナデ ヨコナデ	Hae2.5YR7/8 Hae2.5YR7/8	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	黒炭土散布が少ない。 A・C1・F1・Gを含む。	良好 状態
30267	包含層 埋層	土師器 土	7	(2.5)	小片	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	黒炭土散布が少ない。 A・C1・Dを含む。	良好 状態
30268	包含層(A6区) 埋層	土師器 土	11	(1.2)	約1/4	ヨコナデ・ハケ ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30269	包含層(A3区) 埋層	土師器 土	11	(1.0)	約1/4	ヨコナデ ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30270	包含層(B5区) 埋層	土師器 土	11	(1.6)	小片	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5YR7/6 Hae2.5YR7/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30271	包含層(B4区) 埋層	土師器 土	11	(1.3)	約1/6	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30272	包含層(F区) 埋層	土師器 土	11	(1.2)	小片	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30273	包含層 埋層	土師器 土	11	(1.3)	小片	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5YR7/6 Hae2.5YR7/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30274	包含層(A6区) 埋層	土師器 土	11	(2.3)	小片	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30275	包含層(A6区) 埋層	土師器 土	11	(1.8)	約1/6	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30276	包含層(B4区) 埋層	土師器 土	11	(2.0)	小片	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30277	包含層(B4区) 埋層	土師器 土	11	(1.6)	小片	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30278	包含層(A6区) 埋層	土師器 土	11	(1.9)	約1/6	ヨコナデ ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30279	包含層(A4区) 埋層	土師器 土	20.4	(4.8)	約1/4	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5YR7/6 Hae2.5YR7/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30280	包含層 埋層	土師器 土	21.0	(4.7)	約1/5	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5Y7/3 Hae2.5Y7/3	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30281	包含層(B5区) 埋層	土師器 土	18.0	(4.4)	小片	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5YR7/6 Hae2.5YR7/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30282	包含層(C6区) 埋層	土師器 土	18.7	(3.3)	約1/6	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5Y6/3 Hae2.5Y6/3	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30283	包含層(B6区) 埋層	土師器 土	22.2	(3.9)	約1/8	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5YR7/4 Hae2.5YR7/4	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30284	包含層(B5区) 埋層	土師器 土	20.0	(7.1)	約1/6	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30285	包含層(F3区) 埋層	土師器 土	50.1	(6.4)	約1/4	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5Y6/3 Hae2.5Y6/3	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30286	包含層(C1区) 埋層	土師器 土	30.2	(5.3)	約1/5	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30287	包含層(C1区) 埋層	土師器 土	28.4	(5.4)	約1/5	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30288	包含層 埋層	土師器 土	25.3	(7.4)	約1/4	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30289	包含層(A1区) 埋層	土師器 土	25.4	(8.0)	約1/5	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30290	包含層 埋層	土師器 土	24.9	(5.8)	約1/5	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30291	包含層(A4区) 埋層	土師器 土	26.6	(7.0)	約1/4	ヨコナデ・ケズリ ハケ・ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30292	包含層(A6区) 埋層	土師器 土	19.6	(2.3)	約1/5	ヨコナデ ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30293	包含層 埋層	土師器 土	14	(7.9)	小片	新緑ナデ 新緑ナデ	Hae2.5Y4/2 Hae2.5Y4/2	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態
30294	包含層 埋層	土師器 土	22.0	(12.5)	約1.5	ケズリ・ヨコナデ ケズリ・ヨコナデ	Hae2.5YR6/6 Hae2.5YR6/6	覆 覆	表裏に黒炭土散布。 表裏に黒炭土散布。	A・C1・Dを含む。	良好 状態

※1 土師器土に含まれる砂礫に関して、以下の略号を用いた。

A:石炭 B:半透明白色のメノウ色の石 C1:長方形の角閃石 C2:細かな角閃石 D:金色の輝石 E:片岩 F1:暗褐色粒状 F2:暗褐色粒状 G:自然砂礫 H:自然角閃石

※2 5段階に分けて記述した。もみい・軟質・やや軟質・やや硬質・硬質の順から硬くなる。

表8 縄文土器観察表

図番号	種類	部位	出土位置	胎土	焼成	片断		内面 観察
						調査	文様	
図43 1	縄文土器	漆黒胴部	103号溝南端	石英・角閃石・白色砂粒を多く含む。	良好・軟質	押型文様	押型文	丁寧なナデ
図43 2	縄文土器	漆黒底部	包含帯 (IV層、B区)	石英・角閃石を多く含む。	良好・軟質	ナデ後施文	具段?似よる施文	ナデ
図43 3	縄文土器	漆黒胴部	0425B区包含帯 (I層)	石英・角閃石を多く含む。	良好・軟質	ナデ後施文	具段?似よる施文	ナデ
図43 4	縄文土器	漆黒口縁部	E区包含帯 (IV層上層)	滑石細粒を多量に含む。	良好・軟質	糸痕跡後口縁部突帯 刷付け後施文	具段状工具による施文	工具ナデ
図43 5	縄文土器	漆黒?口縁部	M256ピット	石英・片岩・赤褐色粒を含む。	良好・軟質	ナデ	口縁部に2本のナデ 沈線、外周斜突文。	ナデ・指押さえ
図43 6	縄文土器	漆黒口縁部	包含帯 (III層、A5区)	石英・角閃石を含む。	良好・軟質	ナデ後ミガキ	口縁部に縦方向に連続 斜突文	ナデ後ミガキ
図43 7	縄文土器	漆黒口縁部	0625黒色包含帯 (I層)	石英・角閃石を含む。	良好・軟質	左上がり・横方向の糸 痕跡	無紋	丁寧なナデ仕上げでミ ガキなし
図43 8	縄文土器	漆黒?口縁部	65号土坑検出部 (I層、A区)	角閃石・白色砂粒を含む。	良好・軟質	ナデ後ミガキ	縦筋に沈線文。工具に よる	ナデ後ミガキ
図43 9	縄文土器	漆黒底部	黒褐色包含帯 (III層、B4区)	滑石を多く含む。	良好・軟質	糸痕跡後ナデ	無紋	糸痕跡後ナデ
図43 10	縄文土器	漆黒底部	包含帯 (III層、D区)	滑石を多く含む。	良好・軟質	糸痕跡後ナデ	無紋	糸痕跡後ナデ
図43 11	縄文土器	漆黒底部	黒色包含帯 (I層、A区)	片岩・角閃石を多く含む。	良好・軟質	ナデ	無紋	
図43 12	縄文土器	漆黒胴上部	209号ピット	石英・角閃石を多く含む。	良好・軟質	ナデ後施文	縄文施文の後沈線文。	工具ナデ
図43 13	縄文土器	漆黒口縁部	包含帯 (III層、B3区)	石英・角閃石を多量に含む。	良好・軟質	丁寧なナデ	口縁部押型沈線・縞 筋に3条+の押型文	工具ナデ後ナデ
図43 14	縄文土器	漆黒胴部	包含帯 (III層、A区)	石英・角閃石を多量に含む。	良好・軟質	ナデ後ミガキ	ナデ後ミガキとしてから 沈線文	ナデ後ミガキ
図43 14	縄文土器	漆黒胴部・胴部	56号壜穴住居上層・包含帯 (III層、B区)	石英・角閃石を多く含む。	良好・軟質	ナデ後ミガキ	縦筋に沈線を6条+ の。	工具によるナデの後ナ デ
図43 15	縄文土器	黒褐色・胴部	包含帯 (I層)	石英・角閃石を含む。	良好・軟質	ナデ後ミガキ	横方向沈線2条・液状 沈線文1条	工具ナデ・指押さえ
図43 16	縄文土器	漆黒口縁部	包含帯 (III層、E区)	石英・角閃石を含む。	良好・軟質	ナデ・ミガキ	口縁部縦口縁で2条 沈線	ナデ後ミガキ
図43 17	縄文土器	漆黒口縁部	包含帯 (III層、B4区)	石英・角閃石を含む。	良好・軟質	ナデ後ミガキ	縞筋に2条の沈線	ナデ後ミガキ
図43 18	縄文土器	漆黒口縁部	139号壜穴住居内段取	石英・白色砂粒を含む。	良好・軟質	工具ナデ	無紋	ナデ後ミガキ
図43 19	縄文土器	漆黒口縁部	既包含帯 (IV層上層、D区)	石英・角閃石を含む。	良好・軟質	ナデ	無紋	ココナデ

(7) まとめ

最後に0425調査地点の要点を記す。

今回の調査で検出されたのは、縄文時代と古代の遺構・遺物である。遺構は古代の竪穴住居址30軒、掘立柱建物跡2棟、溝6条、ピット、土坑が検出された。

上記遺構では、一部を除き遺物の多くが覆土中の出土で、出土状況は決して良好とは言えないが、出土遺物をもとに、各遺構の時期について述べたい。

本報告では住居址出土土器の検討と、遺構の切り合い関係をもとに、I期～IV期の4時期区分を試みた。

I期は、古相・新相の細分が可能で、74号竪穴住居址が本調査区では最古の竪穴住居址と考えられ、313号・324号竪穴住居址も、根拠に乏しいが切り合い関係などにより、この時期に該当する可能性が考えられる。37号竪穴住居址もこの時期に該当する可能性がある。新相では、1号・218号・246号竪穴住居址が該当し、4号・5号・134号・198号・284号竪穴住居址もこの時期である可能性が高い。竈が検出された竪穴住居址で見ると、I期では住居址北壁に竈を有している。

II期には、35号・36号・128(北)号・133号竪穴住居址が該当し、切り合い関係から、192号・209号竪穴住居址もこの時期の可能性が高い。竈の位置は、北側に有するものが多いが、西側に有するものが混在するようになる。また、36号竪穴住居址のみは東側に竈を有している。

Ⅲ期には、56号・90号・131号・132号・184号・215号竪穴住居址が該当する。なお、2号掘立柱建物跡は、時期決定の根拠を欠くが、132号竪穴住居址に先行するのでⅠ期ないしⅡ期である可能性が高い。Ⅲ期に該当する竪穴住居址も、Ⅱ期と同様、北側に竈を有するものと西側に竈を有するものが混在している。

Ⅳ期には、139号・200号・183号竪穴住居址が該当する。139号・183号住居址は竪穴住居址掘込みのコーナー部分に竈を有する。139号・200号住居址は調査区外にのびるため全形を知り得ないが、183号住居のように、竪穴住居址の床面積は減少する傾向が見られる。竪穴住居址居住生活様式の末期的状況を示すと考えられた。竈の設置箇所は、土器から推定される時期および切り合い関係から見ると、北側の竈のものに後出して西側に竈を有するものが出現し、竪穴住居址コーナー部分に竈を設置するものが後出する。

推定暦年代は、現在の編年観に照らせば、Ⅰ期の古相が7世紀後半～末に遡る可能性があるが、概ね8世紀初頭～前葉に、Ⅱ期が8世紀前半～中葉に、Ⅲ期が8世紀後葉～9世紀初頭に、Ⅳ期が9世紀前半に比定されよう。

なお、土器では包含層であるⅢ層出土の土器の中に、黒色土器や高台の高い埴などがみられ、9世紀後半～10世紀に比定される遺物も存在し、0425調査区内の竪穴住居址が廃絶された後も、調査区周辺での人々の生活が続いていることを示唆させる。

その他、古代の出土遺物で注目されるのは、石製榿の出土である。榿は度量衡に関わる遺物であり、官衙址などが周辺に想定される地域であることも含め、このような遺物が出土することは興味深い。また、須恵器では、自然釉や形態の特徴から、宇城地方産の可能性もあるものも多く出土している。

縄文時代では、本調査区内では遺構は未検出であるが、古代の包含層中から縄文時代に属する遺物が出土している。中には葬式など、これまで確認されていなかった時期の縄文土器もみられ、縄文時代早期末から縄文時代晩期までの連続する時期の型式が数点ずつ出土していることが注目された。

周辺には渡鹿貝塚や北久根山遺跡など、縄文時代後期に属する遺跡の存在が知られている。熊本大学黒髪地区でも縄文時代の遺物が出土することは知られていたが、縄文時代前期～中期などの時期も含めて、縄文時代を通した人々の生活の痕跡が認められたことは、遺物の量こそ少ないものの、大きな成果であった。

Ⅲ 情報ネットワーク館周辺での
発掘調査の概要
(0425・0525・0538調査地点)

本章では、情報ネットワーク館に関連して実施された立会調査のうち、発掘調査代替を行ったものについて遺構・遺物を報告する。なお、調査区の位置は図2を参照されたい。

なお、情報ネットワーク館関係では、本書で示したもののほかに、外構工事に伴う立会調査（0546地点）と、仮進入路設置工事（0508地点）、ぎ木補修工事（0550調査地点）を実施し、一部で包含層を下げて土師器・須恵器の小片を得たが、図化可能な遺物や遺構の検出はなかったため、本書では省略する。なお概要は、2004年度・2005年度の年報（熊本大学埋蔵文化財調査室年報11・12）に詳しいので、そちらを参照されたい。

1. 情報ネットワーク館事前工事に伴う立会調査(0425調査地点・図45)

(1) 調査の目的

本調査は、情報ネットワーク館新営工事に伴う発掘調査に先立ち、既設配管替え・樹木移植を行うために実施した立会調査である。なお、継続して本調査を実施したため、調査番号は情報ネットワーク館建設地点と同じ0425となっている。

(2) 調査員・参加者

檀佳克・森川征子、森川慶、森田登。（敬称略）

(3) 調査の経過と概要

調査は2005年2月1・7～9日に工事掘削会社のもと実施した。うち、遺物包含層を掘削したのは、電気・水道管替えに伴う掘削であるA地点のみである。A地点は図書館駐車場の、黒髪北地区南端部にあたる箇所を東西方向に掘削を行い、深さ80～90cmで古代の遺物包含層である黒褐色混砂土（10YR2/2、II章の0425調査地点報告のIII層に該当）を検出した。更に10cm程包含層を下げる必要があったため、発掘調査に切替えて包含層を下げ、土師器・須恵器の小片が出土している。

また、掘削区東西端のハンドホール設置部分では、深さ150cmまで掘削を実施し、包含層下位の遺構面（IV層に該当）まで掘削が達したが、遺構は検出されなかった。



図45 情報ネットワーク館事前工事掘削区土層図 (S=1/40)

2. 情報ネットワーク館設備工事に伴う発掘調査 (0525地点)

(1) 調査の目的

本調査は、情報ネットワーク館設備工事として、污水配管を新設する工事に伴い立会調査を実施したものである。

(2) 調査員・参加者

榎佳克。

今村明美、児玉洋平、林貴暢、林田恵子、早田咲百合、福田久美子、堀川貞子、桃井哲夫、森川征子、森川護、森田登（敬称略）。

(3) 調査の経過と概要

黒髪北地区南端の赤門東側付近を、保健管理センター棟に沿って東西方向に掘削を行なった（位置は図2を参照）。調査区中央部分は配管等により攪乱を受けていたが、調査区西側では地表より120cmの深さで黒色混砂土層（10YR2/2・古代の包含層で、0425調査地点のⅢ層に該当する）を検出し、同層を東側では深さ90cmで検出した。包含層上面では遺構は未検出である。掘削区の東半部分は、工事に必要な深度が浅く、遺跡保存の措置をして掘削を終了した。掘削区西半部分では、施工に深い掘削が必要であり、包含層下位まで大きく掘削する必要が生じたので、発掘調査を実施した。黒色混砂土層を下げた後に、その下層（10YR4/3黄褐色混砂土層）上面で精査を行った。ピットが8基検出されたが、調査の結果すべて樹痕であると判断された。遺物は、縄文土器・土師器・須恵器が包含層より出土している。うち、図示出来た3点を示す（図46）。1は縄文土器で、外面口縁部付近には貝殻によると思われる縦方向の沈線文が施されている。縄文時代後期か。2は土師器の底部で、3は赤焼けの須恵器蓋である。

12月には、情報ネットワーク館への配管接続のため、東端の南北方向の掘削箇所で行会調査を行なった。深さ75cmで古代の遺物包含層（10YR2/1・黒色混砂土層）を検出した。排水枡設置部分のみ工事による影響があったので、包含層を掘り下げて数点の土器片が出土した。その下層（10YR3/4黄褐色混砂土、古代の遺構面）まで、あと数cmで到達するものと思われ、ピット状の遺構が2基検出されたが、施工に問題が無く、現状保存が可能であった為、砂を敷いて遺構を保護し施工するよう指示し、掘削を完了した。

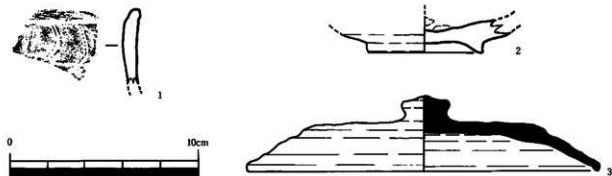


図46 0525地点包含層出土遺物実測図 (S=1/2)

3. 情報ネットワーク館設備工事（追加）に伴う立会調査（0538地点）

（1）調査の目的

本調査は、情報ネットワーク館設備工事で追加申請されたものであり、ガス配管、雨水枳設置に伴う立会調査である。位置は図2を参照されたい。

（2）調査員

榎佳克。

（3）概要と検出遺構・遺物（図47）

ガス配管設置では、附属図書館北側から学生会館に向かい東西方向、および図書館西側に南北方向に掘削した。掘削時に60cm程度の掘削を実施したが、包含層を検出することなく工事が完了している。

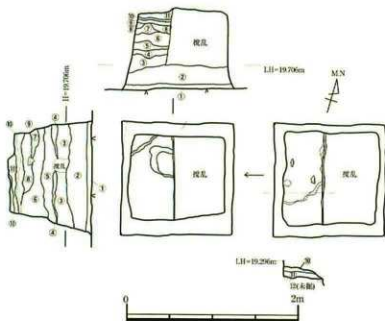
雨水枳設置に伴う掘削（現情報ネットワーク館西側排水枳設置箇所）では、0425調査地点西側に隣接して3箇所を枳設置のため深掘りしており、配管部分は25cmの掘削を実施し、包含層には達していない。枳設置箇所は1m近い深さの掘削を実施している。うち、北側の枳設置箇所は図書館建設による攪乱の範囲内で包含層・遺構面の検出はなく、南側でも包含層まで達することなく掘削を完了したが、中央の枳設置箇所では包含層に達したため、調査を実施している。

中央部分の枳設置箇所では、包含層が深さ65cmで検出されたため、発掘調査を実施した。調査区は1.5m×1.5m幅で、深さ90cmまでの掘削が必要であった。調査区の東側半分は共同溝設置時の攪乱で破壊されている。包含層を下げると、黄白色の粘土塊が検出され、粘土を残しながらさらに下げると、住居床面と思われる硬化面が検出された。粘土部分は竈である可能性を想定して掘削を行い、下位より焼土と灰層を検出している。調査区内では、支柱などと思われるものは出土しなかった。

調査区内では硬化した床面が平坦に広がっており、壁面でも明確な燃焼面が確認できなかったため、竈本体の位置は調査区より西側に存在する可能性が高いと判断された。

なお、工事ではそれより下位までの掘削が必要であったため、さらに10cm程掘り下げを行っているが、地山面（0425調査区の基本土層Ⅳ層）に達し、竈穴住居址より下位の遺構・遺物の出土はなかった。

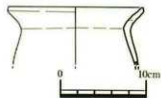
遺物は、竈穴住居址粘土部分から、土師器の破片が2点出土した。うち図化可能であった1点を示す。土師器の甕の口縁部片で、復元径からするとやや小型である。径の約1/5ほどが小片で残存している。内外面ともに橙色であるが、調整は残存が悪く詳細は不明である。下半部は不明であるが、胴部が張りやや下ぶくれ気味となる器形が想定される。出土状況からも、竈穴住居址に伴う可能性が高いと判断され、竈穴住居址の時期は8世紀前半であると思われる。



- ①-アスファルト層炭。
- ②-バウス層（アスファルト層表時）。西面はやや白色。東面は若干黒色のバウス層である。
- ③-②種の黒色泥砂土H0YR2-1・H0YR2-2の泥土層。器底面の引表土層である。ややしまりがあり硬い。掘削を受けており、古代〜現代の遺物を含む。
- ④-黒色泥砂土層H0YR2-2に、約1cm大の赤褐色のブロックを含む。ややしまりがあり硬い。掘削層。
- ⑤-黒褐色泥砂土層H0YR2-1。古代の遺物も含む。土層器や磁器器片を含む。
- ⑥-黒褐色泥砂土層（H0YR2-2）であるが、やや白く印象を受ける。古代の遺物も含む。土層器や磁器器片を含む。
- ⑦-黒褐色泥砂土H0YR2-2B7。④層の粘土ブロックや流土が混じる層。しまりはなく、やわらかい。
- ⑧-明褐色粘土土層H0YR6-8B。やや硬くしまっている。磁材の粘土と思われる。
- ⑨-黒褐色泥砂土H0YR2-1Bであるが、やや白い印象を受ける。しまりはなく、やわらかい。流土や泥化層。浜が混じる。
- ⑩-黒褐色土層H0YR2-2B。やや硬く硬化している。型穴層の硬面と思われる。
- ⑪-暗褐色粘土H0YR2-4Bのブロックと黒褐色泥砂土H0YR2-2Bの泥土層。あまりしまりはなくやわらかい。
- ⑫-暗褐色粘土層H0YR2-3B。古代の遺物層であり、基壇である。



住居検出状況（東より）



出土土器

図47 0538地点樹部分調査区土層図と出土土器

IV 末文

IV 末文

以上、情報ネットワーク館建設に係る埋蔵文化財の発掘調査に関し報告を行った。黒髪キャンパス北地区では、現在まで大規模な建物建設等に関わる発掘調査例は少なく、立会調査等で断片的にしか判明していなかったのであるが、今回の情報ネットワーク館関連の発掘調査により、改めて黒髪北キャンパスには遺跡が良好な状態で埋蔵されていることが確認された。

0425調査地点および0538調査地点で検出された古代の集落址は、堅穴住居址・掘立柱建物跡等からの出土遺物より、7世紀末から9世紀前半に時期比定される。これは黒髪北地区北東端に所在する、くすのき会館建設時の発掘調査（黒髪北地区9407調査地点、小畑編2003）で検出されている堅穴住居址や、その他の遺構の時期と大差なく、少なくとも黒髪北キャンパス東半に当該時期の集落が広がり、その時期の遺跡が埋蔵されている可能性は非常に高いといえよう。

また、既往の調査成果を含めると、正字「國」銘の土製印（黒髪南地区9412調査地点・小畑編2003）や、刻書土器「馬」（9407調査地点、小畑編2003）、今回の0425調査地点出土の石製権など、一般集落とは様相を異にする、官衙・駅家との関連を示唆する遺物も出土している。遺構でも、黒髪南地区の0204調査地点で検出されている道路状遺構（大坪編2003）など、古代において黒髪地区が交通の要地であったことを示唆するものである。このように、熊本大学黒髪地区には、熊本の古代を探るうえで重要な遺跡が埋蔵されていると言える。

また、0425調査地点・0525調査地点で出土した縄文土器や石器は、この地が縄文時代においても、人々の生活の場として機能していたことを示すものである。情報ネットワーク館関連の調査では、古代の遺物とともに出土し、出土状況は決して良好なものではなく、また縄文時代の遺構は検出されなかったが、縄文時代の各時期の土器型式が出土している状況をみれば、黒髪北キャンパスの地下に縄文時代の遺構が存在する可能性も十分に考えられる。

さらに、黒髪南地区では弥生時代の甕棺墓地も検出されており、縄文時代・古代に限らず各時代の遺構・遺物が埋蔵されている可能性は高い。

今回の情報ネットワーク館関連の発掘調査では、黒髪キャンパスに広がる遺跡の一端が明らかになったにすぎず、遺跡の全容解明は今後の調査成果に期待される所であるが、本調査報告が将来的に、黒髪町遺跡群の解明に資する所があれば幸いである。

【参考・引用文献】

- 網田龍生 1994「奈良時代 肥後の土器」『先史学・考古学論究』197～254頁 龍田考古会
大坪志子編2003「Ⅱ-2 0204調査地点」『熊本大学埋蔵文化財調査室年報9』9～24頁
熊本大学埋蔵文化財調査室
小畑弘己編2003『熊本大学構内遺跡発掘調査報告1（1994・1995年度）』
熊本大学埋蔵文化財調査室
木下 良 1975「肥後国府の変遷について」『古代文化』9-27、1～19頁 古代学協会
木下 良 1995「肥後の古代交通路」『火の国の原像』第10回熊本地名シンポジウム記録、13～35頁
吉田正一編1994「大久保遺跡」熊本県文化財調査報告書第143集 熊本県教育委員会

写 真 图 版



写真1 調査前風景(南より)



写真5 1号竪穴住居址竈遺物出土状況(南より)



写真2 一次掘削風景(西より)



写真6 1号竪穴住居址竈燃焼面検出状況(南より)



写真3 包含層(Ⅲ層)検出状況(東より)



写真7 1号竪穴住居址竈東側検出の大礫(南より)



写真4 1号竪穴住居址(南より)



写真8 37号竪穴住居址遺物出土状況(南より)

図版 2



写真9 37号竪穴住居址電検出状況(東より)



写真13 4・5号竪穴住居址遺物出土状況(北より)



写真10 37号竪穴住居址電支柱検出状況(南東より)



写真14 36号竪穴住居址(東より)



写真11 4号竪穴住居址(南より)



写真15 36号竪穴住居址電検出状況(西より)



写真12 4・5号竪穴住居址東西土層(北東より)



写真16 36号竪穴住居址電遺物出土状況(西より)



写真17 198号竪穴住居址 (西より)



写真21 101号竪穴住居址 (南西より)



写真18 35号竪穴住居址遺物出土状況 (西より)



写真22 209号竪穴住居址 (南より)



写真19 35号竪穴住居址西壁ビット鉄鏝出土状況 (東より)



写真23 133・134号竪穴住居址完掘状況 (南より)



写真20 35号竪穴住居址土師器出土状況 (北東より)



写真24 133号竪穴住居址竈検出状況 (東より)

図版 4



写真25 134号竪穴住居址竈(東より)



写真29 131・132号竪穴住居址(上より、下が南)



写真26 183・184号竪穴住居址検出状況(東より)



写真30 131号竪穴住居址床面下粘土検出状況(南より)



写真27 183号竪穴住居址遺物出土状況(北より)



写真31 139号竪穴住居址(南より)



写真28 184号竪穴住居址完掘状況(南より)



写真32 139号竪穴住居址西側焼土検出状況(東より)



写真33 200号竪穴住居址電検出状況（東より）



写真37 85号竪穴住居址（南より）



写真34 200号竪穴住居址遺物検出状況（東より）



写真38 85号竪穴住居址電検出状況（南より）



写真35 132号竪穴住居址（東より）



写真39 85号竪穴住居址電検出状況（南より）



写真36 132号竪穴住居址電検出状況（東より）



写真40 98号竪穴住居址完掘状況（南より）



写真41 128号竪穴住居址 (南より)



写真45 246号竪穴住居址竈完掘状況 (南より)



写真42 128号竪穴住居址北竈検出状況 (東より)



写真46 246号竪穴住居址竈支柱検出状況 (東より)



写真43 128号竪穴住居址西竈検出状況 (東より)



写真47 313号竪穴住居址検出状況 (南より)



写真44 246号竪穴住居址 (南より)



写真48 90号竪穴住居址 (南より)



写真49 56号竪穴住居址 (南より)



写真53 215号竪穴住居址電燃焼面検出状況 (南より)



写真50 56号竪穴住居址電検出状況 (南より)



写真54 218号住居址電付近遺物出土状況 (南より)



写真51 56・215・218号竪穴住居址 (南より)



写真55 192号竪穴住居址 (南より)



写真52 215号竪穴住居址電 (南より)



写真56 192号竪穴住居址電検出状況 (東より)



写真57 192号竪穴住居址竈粘土 (南より)



写真61 7号溝鉄鍬出土状況 (西より)



写真58 74号竪穴住居址 (南より)



写真62 103号溝完掘状況 (東より)



写真59 74号住居址竈 (東より)



写真63 103号溝西ベルト土層 (西より)



写真60 3・7・96・20号溝 (南より)



写真64 IV層上面縄文土器出土状況 (西より)



写真65 141号ピット土器出土状況（東より）



写真66 141号ピット土器出土状況（東より）



写真67 1号掘立柱建物跡（上より下が南）



写真68 1号掘立柱建物跡（南より）

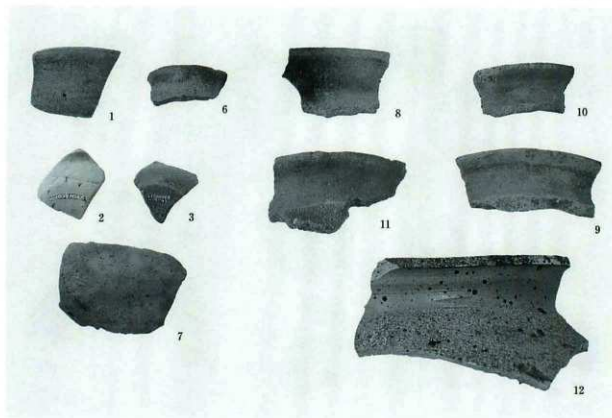


写真69 1号竖穴住居址出土土器

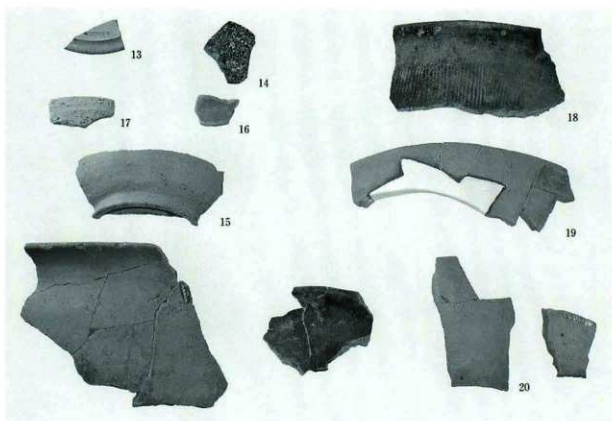


写真70 37号竖穴住居址出土土器

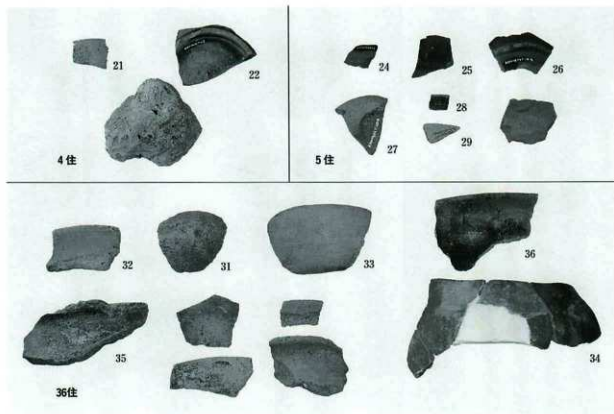


写真71 4・5・36号竪穴住居址出土土器

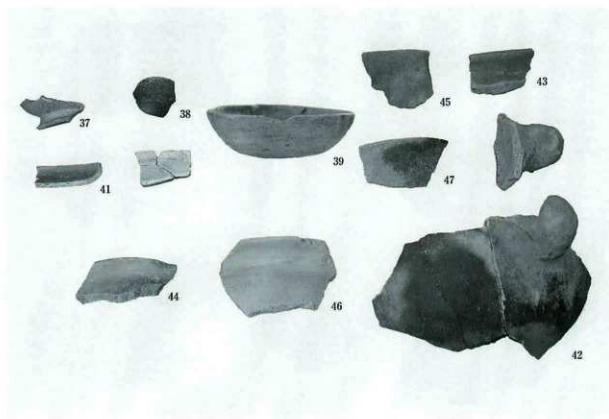


写真72 35号竪穴住居址出土土器

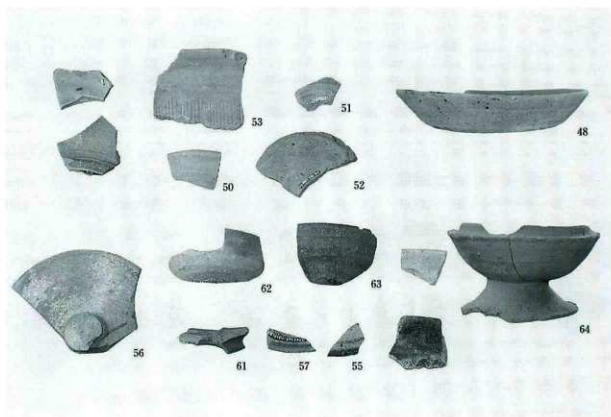


写真73 183・184・133・134号住居址出土土器

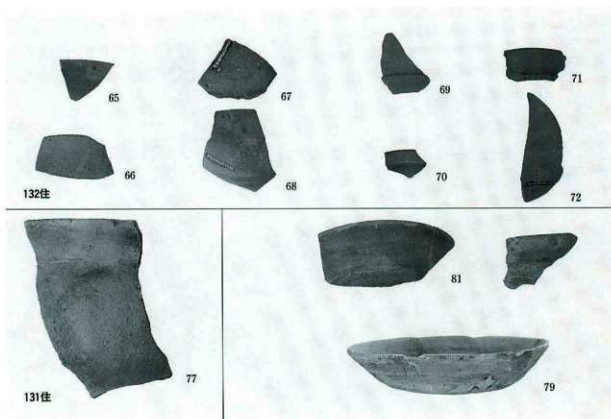


写真74 132・131・200号竪穴住居址出土土器

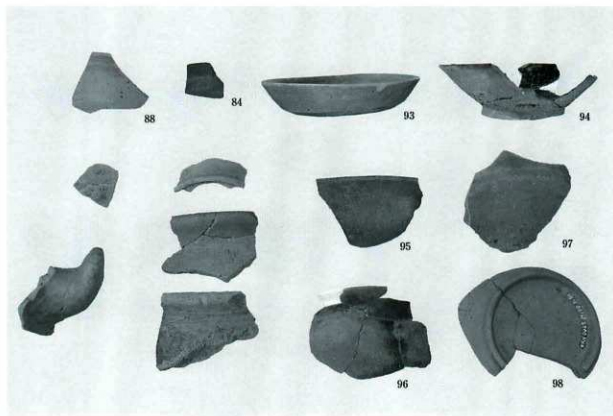


写真75 139号竖穴住居址出土土器

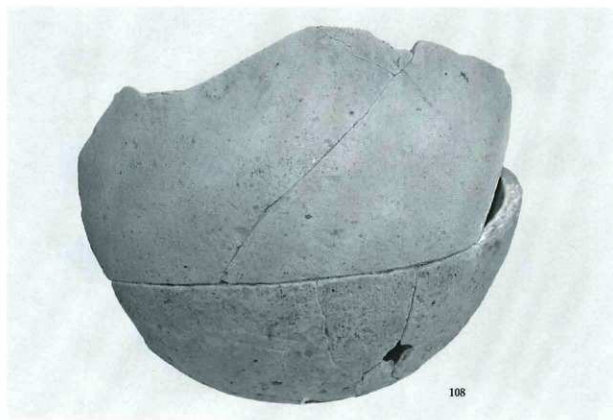


写真76 128号竖穴住居址出土土器

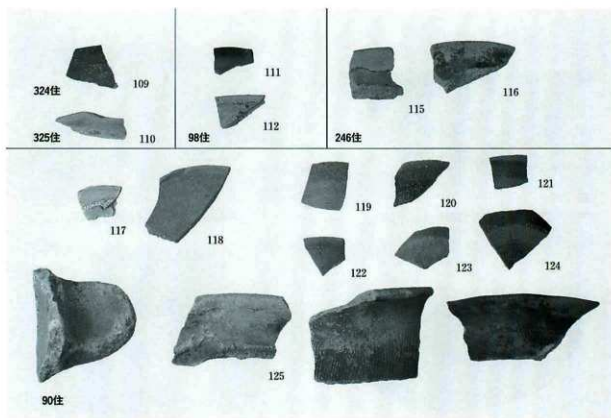


写真77 98・324・325・246・90号竪穴住居址出土土器

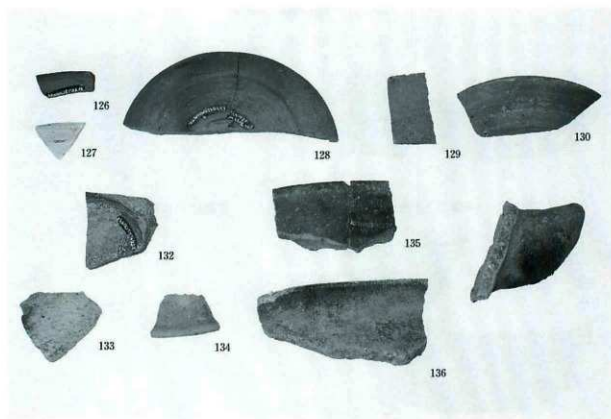


写真78 56号竪穴住居址出土土器



写真79 215号住居址出土土器



写真80 218号住居址出土土器



写真81 74号住居址出土土器

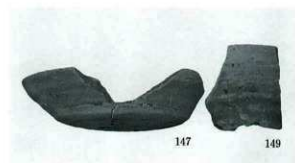


写真82 7号溝出土土器

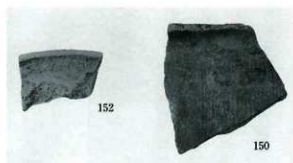


写真83 103号溝出土土器



写真84 101号住居址北侧出土土器

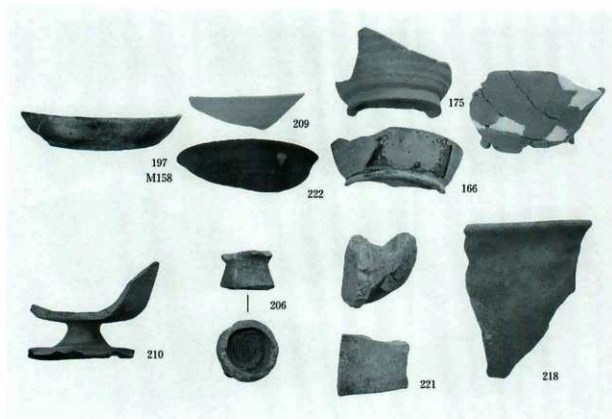


写真85 ビット・土坑出土土器

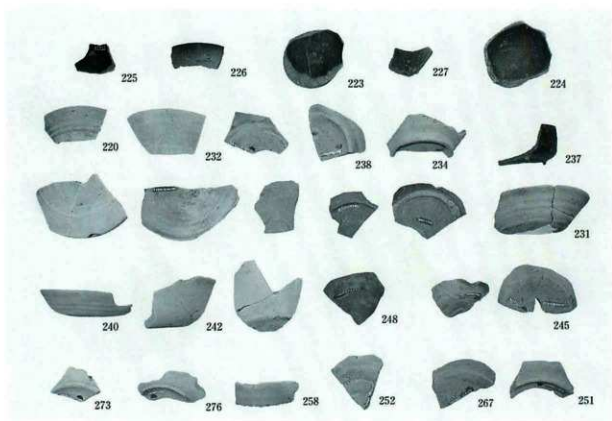


写真86 包含層出土土器（黒色土器・土師器・須恵器）

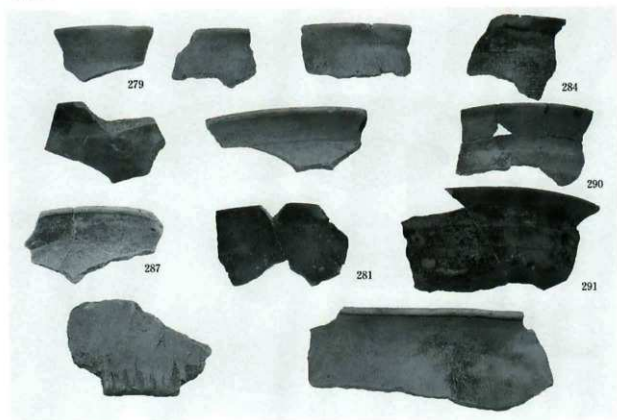


写真87 0425調査地点包含層出土土器（土師器）

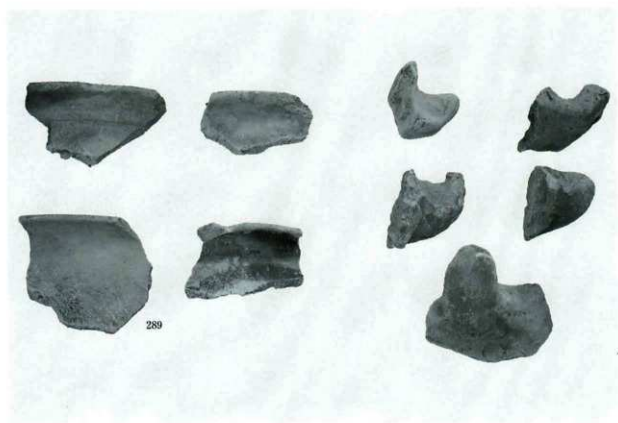


写真88 0425調査地点包含層出土土器（土師器）

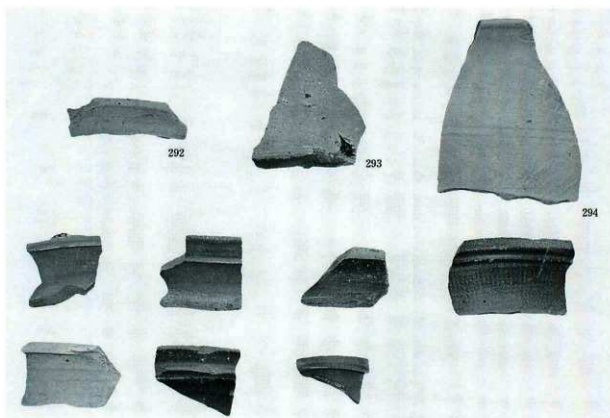


写真89 0425調査地点包含層出土土器(須恵器)

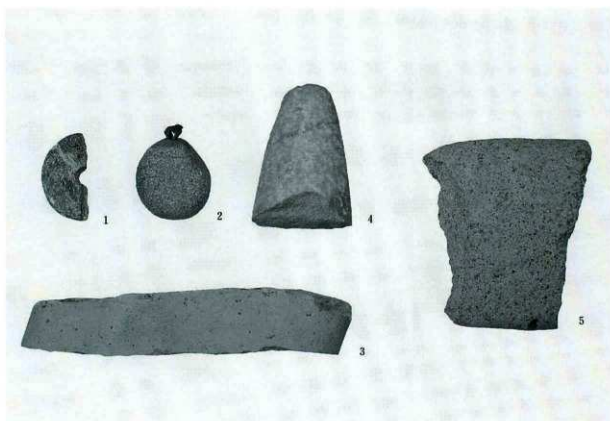


写真90 0425調査地点出土石器(古代)

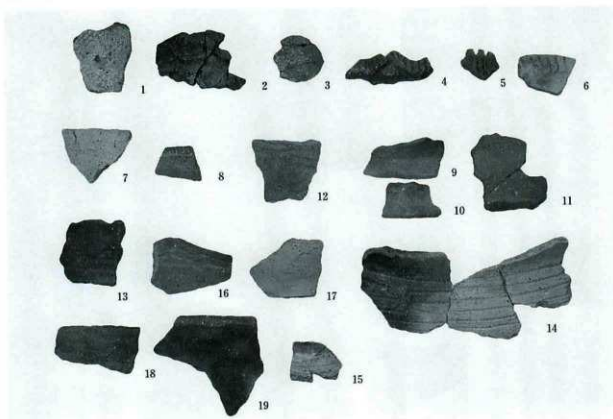


写真91 0425調査地点出土縄文土器

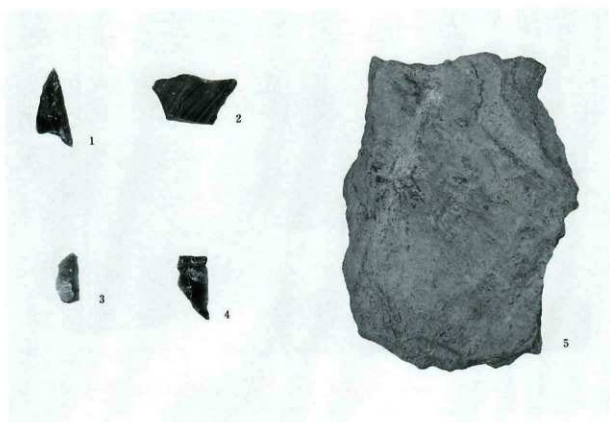


写真92 0425調査地点出土石器（縄文時代）

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくこうないせいきはくつちょうさほうこくⅢ							
書名	熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅲ							
副書名	黒髪北地区 情報ネットワーク館建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ号	第3集							
編著者名	櫻 佐克 (だん よしかつ)							
編纂機関	熊本大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2-39-1 TEL.096-342-3832 FAX.096-342-3832							
発行年月日	2007年3月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
黒髪町遺跡 (0425地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201		32° 48' 52"	130° 43' 40"	20050214 ～ 20050610	1,065.2㎡	学校敷地内の 開発事業に伴 う

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒髪町遺跡 (0425地点)	散布地 集落址	縄文時代早期～ 晩期・奈良・ 平安時代	竪穴住居址 30 掘立柱建物址2 溝 6	縄文土器・石鏃・石斧・ 土師器・須恵器・鉄器・ 砥石・石椎	
黒髪町遺跡 (0525・0538・ 0546地点)	散布地 集落址	縄文・奈良・ 平安時代	竪穴住居址の一部1 (0538地点)	縄文土器・土師器・須恵器	

※座標は世界測地系による。国土地理院ホームページの地図検索システムより得たものであり、基準点測量によって得た値ではない。

熊本大学埋蔵文化財調査報告書 第3集
熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅲ
(情報ネットワーク館新館に関する埋蔵文化財調査報告書)

平成19年3月25日 印刷

平成19年3月30日 発行

編集・発行 熊本大学埋蔵文化財調査室
〒860-8555 熊本県黒髪2丁目39-1
TEL 096(342)3832 FAX 096(342)3832
印刷 シモダ印刷株式会社

